

八 中國關稅問題

601 昭和3年1月10日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）
南北代表關稅會議計画に關する堀參事官とエ
ドワーズの会談について

北 京 1月10日後発
本 省 1月11日前着

(1) 第一九号（極秘）
往電第九号ニ関シ

堀參事官カ往電第一六号ノ会談中「エドワーズ」ヨリ進ン
テ王克敏ノ報告ニ言及シタルハ既電ノ通ニシテ尚今回愈南
方政府ハ「エドワーズ」案ノ「ライン」ニ依リ關稅自主ニ
進ム第一步トシテ北方政府ヲシテ上海ニ南北双方ノ代表ヲ
以テ税率ヲ議スル會議ヲ提唱セシムル事ニ同意シ王克敏カ
右南方ノ意向ヲ北京政府ニ取次ク事トナリタレハ自分ハ南
下ノ上此ノ會議ノ下相談等モ試ムル計画ナル事並ニ右會議
ハ岸本ヲ南方ノ副總稅務司トシテ之ニ當ラシムル私案ナル

事ヲ語リタルニ付堀ハ右會議事務ハ南方副總稅務司ニ付与
セラルヘキ唯一ノ權能ト見ルヘキモノナルカ夫レトテ今日
ノ支那政情ノ下ニ於テ關稅自主ヲ促進セントスル衝ニ当ル
事ハ岸本ヲ相当窮地ニ陥ルモノト思惟スト述ヘタルニ支
那ヲ永久ニ五分税率ニ拘束シ得ストノ同人ノ持論ヲ担キ出
シ且關稅會議失敗ノ原因ハ各國夫々ノ要求カ満足セラレサ
リシ事勿論ナルカ其中日本ニ關シテハ債務整理案ノ不成立
カ主ナルモノト承知スレハ改メテ日本ノ満足スヘキ債務整
理案サヘ出来ルナラ日本トテモ關稅自主ニ反対スルヲ得サ
ルヘシ貴見如何ト問ヘルニ付堀ハ如何ニモ債務問題カ會議
蹉跌ノ一難点タリシ事ハ否ム能ハサルモ會議停頓ノ真因ハ
支那ノ不始末ナル政状カ各國ヲ絶望セシメタルニ依リ而シ
テ其政状ハ一年半後ノ今日更ニ悪化シ

仮令南北ノ會議ニ於テ如何ナル結果ヲ得ルモ夫カ軍閥ノ私
囊ヲ肥ササル限り彼等ハ満足セサルヘク從テ正規ノ増税ヲ
以テ不規則ナル誅求ヲ止メ得サルヘシスル明白ナル事情ノ
下ニ於テ貴下カ態々南下シテ會議ノ促進ヲ図ラルハ極言

上海へ転電セリ

編注 昭和期I第一部第一卷七〇二文書別電参照。

602 昭和3年1月17日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

南北代表關稅會議の開催および無担保債務整
理に關し南北政府合意の旨の王克敏の談話に
ついて

付記 二月九日稿

「南北代表關稅會議ニ對スル亞細亞局私見」

〔エドワード〕ノ昨年九月ノ原案ハ相違有リ往電第九六一
号参照）一方債務整理他方諸政費ニ充テ其ノ間ニ國定税率
ヲ審議セハ可ナルヘシ而シテ債務整理案ニ關シテハ關係各

國間ニ別ニ會議ヲ開クヘキモノト思考スト答ヘタリ關稅會議

議ニ於テ各國カ主義的ニ承認セハ關稅自主ノ時機ニ接近セ
ル今日支那側ニ此ノ種ノ運動カ擡頭スルハ固ヨリ當然ノ開

ニ属スルカ故ニ之ニ對スル政策ハ夙ニ御考究アラン事ヲ希
望ス又岸本ノ副總稅務司問題ニ關シテモ支那側ノ本件南北
會議計画ヲ考量ノ内ニ入レ我態度ヲ決スル事然ルヘキカト

存ス

キタルコトアルモ詳細ノコトハ承知セスト答ヘタルニ王ハ
今回上海ニ赴キタル際免モ角今日迄維持シ来リタル海關制
度ヲ支那側ニ充分ノ準備ナクシテ引受ケ之ヲ破壊スルコト
ハ支那及外國ノ損害ニシテ財政整理上多大ノ障害ヲ來スヘ
キ旨ヲ蔣介石、宋子文等ニ述ヘタルニ南方側ハ前記「エ」
ノ条件ニ同意ヲ表シ南北双方ヨリ委員ヲ派シ會議ヲ開催ス
ルコトニハ異議ナキコト明トナレリ又無担保借款タル内外
債整理ニモ異議ナシ尤モ其金額等具体案ニハ言及セサリシ
カ南方カ右ニ同意スルニ至リタル原因ハ

往年ノ関税會議ハ北方丈ノモノナリシト南京政府成立以来
二分五厘付加税ヲ担保トシテ約七千万元（最近発行セント
スル一千六百万元ノ公債ヲ含ム）ノ公債ヲ發行セルニ対シ

南京政府ノ信用上ニモ之等公債ノ償還ヲ確定ナラシムル必
要ニ迫ラレタルカ為ナリト語リタルニ付本使ハ「エ」ノ例
ハ兎モ角日本政府ノ支那関税問題ニ對スル方針トシテハ關
稅自主権ヲ認ムル条件トシテ先ツ互惠税率協定ヲ作り又全
體會議ノ節ハ一九二九年国定税率実施迄ニハ尚二年半アリ
シニ付其ノ間ニ中間的税率ヲ定メ無担保借款ノ外債整理等
ヲ実行スル事等ヲ条件トシテ會議ヲ進行セシメタルモノナ

ルニ不幸會議ハ途中ニテ頓挫シ爾來一年半ノ間ハ支那ノ実
行スヘキ事項ハ内乱ノ為何等實行セラレス準備事項モ遂ニ
準備スル機會無ク余ス処僅ニ一年トナリタルハ誠ニ遺憾ナ
リ日本政府ノ方針ハ從前ト今尚變化ナキモノト認ムルモ重
要問題ニ付尚篤ト考慮スヘシト申聞ケタル處王ハ自分ハ目
下当局者ニ非サルカ故ニ責任ヲ以テ御話出来サルモ政府ト
モ商議シ確カナル話合纏マリタル上ハ更ニ本使ニモ相談シ
意見ヲモ承ハリタシト述ヘタルヲ以テ本使之ヲ了承セリ
上海へ転電セリ

編注 昭和期I第一部第一巻七〇二文書別電参照。

（付記）

支那関税會議ニ付スル亞細亞局私見

（昭和三年二月九日稿）

一、總稅務司代理「エドワード」ノ南北關稅會議開催案ニ
對シテハ南北両政府側ニ於テ大体異議ナキモノノ如ク同
會議開催ノ運トナルヤモ知レサル處關稅問題ニ付テハ南
北大体其ノ利害ヲ一ニスルカ故ニ政治的対立ノ形勢ニ拘
ラス同會議ハ何等カノ具体的結果ニ達スヘキ見込ナシト

セス而シテ同會議ニ於テ南北意見ノ合致ヲ見ルニ於テハ
其結果ニツキ如何ナル方法ヲ以テ列國ノ承認ヲ求メムト
スルヤ其ノ予想シ得ヘキ方法トシテハ一ハ關稅會議ノ再
開ヲ提議スルコトニシテ一ハ各國政府ニ付シ各別ニ承認
ヲ求メムトスルコト之レナリ

二、南北關稅會議ノ結果ハ固ヨリ之ヲ予測シ難キモ曩ニ
「エドワーズ」カ南北両政府ニ付スル覚書中ニ於テ關稅

自主ニ至ルヘキ階梯トシテ

(イ)二分五厘五分付加税ヲ列國ニ承認セシムルコト

(ロ)輸入税一律一割二分五厘又ハ輸入付加税トシテ二分
五厘乃至二割二分五厘差等税率実施

(ハ)国定税率ノ実施

ノ順序ヲ提案セルニ鑑ミ大体右ノ具体案ニ依リ自主権回
復ヲ行フコトニ南北間ノ意見一致ヲ見ルモノト仮定シ我
方ノ態度ヲ研究セムニ二分五厘五分ノ付加税ニ付テハ日
本トシテハ今日迄右付加税ノ目的条件ノ協定無シトノ理
由ニ依リテ之レカ納稅ニ反対シ來リ大連稅關ニ於テハ今
尚ホ全然之レヲ納付セス大連以外ノ各地ニ於テモ抗議付
ニテ之レヲ納付シ居レル実情ナレハ目的条件ヲモ定メス

復ヲ行フコトニ南北間ノ意見一致ヲ見ルモノト仮定シ我
方ノ態度ヲ研究セムニ二分五厘五分ノ付加税ニ付テハ日
本トシテハ今日迄右付加税ノ目的条件ノ協定無シトノ理
由ニ依リテ之レカ納稅ニ反対シ來リ大連稅關ニ於テハ今
尚ホ全然之レヲ納付セス大連以外ノ各地ニ於テモ抗議付
ニテ之レヲ納付シ居レル実情ナレハ目的条件ヲモ定メス

シテ今更之レカ承認ヲ為スコトハ甚々困難ナリ加之「エ
ドワード」案ニ依ル第一段ノ措置トシテ二分五厘付加税
ノ正式承認ノミヲ求ムルコトトナレハ南方トシテハ各地
ニ於ケル二分五厘付加税ノ徵収カ稅關ニ依リテ正式ニ行
ハレルコトナル以外何等ノ変化無キモ北方トシテハ從
來徵収シ得サリシ大連ニ於ケル二分五厘付加税（此額約
二百万弗）ヲ徵収シ得ルコトトナリ新ナル収入ヲ増ス次
第ナレハ如此結果ヲ齋ス案ハ南方トシテ其儘承認スルコ
ト困難ナルヘシ此等ノ事情ヲ考察スルトキハ結局第一段
ノ措置ハ第二段ノ措置ト離レテ实行シ得サルヘキカ故ニ
我々トシテ此際研究スヘキハ此際支那側ヨリ一割二分五
厘ノ一律税若ハ七種差等税率ニ依ル徵収ヲ提議シ來リタ
ル場合如何ナル態度ヲ以テ之レニ応スヘキヤニ在リ

三、一昨年ノ關稅特別會議ノ際ニ於ケル日本結局ノ態度ハ
(イ)九千万元ノ增收ヲ得ルタメニ七種差等税率ニ依ル增
徵ヲ認メ(ロ)之レヲ不確定債務ノ整理、釐金整理及行政
費ニ使用セシメムトスルニ在リタルヲ以テ之等使途ニ對
シ満足ナル決定ヲ見ルニアラスムハ一割二分五厘ハ勿論
七種差等税率ト雖モ之レヲ承認スルコト難カルヘシ然ル

ニ前記ノ支途殊ニ其ノ割合ニツキテハ各國間ノ意見区々タルヘキニヨリ支那ト列國トノ各別ノ交渉ニ依リテ本件ノ急速ナル解決ヲ見ルコトハ極メテ困難ナルモノ有ルヘシ

四、從テ支那側トシテハ關稅會議ノ如キ何等カノ國際的會合ヲ催シ各國代表者ヲ一堂ニ会シテ之レヲ討議セムトス

ルノ方針ニ出ルコト想像ニ難カラス然レトモ現状ノ如キ支那混亂ノ狀態ニ於テ仮令南北代表者ヨリ關稅商議ノ會合開催方ヲ提議シ來ルトスルモ各國

ニ於テ容易ニ之レニ応諾スヘキヤ疑無キニアラサルノミナラス仮令各國ニ於テ之レニ応諾シ會合成立ンタリトスルモ各國主張ノ折合ヲ見ルニ至ル迄ニハ幾多ノ曲折ヲ経サル可カラスシテ結局短時日ニ成果ヲ收ムルコト至難ナルヘシ若シ上述ノ如キ事情ヨリ支那側ノ付加稅徵收ノ希望容易ニ実現スヘキ望無キニ至ラハ支那側トシテ果シテ如何ナル態度方針ニ出ツヘキヤ

五、吾人ノ想像スルコロニテハ右様ノ場合ニハ一割二分五厘ノ輸入稅カ若ハ一昨年ノ關稅會議ニ當リ日英米三国專門委員ノ間ニ略々意見ノ一致ヲ見タル中間稅トシテノ

七種差等稅率ヲ明年一月ヨリ一方的ニ徵收セムト企ツルコト有ルヘシ支那側ニ於テハ明年一月一日ヨリ關稅自主權ノ回復ヲ得ルコトニ列國ノ承認ヲ得居レリトノ主張ヲ為スモノナルモ期日極メテ切迫セル今日トシテハ其主張通り明年一月一日ヨリ國定稅率ヲ適用スルカ如キコト無カルヘク先ツ階段トシテ一割二分五厘ノ輸入稅若ハ七種差等稅率ノ實施ヲ企テ國定稅率ノ施行ハ自發的ニ一時之レヲ延期スト云フカ如キ方法ニ出ルモノト見ルコト至ナルヘシ

支那側カ右ノ如キ態度ニ出テタル場合各國トシテハ之レカ徵收ニ抗議スヘキモ支那側ニ於テ二分五厘付加稅ノ場合ニ於ケルカ如キ方法ニヨリテ強制徵收ヲ為サハ各國ニ於テ果シテ有効ニ之レニ対抗シ得ヘキヤ否ヤ大ニ疑有リ六、於之カ日本トシテハ支那側ヨリ各國ニ對シ關稅會議再開ヲ提議シ來レル場合(1)之レヲ拒絕シテ前項ノ如キ支那側ノ強制徵收ニ直面スルノ方針ニ出ツヘキカ將又(2)列國ト共ニ速カニ之レニ応シテ支那側主張ノ徵收ヲ「リーがライズ」シ以テ事態ノ紛糾ヲ阻止スルノ方針ニ出ツヘキカ

七、南北分立政狀混沌タル際ニ於テ關稅會議ノ開催ニ同意シ關稅ノ收入ヲ軍費ニ使用セシムルカ如キハ日本從来ノ主張ト相反スルヲ以テ此際ハ仮令支那側ヨリ關稅會議ノ開催ヲ申出テ來ルモ我方トシテハ之レニ応セス支那側ニ於テ二分五厘ノ場合ノ如ク強制徵收ヲ為シ來リ抗議付ニテ納付スルノ已ムナキニ至ルモ主義ハ主義トシテ何処迄モ維持シ居ルニ於テハ他日之レニ基キテ強キ主張ヲ為シ得ルノ時節モ來ルヘシ況シヤ英米両國ト雖モ今回ハ二分五厘ノ場合トハ異リタル態度ヲ執ルコト有ルヘシト信セラルル節無キニ非ルヲ以テ例ヘハ稅關カ專管居留地内若ハ共同居留地内ニ存スル地方ニ於テハ各國共同シテ正規ノ關稅ノミヲ領事館ニ供託シテ付加稅若ハ中間稅ノ付加ヲ免ルルコトヲ得サルニアラストノ論ハ固ヨリ傾聽ニ価ス

九、果シテ然ラハ日本トシテノ執ルヘキ態度ハ關稅會議ノ開催ニ応シ支那側ノ強制徵收ヲ阻止スルト同時ニ增加收入ノ一部ヲ適宜政費建設費釐金補償並ニ不確實債務整理ニ充當セシムル様仕向クルニ在リト信ス關稅會議ニ於テ考量スヘキ主要事項ハ稅率及使途ノ問題ニ外ナラス而シテ稅率問題ニ付テハ急激ナル增率ヲ避クルト同時ニ我方主要貿易品ヲ成ルヘク低率ニ止ムルノ趣旨ニヨリ(1)暫行稅率トシテ一律一割二分五厘ヲ實施スルコトハ我方ニ取リ不得策ナルニ付裏ニ關稅特別會議ニ於テ日英米三国委員間ニ大体ノ合意成レル差等稅率案ヲ基礎トシテ暫行稅率ヲ協定スルコトトシ且(2)國定稅率ト同時ニ實施セラルヘキ日支互惠稅率ニ付テハ出來得ル限り速カニ協定ヲ遂クルコトトスヘシ暫行差等稅率實施ニ依ル增收(仮ニ年

八、然レトモ翻テ考フルニ前項第一ノ場合ニ於テ支那側ハ其ノ増徵シタル收入全部ヲ彼ノ二分五厘ノ場合ノ如ク政費殊ニ軍費ニ費消シ不確實債務ノ整理トカ裁釐補償トカニハ少シモ之レヲ充当セサルヘキハ想像ニ難カラス又第二ノ場合ノ如キ各國ノ協調ハ日本トシテ最モ希望スルト

約九千萬元ト見積ルノ使途ニ付テハ大体之ヲ三分シ三
千萬元ヲ不確実債務整理、三千万元ヲ政費建設費、三千
万元ヲ裁釐補償ニ充当セシムルコト然ルヘキモ其ノ分合
ノ如キハ余リニ拘泥セサルヲ可トス

一〇、要之支那側ニ於テハ昨年一月一日ヨリ国定税率法ヲ
実施スルコトニツキ各国ノ承認ヲ得居レリトノ立前ヲ持
シ居ル一方二分五厘ノ付加税徵収ニ成功セル過去ノ経験
ヲ有スルヲ以テ各国ニ於テ関税會議ニ応セサルカ仮令之
レニ応スルモ種々ノ理屈ニ拘泥シテ急速ニ支那側ノ要望
ニ副ハサルカ如キ事態ヲ生スレハ一方的ニ明年一月一日
ヨリ何等カノ形ニ於テ関税ノ増徴ヲ行フヘキコト前述ノ
如クナルヲ以テ此際各国殊ニ日本トシテ特ニ注意スヘキ
ハ余リニ小節ニ拘泥シ會議ヲシテ理屈倒レニ終ラシメサ
ルコト之レナリ不確実債務ノ整理問題ノ如キ日本トシテ
ハ之ヲ重視セサルヘカラサル事情ニアルモ各国トノ関
係モアレハ或程度ニ見切ヲ付クルニアラサレハ徒ラニ会
議ヲ長引カシムルカ若ハ之ヲ不成功ニ終ハラシムルコト
トナリ結局所謂虻蜂取拉斯ニ終ルヘキニ付若シ會議開催
ト云フカ如キコトトモナラハ此点ハ深ク留意スヘキトコ

張競仁談話要領

一、最近「エドワーズ」ノ南下問題ニ伴ヒ各新聞ニ「エ」
ノ呈文ナルモノ（往電第一五六号参照）転載セラレ居ル
処右呈文ハ今回提出セラレタルモノニ非スシテ嘗テ昨年
七月（八月カ）中提出ノモノヲ最近政府側ニテ「エ」ノ南下問題ヲ
切掛ケニ発表シタルモノナリ

一、「エ」カ曩ニ該提案ヲ為シタルハ南方政府カ未タ「エ」
ノ地位ヲ承認セス動モスレハ税関ノ南北分立ヲ図ラムト
スル傾向アルニ対シ自ラノ地位ノ保障ト英國人ヲ本位ト
スル海關制度ノ維持トヲ図ラム目的ニ出テタルモノナル
處當時政府側ニテハ一種ノ研究案トシテ備案シ置キタル
カ今回本年一月末ヲ以テ「アグレン」ノ任期満了シ北京
政府ノ「エ」ニ対スル正式總稅務司任命ノ時期ニ達スル
ヤ突然南方ハ南方政府ノ承認セサル任命ハ無効ナリトノ
意向ヲ發表シ進ムテハ南方海關ノ獨立ヲ図ラムトスルカ
如キ態度ヲ示シタル為「エ」ハ一応南下ノ上南京當局ト
意思ノ疎通ヲ計ル必要ヲ認メ北京政府ヲ説得スル為再ヒ
前回ノ提案ヲ持チ出シ一、二五課稅ノ實行並之ニ依ル增
収ノ分配及關稅會議再開等南北両政府トモ歓迎シソウナ

約九千萬元ト見積ルノ使途ニ付テハ大体之ヲ三分シ三
千萬元ヲ不確実債務整理、三千万元ヲ政費建設費、三千
万元ヲ裁釐補償ニ充当セシムルコト然ルヘキモ其ノ分合
ノ如キハ余リニ拘泥セサルヲ可トス

一〇、要之支那側ニ於テハ昨年一月一日ヨリ国定税率法ヲ
実施スルコトニツキ各国ノ承認ヲ得居レリトノ立前ヲ持
シ居ル一方二分五厘ノ付加税徵収ニ成功セル過去ノ経験
ヲ有スルヲ以テ各国ニ於テ關税會議ニ応セサルカ仮令之
レニ応スルモ種々ノ理屈ニ拘泥シテ急速ニ支那側ノ要望
ニ副ハサルカ如キ事態ヲ生スレハ一方的ニ明年一月一日
ヨリ何等カノ形ニ於テ關税ノ増徴ヲ行フヘキコト前述ノ
如クナルヲ以テ此際各国殊ニ日本トシテ特ニ注意スヘキ
ハ余リニ小節ニ拘泥シ會議ヲシテ理屈倒レニ終ラシメサ
ルコト之レナリ不確実債務ノ整理問題ノ如キ日本トシテ
ハ之ヲ重視セサルヘカラサル事情ニアルモ各国トノ関
係モアレハ或程度ニ見切ヲ付クルニアラサレハ徒ラニ会
議ヲ長引カシムルカ若ハ之ヲ不成功ニ終ハラシムルコト
トナリ結局所謂虻蜂取拉斯ニ終ルヘキニ付若シ會議開催
ト云フカ如キコトトモナラハ此点ハ深ク留意スヘキトコ

ロト信ス

603 昭和3年2月8日 在中国芳沢公使より

エドワーズ總稅務司代理の南京行に関する張

競仁財政整理会委員長の談話について

機密第一三六号

昭和三年二月八日

（2月16日接受）

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉（印）

外務大臣男爵 田中 義一殿

「エドワーズ」南京行ノ内幕ニ閲スル

張競仁ノ談話要領報告ノ件

總稅務司代理「エドワーズ」南京行ノ内幕ニ閲シ一月四日
財政整理会委員長張競仁カ有野通訳官ニ為シタル談話要領

御参考迄別添報告ス

本信写送付先 上海

（別添）

事項ニツキ可然説得ヲ加ヘ頻リニ南方行ノ許可ヲ請求シ
一方南京政府財政部長トノ間ニモ一応ノ諒解ヲ取付ケタ
リ

右ニ對シ政府ハ当初反対シ「南京ニ行カハ拘留セラルヘ
シ」等子供騙シノ理由ヲ以テ「エ」ノ南下ヲ阻止セムト
シタルカ一面「ラムブソン」公使ヨリモ政府側ニ説ク所
アリ結局「ラムブソン」ト同道シ南京ニ行クコトニ承認
ヲ取付ケタル次第ナリ

一、元來現下ノ支那ノ状態ニテ一、二五稅ノ實施又ハ關稅
會議ノ再開等ハ財政的専門家ヨリ見ルトキハ可ナリ無謀
ノコトニシテ実現ノ可能性乏シク且無益ナルコトナルモ
現在南北當局者ハ何レモ此方面ノ智識乏シク且一面財政
上窮乏ノ極ニ達シ居ル為英國側ハ此ノ弱点ヲ利用シ南方
トノ間ニ当面ノ問題タル「エ」ノ地位ノ保障ヲ取付ケ同
時ニ現行稅關制度ノ維持ヲ図ラムトスルモノニシテ頗ル
狡猾ナル遺口ナルカ一般政府當局ハ別トシ潘復ノミハ此
ノ間ノ事情ヲモ洞察シ居ルモ之亦行詰レル現内閣ノ運命
ヲ延長セシムルニハ至極好都合ノ題目ナルヲ以テ兎ニ角
「エ」ヲシテ南方トノ交渉ヲ試マシムルコトトナリタル

次第ナリ

北京 2月29日後発

本省 2月29日後発

⁽¹⁾ 第二五二号（極秘）

往電二〇八号ニ閲シ

一、從来南京政府カ無条件関税自主ヲ主張シ動モスレハ南方圈内ノ海關独立ヲ企図セムトスルカ如キ態度ヲ示シ居ルニ対シ内外人共之カ実現ノ結果内外債ノ償還ニ支障ヲ來サムコトヲ恐ルモノ少カラサル處右ハ実情ヲ知ラサルニ基因スルモノナリ元來関税ヲ担保トスル内債ノ所持者約九割迄ハ南方ニ在リ又其ノ中大部分ハ上海ニ在ルヲ以テ仮リニ南方政府カ海關ノ分割自主ヲ実行シ内外債ノ担保ヲ無視スルモノトセハ其ノ影響ヲ受クルモノハ南方自身ニシテ其結果南方政府ハ收拾スヘカラサル財政上ノ恐慌ニ遭遇スヘシ之レ南方政府カ現行海關制度ニ反対シナカラモ今日迄之カ破壊的強行手段ニ出テサル主要ナル原因ナリ

604 昭和3年2月29日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

関税問題海關問題に関する南京政府との会談
内容についてのエドワーズの談話について

ル過渡弁法ヲ經テ関税自立ニ到達セントスル「エドワーズ」ノ提案ニ対シ南京政府當局ハ孰レモ案ノ内容ニハ同情シ唯軍閥（多分馮玉祥ナラン）方面ニ於テ北伐計画アル此際南北會議ヲ開ク事ニ反対ナル為メ自分ノ提案ヲ實現スル「プロセス」トシテハ南北會議ヲ廢メ南北ノ提案カ一致スル場合ハ別々ニ南北双方ヨリ列国ニ提出シテ其ノ贊同ヲ求ムル事ナリ南北ノ案ヲ突合ハスル為メ提出前再ヒ「エ」カ南下スル様依頼アリタリ

⁽²⁾ 「メー^ズ」カ請暇ヲ延期スル様南京ヨリ懲憲セラレタル件ニ閑シ黃郛カ「エ」ニ内話スル処ニ依レハ右ハ「メ」カ支那商業會議所ニ運動シテ會議所ノ希望トシテ南京ニ請願セシメタル結果ナリ

605 昭和3年3月6日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

関税問題に関する五国外交團非公式會議について

人）ヲシテ「エ」ト南京政府間ノ連絡ニ当ラシムル筈ナリ
以上南方トノ協議ノ内容ハ一切外部ニ漏ササル事ニ南方側トノ間ニ約束アル由尚岸本ノ印象ニ依レハ「エドワーズ」ノ南下ノ結果ハ世間ノ想像以上ニ「エ」ニ取り満足スヘキ結果ヲ齎シタルモノノ如ク本人甚^タ得意ナル趣ナリ
上海へ転電セリ

尚右伝言以外「エドワーズ」ノ談柄トンテ岸本ノ内報スル処左ノ如シ
一、七種差當率（七分五厘乃至二割七分五厘）ヲ内容トス

物ヲ任命シテ差支無キ南京側ノ意向ナルニ付「エ」ハ其際ニハ上海税關統計課長伊太利人「デルカ」ヲ上海ノ稅務司ニ任命シ同時ニ同稅關副稅務司「マイヤー」ヲ稅務司署ニ昇任セシメテ後者ヲシテ稅關ノ雜務ヲ掌理セシメ且ツ「エ」自分ノ南方ニ於ケル代表タラシムル考ナリ「メ」出發帰國以前ハ南京稅務司「ジョンストン」（英國

往電二五八号ニ閲シ
⁽¹⁾ 第二七七号（極秘）
五日首席公使來訪仏國公使ヨリ關稅問題ニ閑シ外交團會議開催方申出タリトテ六日開催ノ筈ナリシ五國公使會議ヲ五日ニ繰上ケ六日ニ外交團會議ヲ開催スルコトトシテハ如何

ト述ヘタルニ付本使之ヲ承諾シ五日日、英、米、仏、蘭五國代表者会合ス先ツ首席公使ヨリ本會議ハ全然非公式ニ意見ノ交換ヲナシタキ故其含ニテ極秘ニセラレタント前置アリタル後本使ハ新聞ノ報道ヨリ「エドワーズ」カ上海訪問ノ結果南北間ニ話纏リ北京政府ヨリ近ク外交團ニ対シ関稅問題ニ付徐々申出ヲナシ来ルヤニ見受ケラルル処本問題ニ付テハ「テクニカル」ノ处置以外政治上ノ見地ヨリ考慮ヲ要スル諸点アリト認メラルニ付我々數人ノ間ニ予メ意見ヲ交換スルコトハ極メテ有益ニシテ本国政府ノ考慮ノ資料トナルヘシト思考シ首席公使ニ対シ此會議ノ開催ヲ請求シタル次第ナリ右所謂政治的見地ヨリ考慮ヲ要スル問題ト認メラルル点ノ内一両日以来自己ノ脳裡ニ浮ヒタルモノハ例へハ

(一)現在ノ支那ノ政状ハ一九二六年七月三日ノ當時ノ政状ニ比シ幾分改善セラレタリヤ否ヤ

(二)若シ支那カ外國ノ同意ヲ経スシテ直ニ暫行稅率ヲ実施スルカ如キ場合ニハ如何ニ措置スヘキヤ

(三)内亂進行中ナルニ拘ハラス輸出入稅ヲ増加スルコトハ望マシキコトナリヤ

uniformly and without discrimination ナル語ノ意味ハ深長ニシテ夫レナラハ至極安全ナリト思ハル旨ヲ述ヘタルニ付

本使ハ斯ノ如キ時機ハ何日頃到来スヘキ見込ナリヤヲ反問セシニ英國代理公使ハ南北両政府一致シテ提議シ来ルトセハ其ノ時コソ即右ノ時機ニ到来シタルモノト認メサルヘカラスト応酬シタルニ付本使ハ然ラハ暫行稅率ヲ承諾シタル後ト雖外國品ニ対スル不法課稅即広義ニ於ケル釐金ノ賦課ハ南北何レノ地方ニ於テモ行ハルヘク其ノ結果外國貨物ニ對スル課稅ヲ稅關ヲ經テ一纏ニセムトスル英國政府ノ期待ハ全然裏切ラルニ非スヤト述ヘタル処首席公使ハ今迄ノ議論中支那内亂ノ安定セサル事ト内地ニ於ケル不法課稅ノ終熄セサル事ハ最明白ナルニ付本使ハ試ニ各代表者ニ対シスルカ如キ口吻ヲ洩シタルニ付本使ハ試ニ各代表者ニ対シ華盛頓關稅條約ハ廢棄セラレタルモノナリヤト質問シタルニ米国代表者ヲ初メ何レモ之ヲ否認シタルカ本使ハ尚日本カ關稅會議ニ於テ最重キヲ置ケルハ無条件ニテ關稅ノ增加

四支那ヲシテ條約改正ヲ商議セシムカ為此ノ際列國ヨリ平和勸告ヲ為スコトハ望マシキヤ否ヤ

(五)列國ニ於テ暫行稅率ニ同意シタル後直ニ又内亂統行スルカ如キコトナキ様保障ヲ取付クル必要ナキヤ等ニシテ本問題ニ關スル日本政府ノ意向ハ未タ全然承知セサルモ右本使一己ノ思ヒ付ニ対スル各位ノ意見ヲ承知スルヲ得ハ幸甚ナリト述ヘタル処右第一点ニ付テハ首席公使ヲ始メ仏代表者モ何等改善ノ跡ナキノミナラス寧ロ悪化セリト見做スカ如キ口吻ヲ洩シタリ第二点ニ付テハ種々意見交換ノ結果各代表者トモ昨年上海ニ於ケル例ニ倣ヒ領事館ニ正稅ヲ供托スル外致シ方ナカルヘントノ意見ニ一致ス第三乃至第五ノ点ニ付テハ英國代理公使ハ本使トノ間ニ応答議論ヲ戰ハシタルカ同代理公使ノ説ハ要スルニ英國政府トシテハ一昨年十二月十八日ノ覚書ニ依リ世間ニ対シ既ニ「コンミット」セルカ故ニ右覚書ニ表明セラレタル政策ニ準拠スル外ナク即チ支那全國ヲ通シ uniformly and without discrimination ニシテ且稅關ヲ經テ徵收スルコトトナル場合ニハ英國ハ暫行稅率ノ実施ニ反対セサルヘシト云フニアリ右ニ対シ首席公使始メ仏米代表者ハ右論アリタリ

存ス從テ首席公使ハ意見交換ノ結果大ニ判明シタル点モアリ頗ル有益ナリシトテ各代表者ニ感謝シ尚外交團會議ハ支那側ヨリ提議ニ接シタル上開催スル事ニ諒解ヲ遂ケタリ将又上海ノ例ニ依リ領事館ニ供託スル事ニ付テハ北方ニ於ケル貿易ハ主トシテ天津ヲ經テ行ハル故天津ニ於ケル日、英、米、仏領事ニ對シ各関係代表者ヨリ極秘ニ正税供託ニ關スル實際上ノ便宜ニ付意見ヲ徵スル事トナレリ~~~~~

606 昭和3年3月9日 在中國芳沢大使より
田中外務大臣宛（電報）

中国関税問題に対する米国の態度に関するマ

イヤー米国代理公使の談話について

第二九四号

三月八日米国代理公使「マイヤー」ハ堀參事官ニ對シ支那側ノ増税提案ハ米国トシテハ上院ノ承認ヲ必要トスルモノナル處上院ノ對支意見ノ比較的「リベラル」ナル事實ニ鑑ミ米国カ要求スヘキ条件ハ増税提案カ支那国民ヲ代表スル

607 昭和3年3月10日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

暫行税率、関税自主権回復問題に対する対応
方針につき意見具申

北 京 3月10日後発
本 省 3月10日後着

第二九七号（極秘）

関税問題ニ關スル當國ニ於ケル最近事態ノ發展ハ大体累次ノ往電ニ依リ御承知ノ通ニテ右ニ付テハ既ニ篤ト御詮議ノ次第ト察スル處往電第二八二号大元帥令ヲ案スルニ只單ニ大正十四年十一月十九日決議案ノ前半即チ自主権回復ノ点ノミニ言及シ其ノ後半即チ支那側ノ義務タル釐金ノ廢止ニ付テハ全然之ヲ閑却シタルカ如キ態度ヲ表ヒタルハ不誠意ノ甚タシキモノニシテ遺憾無ク支那国民性ヲ反映スルモノト謂フヘシ（尤南京政府ニ於テ右大元帥令ヲ如何ニ處理スルヤ其ノ態度ニ至リテハ未タ明白ナラサルモ恐ラクハ南京政府ニ於テモ其ノ趣旨ニ對シテハ異存無カルヘキモ同政府ノ立場乃至面目上ヨリシテ表面ハ明白ニ同意ヲ表スル事無カルヘキヤニ想像セラル）而シテ本問題ノ全般ニ亘リテ考

(1) 第二九七号（極秘）

慮スルニ御承知ノ如ク帝國政府ニ於テハ從來二分五厘付加税ニ關スル関税會議又ハ外交團會議ニ於テ提議ノ上相当ナル条件ヲ協定シテ承認セントスル御意見ナリシカ故ニ更ニ遙ニ高率ナル暫行税率若ハ國定税率ノ施行ニ對シテハ日支ノ特殊ナル通商關係ニ鑑ミ英國ノ如ク殆ト無条件ニテ支那ノ要求ニ應スル事ハ到底不可能ナルヤニ認メラル從テ暫行税率ニ付テハ關稅會議當時ト今日トハ多少時勢ノ變化有ルニハ相違ナキモ

(2) 我方トシテハ關稅會議ノ當時ニ於ケル条件例ヘハ關稅增收中ヨリ釐金廢止保障、整理公債費用、鐵道予備資金、行政費及建設費等全部ノ支出ヲ主張セサル迄モ少クトモ其一部ノ支出ハ今回モ亦条件トシテ之ヲ提出スルコトハ已ムヲ得サルヘキヤニ思考セラル唯釐金撤廢ノ如キハ昨年往電第一一七六号英國公使所言ノ如ク今日ノ政狀ニ於テハ支那官憲ヲシテ斷行セシムルカ如キハ固ヨリ望ムヘカラサルコト（編註）ニハ相違ナキモ（昨年上海總領事堯閣下宛往電第八三一号伍朝枢カ本使ニ對シ釐金ヲ一日ニテ撤廢シ得可シト述ヘタ

ニ於ケル釐金ニ属スルモノナルカ之等不法課税ニ対スル防
止策ヲ講セシテ暫行税率若ハ自主権回復ニ同意スルニ
テハ将来我対支貿易上ニ由々敷影響ヲ与フヘキカ故ニ広義
ニ於ケル釐金ニ対スル防止策ヲ講スルコトハ絶対必要条件
ナルヤニ認メラル若シ又支那側ニ於テ新聞報道ノ如ク任意
ニ暫行税率ヲ実施スルカ如キ暴挙ニ出ツル場合ニハ五日ノ
五国代表会議ニ於テ談合ヲ遂ケタル如ク領事館ニ正税ヲ供
託スルコトトシ若シ又右供託ニシテ不可能ナルカ或ハ不便
ナル場合ニハ他ニ適當ナル方法ヲ考慮スルコトトスヘク何
レニセヨ実効アル対策ヲ講スルコト必要ナルヘシ

次⁽³⁾ニ閑税自主権回復問題ニ付テハ我方ニハ第一ニ互惠税率
協定ヲ促進スルコトトシ之ニ次テ聊カナリトモ広義ニ於ケ
ル釐金ノ撤廃債務整理等ノ条件ヲ主張スルコトハ已ムヲ得
サルヘキヤニ思考ス若シ之ニ反シ右等条件ヲ主張スルコト
ナク漫然英國ノ主張スルカ如キ寛大ナル態度ニ出ツルニ於
テハ南北両政府トモ恐ラクハ直ニ閑税増徴ヲ担保トシテ借
款ヲ起シ益々内乱ヲ激成セシムヘキハ火ヲ賭ルヨリモ明カ
ニシテ結局支那国民ノ為ニ不幸ナル結果ヲ招來スヘキカ故
ニ前掲ノ条件ヲ必要トスルコトハ事理極メテ明白ナリ英國

編注 昭和期I第一部第一巻七〇三文書参照。

608 昭和3年3月(16)日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

閑税問題に関するエドワーズ総税務司代理の
南北両政府宛提案手交について

別電 三月十五日着在中国芳沢公使より田中外務大臣宛第三二六号

閑税問題に関するエドワーズの南北両政府宛
提案について

本省 3月16日前着

往電第三一五号ニ閑シ

(1) 第三二五号

十五日「エドワーズ」來訪右拙電記載「エ」ノ南北両政府
宛提案ニ対シ北京政府ニテハ其趣旨ニハ变更ヲ加ヘサリン
モ文句ニ対シ大分修正ヲ為シタルカ右修正ハ要スルニ体面
論ニ基クモノニシテ自分ノ感服シ得サル処ナルカ本日ハ自
分ノ案ヲ携帶セリトテ右写(別電第三二六号)ヲ本使ニ手

ニ於テモ此ノ位ノ事理ヲ了解セサルコトナカルヘキニ拘ハ
ラス同國政府カ一昨年十二月末ノ覚書ヲ盾トシテ猛進シツ
ツアル所以ハ恐ラクハ此ノ機会ニ於テ支那ニ於ケル地歩ノ
回復ヲ計ルニ汲々トシテ米国代理公使ノ解釈ノ如キ打算ヨ
リ出テタルモノナルヘシ元来支那ニ於ケル問題ニ付テハ多
クノ場合ニ於テ日英間ノ利害一致シ從テ両國ノ協調ヲ得策
トル場合多キモ閑税問題ニ付テハ彼我ノ政策非常ニ懸隔
セルカ故日本トシテハ英國ノ態度カ仮令右ノ如シトスルモ
之ニ牽カレテ其ノ驥尾ニ付スルカ如キハ日本ノ利益乃至
「プレステイジ」ニ顧ミテ決シテ得策ナリトハ思考スル能
ハス日本トシテハ合理的ニシテ且健全ナル方針ヲ一貫シテ
進ム方仮令一時苦痛又ハ損害ヲ蒙ルコトアルヘキニセヨ終
局ニ於テ勝利ヲ博スルコトト信ス過日「アグレマン」ヨリ
本使ニ宛テタル私信中ニ英國政府ノ対支政策ハ常ニ動搖極
マリナク之ニ反シ日本政府ノ方針ハ firmly and consist-
ent ナリト述ヘ居レルカ右ハ勿論多少御世辞モアルヘキモ
支那ニ諒解アリ且卒直ナル同人ノ言トシテハ強チ御世辞一
片トハ受ケ取り難キヤニ思考セラル右卑見御参考迄
上海へ転電セリ

交シタル上自分ハ之ヨリ英米仏伊四国代表者ニ面会シテ
夫々此ノ写ヲ手交スル積リナリト付言セリ依テ本使ハ直ニ
之ヲ一読シタル処「エ」ハ右ニ対スル本使ノ意見ヲ尋ネタ
ルニ付本使ハ貴案ニ依レハ第一項輸出税沿岸貿易税及抵代
税ハ現在ノ儘有効トストアルカ此点ハ我方ニ於テ異見ヲ有
スル次第ニテ殊ニ抵代税ニ付テハ閑税會議ノ際暫行税率実
施ノ上ハ之ヲ廢止スル諒解ナリシ経緯アリ又釐金税ニ付テ
ハ何等言及スル処無キモ自分一己ノ所見ヲ以テスレハ之ニ
付テハ何等カノ協定ヲ遂クル事絶対ニ必要ナリト思考スト
述ヘタル処「エ」ハ本案ハ唯自分ノ意見ヲ認メタルニ過キ
サル故抵代税ノ廢止ニ付テハ列国側ニ於テ問題ヲ提起セラ
ル事少シモ差支無ク又釐金ニ付テハ貴見ノ次第アルモ仮
ヘハ外國軍隊ヲ以テ全國ヲ占領スルカ如キ事態ニ立至ラサ
ル限リ之カ廢止ハ不可能ナリト述ヘタルニ付本使ハ明年一
月一日迄ニ釐金ノ廢止ヲ見ル事ハ事實上不可能ナルヘク殊
ニ現下ノ政状ニ於テハ裁釐ノ実行極メテ困難ナルヘキハ自
分モ了得スル処ナルモ之ヲ為スニ当リ单ニ実現困難ナリト
ノ理由ヲ以テ裁釐問題ニ関シ何等ノ規定ヲ設ケサルカ如キ
ハ本使ノ同意シ難キ處ナリト述ヘタル処「エ」ハ其儀ハ誠

ニ御尤ナリ從テ仮くハ何年ノ後ニ至リ釐金ノ全廃ヲ見サル

場合ニハ

現行税率ニ復帰スくシト云フカ如キ規定ヲ設クル事蓋シ適
當ナラムト述ヘタルニ付本使ハ夫レモ一案ナリト答ヘタル

處「ハ」ハ右ノ如キ細目ノ問題ハ別トシテ大体本案ヲ以テ
商議ノ基礎トナス事ハ差支無カルヘシト述ヘタルニ付本使

ハ日本政府ノ意見ハ素ヨリ承知セス政府ハ或ハ現下ノ政情

ノ下ニ本件ノ如キ商議ヲ開始スル事ニ反対ナルヤモ計リ難
ク又商議ノ開始ニ同意スル場合ニモ細目ニ付種々ノ意見モ

アルヘキニ相違無キカ單ニ自分ニ已ノ意見ヲ以テスレハ本

案ヲ商議ノ基礎トスル事ハ差支無キヤニ思考スト答ヘタル

處「ハ」ハ外交總長カ自分ニ語リタル處ニ依レハ同總長ハ
一一週間後ニ各公使ニ非公式ニ交渉ヲ開始シ来ル趣ナルカ

正式ノ交渉ハ自分カ再ヒ南シテ南京政府ノ同意ヲ得諸事
打合セヲ完了シタル後ニ開始セラルル筈ナリ從テ本件私案

ヲ貴公使始メ他ノ四公使ニ手交セル次第ハ極秘トセラレタ
ク孰レ近々自分ハ試ミ「ハシブノハ」及貴公使ノ為本案

ニ対スル対案ヲ作製スル積リナリト述ヘタル後自分トシテ
ハ愈商議開催ノ上ハ列国側ヨリ支那側ニ対シ

上海へ転電セリ

(別 電)

Peking,

Received, March 15th. p.m. 1928.

Gaimudaijin,

No. 326. (Gokuhi)

⁽¹⁾Tariff Autonomy is the national right of all Sovereigns and the aspiration of the Chinese Government to resume such Tariff Autonomy met with the expressed sympathy of all the Powers at the Tariff Conference of 1925.

The Chinese Government wishes accordingly to inform the interested Powers that a national Tariff is being compiled which will be promulgated in due course after the needs of trade and the means of enhancing trade between China and foreign countries have been carefully considered,

(i) Pending the compilation of the national Tariff and its acceptance by trade agreements between China and the Powers interested, it is necessary for the Chinese Government to obtain increased revenue in order to enable it to consolidate its administration.

To

⁽²⁾To obtain this additional revenue and, on the ground that the increase of customs duties met with the full sympathy of the Powers at the Tariff conference of 1925, the Chinese Government requests that, as a temporary measure and pending the promulgation of the national Tariff, the interested Powers will allow the following graded surtaxes to be added to the existing *ad valorem* import duty, it being understood that all such surtaxes are to be collected by the Maritime Customs administration and that export duties, Coast Trade duties, Transit duties outward and inward are to remain in force as at present.

It is also to be understood that, when the above surtaxes are put into force, the collection of the present so-called Washington surtaxes is to cease.

⁽³⁾The Chinese Government proposes that these interim surtaxes shall come into force two months after the date on which the consent of the Powers

(一)華府會議ノ際ノ諒解通り税關ノ地位ニ変動ヲ及ボササル事
(二)不法課稅ニ付テハ支那側ヨリシテ税關ノ機關ヲ利用セシメ
サル事
(三)沿岸貿易ニ関スル件
四)関稅剩余ハ各開港場ニ於ケル収入ニ按分比例ニテ海關監督ニ引渡ス事

等ノ諸項ヲ申出テム事ヲ希望スト述ヘタルモ右ニ対シテハ
本使ハ唯曉流シタリ尚十五日岸本ノ内話ニ依レハ「ハ」
支那側ヨリ支那側ノ提案ヲ各關係公使ニ説明方依頼セラレ
タルニ対シ外交官ニ非サレハトテ一旦辞退シタルモ強ヒテ
ハ頼ミニテ各公使ヲ訪問スルモノナリト岸本ニ話シ居タル
由ナリ

is received.

(Append list).

(2) As the principle of unanimity in the rates of Customs duties levied at all the land and maritime

frontiers of China has been recognized by Article 6 of the Washington Treaty of 1922, the Chinese Government therefore requests the interested Powers to cancel all existing land frontier duty reductions, such duty reductions to cease from the date on which the Interim Surtaxes proposed under (1) come into force

(3) At the Tariff Conference of 1925 the question of the payment of the foreign unsecured debts received the careful consideration of both the Chinese and the foreign Governments.
⁽⁴⁾ As a mark of its willingness to meet the foreign

unsecured debts as soon as national funds permit, the Chinese Government proposes that, from the date on which the proposed Interim Surtaxes are

⁽⁵⁾ The allocation at present received from Tonnage Dues is wholly inadequately meet the expenses of those services, and the increased cost of up keep is endangering the continuance of China's foreign representation which is essential for the maintenance of relations with foreign countries. The Chinese Government hesitates to increase the levy on foreign steamer's visiting Chinese waters, but, as the maintenance of China's representation abroad is of paramount importance, the Chinese Government requests the sympathetic consideration of the Powers to this request and renews its assurance to the Powers that, if and when financial conditions permit, the original levy on shipping will be reverted to.

put into force, a sum of six million Haikuan Taels per annum shall be allocated for this purpose, by monthly Instalments of five hundred thousand Taels, from the customs revenue.

This sum is to be paid to a joint commission of Chinese and foreign Bankers to form a sinking fund for the payment of the unsecured foreign debt, such fund to be administered by the joint commission of Bankers according to arrangements to be arrived at by the said commission.

The Chinese Government would also ask that, as a temporary measure and until such time as the administrative finances are fully consolidated, the existing levy of dues for tonnage shall be increased from the present rates of four mace and one mace per ton to five mace and one and a half mace per ton, this increased levy to be used exclusively for the maintenance of Chinese Government's diplomatic and consular services.

い
て

17

北
京
本
省
3
月
17
日
後
着
發

八 中国関税問題

⁽²⁾キニ付反対スヘシト述ヘタリ

纏 マリタルコトナカリキ

第二項ニ關シ仏國公使ハ現在ニ於テハ國境關稅ノ特權ヲ有
スルモノハ仏國一ヶ國ニシテ他國ハ之ニ均霑シ居ルモノナ
ルカ本問題ニ付テハ自分一己トシテハ廢止ニ同意シ差支ナ

610 昭和3年3月19日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

シトノ意見ナリト述ヘ第三項ニ関シテハ本使ハ自分ニ已ノ所見ニテハ債務整理ニ振向ケラルヘキ額ヲ六百万両ニ止ムレコトハ関税会議當時ノ討議ニ顧ク思ハルル

モ金額ノ問題ハ別トシテ外支銀行家委員会ヲ設置スル案ハ考慮ニ価スヘシ唯我方トシテハ外債ノ整理ノミニテモ大事

北
京
3月
19日
後
発

業ナルカ故外債整理ヲ以テ本旨トセサルヘカラスト述ヘタル
英國代理公使ハ税関収入ノ使途ニ付順位ヲ言ヘハ第一

第三四六号（極秘）
貴電第八九号及ヒ往電第三四二号ニ関シ

税関自身ノ費用第二義和田事変賠償金支払第三善後借款支
払第四税關收入ヲ担保トシ且大總統令ヲ以テ承認シタル内
債ノ支払第五不確実担保ノ外債ノ順序トナルヘント述ヘタ
ルカ本使ハ右ニ対シテハ意見ヲ留保シ置キタリ第四項ニ関
シ各代表者トモ別段ノ意見ナク唯本使ハ単ニ主義上ヨリ言
ヘハ余リ感服セサル「アレンジメント」ナリト述ヘ置キタ

当日ノ会合ハ大体右様ノ如ク単ニ意見ノ交換ニ止マリ何等

昭和三年八月一日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

宋子文の依頼により国民政府の七種差等税率実施計画に関するエドワーズ総税務司代理の我が方意向打診について

付記 八月十七日

差等税率実施問題に対する我が方対応方針について

三十一日「エドワーズ」來訪本日來訪セルハ宋子文ノ依頼ニ依ルモノナリト前置シタル上国民政府ハ近キ将来ニ於テ関税會議ノ際列国トノ間ニ談合ヲ遂ケタル二分五厘乃至二割二分五厘ノ差等税率ヲ実施スル計画ナリ之ニ就テハ英米ハ勿論異存無カルヘク其ノ他ノ諸国モ反対セサルヤニ見受ケラルモ只心配ナルハ日本一国ナルカ故ニ右ニ对スル本使ノ意見ヲ承知シタキ旨宋ヨリ依頼アリタルカ貴見如何ト尋ネタルニ付本使ハ御承知ノ如ク目下日本ト国民政府トノ

間ニハ条約廢棄問題横ハリ居リ是ニシテ解決セサル以上日
本トシテハ暫行税率ニ対シテ何等意見ヲ表示スルヲ得スト
答ヘタルニ「エ」ハ条約廢棄問題ニ付テハ宋子文モ王正廷
ノ措置ニ遺憾ノ意ヲ表シ居レルカ故ニ条約問題ニ付日本ト
国民政府トノ間ニ妥協成立スルニ至ラハ日本ハ暫行税率実
施ニ同意スルヤト質シタルヲ以テ本使ハ其ノ場合日本ハ恐
ラク閔税會議ニ於テ暫行税率ニ対シ採レルト同一ノ態度ニ
出ツルナラント思ハルルモ

同会議以来既ニ二年余ヲ経過シタル今日果シテ斯カル態度
ヲ執ルヤ否ヤハ政府ニ請訓シタル上ナラテハ断言シ難シト
答ヘタル処「エ」ハ御尤ノ次第ナリト述ヘ尚宋ノ財政計画
ニ依レハ国民政府ハ閔税自主権ヲ恢復スル場合ハ独リ日本
ニ対シテノミナラス他ノ諸国ニ対シテモ互恵税率ヲ協定ス
ル意向ヲ有スルモノノ如シ宋ノ財政計画ハ極メテ實際的ニ
シテ感服ニ値スル案ナルヤニ見受ケラレタルカ要ハ暫行税
率ヲ実施シ其ノ収入ヲ着々建設事業ニ利用セムトスルニ在
リ就テハ宋ノ依頼モアル事故至急暫行税率ニ対スル日本政
府ノ意向ヲ確メラレタク其ノ回答ニ接シ次第宋ニ通知スル

727

726

「エ」ニ対スル回答振り成ルヘク早目ニ御回電相成様致度

シ

尚「エ」ハ国定税率ニ関シテハ国民政府側ニ於テ何等ノ準備無シト見エ宋ヨリ「エ」ニ対シ国定税率案作製方ヲ依頼シタリト語レリ

上海、南京ニ転電セリ

(付記)* 中間付加税ニ関スル件

一、七月三十一日總稅務司「エドワーズ」芳沢公使ヲ來訪シ財政部長宋子文ノ依頼ニ依ル趣ヲ以テ国民政府ハ近キ将来ニ於テ閔税會議ノ際列國トノ間ニ談合ヲ遂ケタル二分五厘乃至二割二分五厘ノ七種差等税ヲ実施スル計画ナルカ右ニ就テハ英米ハ勿論異存ナカルヘク其他ノ諸国モ反対セサルヤニ見受ケラルモ唯心配ナルハ日本一国ナルニ付右ニ対スル芳沢公使ノ意見ヲ承知シタント述ヘタルニ付同公使ハ目下日本ト国民政府トノ間ニ條約廢棄問題横ハリ居リ右ノ解決ヲ見サル以上日本トシテハ暫行税率ニ対シ何等意見ヲ表示スルヲ得スト答へ置キタル趣ナ

又英国外務省極東部長ノ佐分利代理大使ニ語ル所ニ依レハ宋子文ハ北京ニ於テ英國公使ニ対シ本年十月一日ヨリ右七種差等税ヲ実施スル積リナル旨語リタル由ナリ二、惟フニ国民政府ハ今ヤ北伐ノ事業一段落ヲ告ケ内部ノ整頓建設ニ力ヲ注カムトスルニ当リ之カ為多額ノ資金ヲ必要トスルハ想像ニ難カラサル次第ニシテ嚮ニ七月初旬上海、南京ニ開催セラレタル全国經濟會議及財政會議ニ於テ裁兵其他重要案件ヲ含ム財政計画ヲ議シタルモノノ如ク第五次全体会議終了ノ上ハ或ハ直ニ右計画ヲ実施スルノ段取トナルヤニ認メラル處之カ為ニ要スル新財源トシテハ差当リ閔税増徵ニ依ルノ外ナカルヘキニ付前記差等税ノ実施ハ十月一日若クハ其以前ニ実施ノ運トナルヤモ計リ難シト認メラル

三、右七種差等税ノ実施ニ付二個ノ場合ヲ予想スルヲ得ヘシ即チ第一ハ二分五厘五分付加税ノ場合ト同様支那側カ一方的ニ出来得レハ海關ニ於テ止ムヲ得スンハ別ニ税局ヲ設ケテ實力ニ依リ之ヲ徵收シ来ル場合ニシテ第二ハ支那側カ一般國際法上ノ手続ニ從ヒ本件差等税実施ニ付予

メ外国側ノ同意ヲ求メ来ル場合之ナリ而シテ現下ノ情勢ニ於テハ支那側トシテハ大体先ツ第二ノ方法ヲ試ミ来ルモノナリヤニ認メラル

支那側ヨリ差等税実施ニ付同意ヲ求メ来リタル場合我方トシテ特ニ考慮スヘキハ(イ)国民政府ノ日支條約廢棄ニ対シ從来我方ノ執り来レル態度ト本件差等税ノ商議ニ応スルコトトハ理論上矛盾スルコトナキヤ(ロ)本件商議ニ応スル場合ノ我方方針如何ノ二問題ナルヘシ

四、国民政府ノ條約廢棄ニ対シ從来我方トシテハ支那側カ其不法ナル態度ヲ改メサル限り断シテ條約改訂ノ商議ニ応セスト主張シ来リタル次第ナル處本件差等税ハ閔税自主ニ至ル迄ノ過渡的暫行税ニ過キスト雖モ税率ノ変更ナル以上現行條約ヲ改訂シ又ハ新條約ヲ締結スルニ非レハ之ヲ実施シ難ク從テ支那側カ依然條約廢棄ノ態度ヲ改メサルニ我方ニ於テハ本件商議ニ応スルハ明カニ條約問題ニ対スル我方從来ノ態度ト矛盾スルモノト謂ハサルヘカラス殊ニ本件付加税承認ニ依リ事實上国民政府承認ノ結果トナルニ於テハ国民政府ノ條約廢棄ノ措置ヲ暗黙裡ニ容認スルモノト解セラルルノ虞アリト謂フヘシ

六、茲ニ特ニ考慮ヲ要スルハ本件中間税実施ノ条件殊ニ増
又使途ノ問題ナリ

関税会議當時ノ計算ニ依レハ（一九二四年度ノ支那関税収入ノ数字ヲ基礎トス）右七種差等税実施ニ依ル毎年ノ増収ハ約九千万元見当（仮国案ニ依ル毎年ノ増収ハ一億七百万元見当）ニシテ右増収ハ大体之ヲ（政費及建設費（）裁釐準備金（）債務整理ノ三使途ニ充當スヘキコトニ付支那及各国側共意見ノ合致ヲ見タルカ右三者間ノ割合等ニ付意見一致スルニ至ラサリン次第ナリ然ルニ其後事態推移シ今日ニ於テハ米国ハ既ニ本年七月二十五日ノ新条約ニ依リ関税増徴ニ付テハ他国ト異ナレル取扱ヲ受ケサル限り全ク無条件ニテ之ヲ承諾スヘキ旨ヲ明カニシ英國側モ殆ント之ニ近キ態度ニ出ツルヤニ予想セラルニ至リタリ斯ノ如キ状況ニ於テ我方カ如何ナル態度ニ出ツヘキヤハ最モ慎重ナル考慮ヲ要スル次第ナリ我方トシテハ前記三使途中釐金撤廃ニ付テハ全然支那側ノ自發的措置ニ一任シ之カ保障等ニ付キ余リ立チ入りタル要求ヲナスノ必要ナキモ我方ノ最モ重キヲ置ク点ハ不確実債務整理問題ナル処理条件ニ付從来ノ如ク嚴重ナル主張ヲ固持スルニ於テハ支那並各國トノ間ニ意見ノ合致ヲ見ルコト極メテ困難ナルハ関税会議ノ經緯ニ照スモ明カナル次

合之ナリ
第一ノ場合ニハ大連ノ如キ租借地ニ於テハ領事館供託ノ方法ニ依リ之ニ対抗スルノ外ナシ而シテ此場合ニモ各國協同シテ支那側ニ対抗スル場合ト然ラサル場合トニ依リ右租界ヲ利用シ得ル範囲ニ自ラ広狭ヲ生スヘシ
第二ノ場合即税關ニ於テ徵稅スル場合ハ税關カ各國ノ同意ヲ経サル不法ノ租稅ヲ徵收スルコトナルニ付我方トシテハ實力ノ及フ限リニ於テ領事館供託ノ方法ヲ更ニ拡張シ領事館ヲシテ納稅済証明書ヲモ發給セシメ右ニ依リ庫出搬出等ヲナサシムルト共ニ供托セラレタル関稅收入ハ之ヲ抑留シテ支那側ノ反省ヲ促スコトスルノ外ナカルヘシ

（昭和三年八月十七日）

612

昭和三年八月二十八日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

エドワーズ總稅務司代理の昇格問題に関する

会について

第二ニシテ右意見不一致ノ結果不確実債務ハ依然未整理ノ儘永ク残存シ全ク元利ノ償還ヲ見サルコトハ結局我方ニトリテモ不利ナルニ付ナルヘク寛大ナル条件ニテ不確實債権ヲ確定化スルコト却テ得策ナリト認メラル
而シテ右整理ノ方法トシテハ関稅收入ヲ担保トスル低利長期ノ整理公債ヲ發行シ整理スヘキ不確実債務ヲ額面価格ニテ之ニ乗替フルコトシ右整理公債ハ当初数年間ハ据置トシ其後償還ヲ始ムルモ其利率及償還額ハ關稅ノ自然増収並担保解除額殊ニ自主權実施後ノ關稅增收ニ応シ逐年累次通増スルコトトシナルヘク支那側ノ負担ヲ輕減スルノ案ヲ考慮スルヲ得ヘシ
七、然ルニ若シ支那側ニ於テ当初ヨリ外國側ノ意向ニ係ラス一方的ニ本件中間稅ヲ実施スルカ又ハ一應外國側ノ同意ヲ求ムルモ其議纏ラサル場合一方的徵收ヲ強行シ来る場合ニハ我方トシテハ到底之ヲ承認スル限りニ非ルニ付結局實力ヲ以て対抗スルノ外ナカルヘシ
右一方的徵收ニ付二個ノ場合ヲ予想スルヲ得ヘシ即チ第一ハ二分五厘五分付加稅ノ場合ノ如ク別ニ稅局ヲ設ケテ之ヲ徵收スル場合ニシテ第二ハ稅關ニ於テ徵收スルノ場

北 京 8月28日後発
本 省 8月28日後着
第一二五八号
往電第一二四六号ニ関シ
「エドワーズ」ハ二十二日英國公使訪問後本使不在中ニ來訪シタリシカ更ニ二十八日來訪シ「ライト」「ブリッヂチード」及「カーライル」等ヲ隨伴三十日當地堯來月三日頃上海着ノ筈ナルカ主ナル用向ハ無論總稅務司及暫行稅率ノ二問題ニシテ自分ノ得タル情報ニ依レハ宋子文ノ地位ハ少クトモ二ヶ月間ハ安全ナルモノノ如キカ故ニ未タ斷定ハ出来サルモ宋子文ノ地位カ暫時安定トナリタル上ハ自分カ總稅務司ノ任命ヲ受クルヤモ知レス若シ右様ノ場合ニハ「メーズ」ニ休暇ヲ与ヘ年金ヲ遣り帰國セシムヘク他方上海ニ本部ヲ置キ南京ニハ多分「サブオフイス」ヲ設ケ上海ト北京トヲ往復スルノ外無ク北京ニハ岸本ラント代理セシムル積リナリ又若シ自分カ總稅務司ニナラサル時ハ本国ニ引キ揚クル積リナリト述ヘ次イテ只今南京政府ハ非常ニ金ヲ必モ夫レ以上ハ暫行稅率ニ依ル外無キ次第ナルカ暫行稅率ニ

(口) 中間税増徴ハ即ち暫行的付加税ノ徵収ニ外ナラサルヲ以テ我方ニ於テ之ニ同意スルトセハ通商条約所定ノ五分本税ハ其儘トシ之トハ別個ニ付加税ノミニ閑スル暫行的取極ヲ結フコトナル次第ナルニ付嚴格ニ云ヘハ中間税ノ商議ハ現行通商条約ノ改訂ヲ商議スルモノニアラスシテ別個取極ニ付商議スルモノト云ハサルヘカラス

(口) 中間税増徴ハ即ち暫行的付加税ノ徵収ニ外ナラサルヲ以テ我方ニ於テ之ニ同意スルトセハ通商条約所定ノ五分本税ハ其儘トシ之トハ別個ニ付加税ノミニ閑スル暫行的取極ヲ結フコトナル次第ナルニ付嚴格ニ云ヘハ中間税ノ商議ハ現行通商条約ノ改訂ヲ商議スルモノニアラスシテ別個取極ニ付商議スルモノト云ハサルヘカラス

(口) 求ムレハ大体左記ノ諸点ヲ考量スルヲ得ヘシ

(イ) 日支通商条約第九条ニハ「清國ト泰西諸國トノ間ニ実施スル税目及税則」ヲ日本ヨリ支那ヘ輸入シ又ハ支那ヨリ日本ヘ輸出スル貨物ニ適用ストアリ右ハ日支間ノ税目及税則カ支那ト泰西諸國間ノ税目及税則ト相異ルヘカラサルヲ規定スルノミニシテ從テ本件中間税ノ場合ノ如ク日本カ泰西諸國ト同時ニ又同様ノ税率改訂ヲ行フニ於テハ上決定スルモノト同率ノ付加税ヲ支払フコトヲ承認ス」ル旨ヲ規定シ居ル次第ナルニ付中間付加税ノ商議ニ応スルハ畢竟右ノ約束ヲ履行スルニ過キサルモノニシテ通商条約ノ改訂ト称スヘカラス

(ロ) 中間税増徴ハ即ち暫行的付加税ノ徵収ニ外ナラサルヲ以テ我方ニ於テ之ニ同意スルトセハ通商条約所定ノ五分本税ハ其儘トシ之トハ別個ニ付加税ノミニ閑スル暫行的取極ヲ結フコトナル次第ナルニ付嚴格ニ云ヘハ中間税ノ商議ハ現行通商条約ノ改訂ヲ商議スルモノニアラスシテ別個取極ニ付商議スルモノト云ハサルヘカラス

(ハ) 華府関税条約ノ趣旨カ支那カ支那國政府ノ歳入ヲ增加シ其ノ財政確立ヲ援助スル目的ヲ以テ一九〇二年ノ英支通商条約第八条等ニ於テ規定セル七分五厘ノ特別付加税ヲ成ルヘク速ニ実施セントスルニアルコトハ同条約ニ於テ右付加税実施ノ為関税特別會議ヲ同条約実施後三ヶ月以内ニ開催スヘキコトヲ明定セルニ徵スルモ明カナリ然ルニ関税特別會議ハ支那政情変動ノ為具体的結果ヲ見ルニ至ラサリシ次第ナルカ今回支那側ニ於テ中間税トシテ実施方ヲ考量中ナル七種差等税ハ增收見積年額九千万元ヲ標準トシテ作成セラレタル經過ニ鑑ミルモ前記七分五厘付加税ヲ換骨奪胎セルモノニ外ナラス從テ我方ニ於テ通商条約問題ト離レ右中間税問題ヲ審議スルモ右ハ単ニ華府条約以来ノ懸案ヲナルヘク速ニ解決セムトスル趣旨ニ外ナラサルモノト謂フヘシ

(イ) 大正十四年九月二十一日及大正十五年七月十七日ノ両回ニ亘リ帝国政府ハ支那ニ対シ災害付加税ヲ許与シタルカラ許与ハ外国側ノ一方的通告ニ依リタルモノニシテ通商条約ノ改訂ト見ルヘカラス從テ今回ノ中間税ニ付テモ同様一方的通告ノ形式ニ依ルナラハ条約問題又ハ承認問題

対シ未タ日本政府ヨリ回訓ニ接セスヤト尋ネタルニ付本使ハ未タ回訓ニ接セス多分日本政府ハ条約問題ヲ決定シタルニ非サレハ暫行税率ニ付テモ態度ヲ決スル能ハサルヘント答ヘタルニ兎ニ角何レナリトモ決定ノ返事有リ次第知ラセ吳レ間數ヤト述ヘタルニ付本使ハ之ヲ承諾シタル上尚此ノ機会ニ於テ一言シタキハ日本トシテハ仮令暫行税率ニ同意スルコトアルモ無条件ニテハ同意スル能ハス不確實債務整理等ノ条件ヲ付スルニ相異ナキ故右ハ予メ宋子文ニモ告ケ置カレタシト述ヘタルニ「エ」ハ其ノ通ニスヘシトテ引受ケタリ就テハ往電第一一四一号末段稟請ノ暫行税率ニ御同意ナリヤ又ハ反対ノ御意向ナリヤ將又御考慮中ナリヤ何レニセヨ何分ノ儀折返シ御回電ヲ請フ

上海、南京ニ転電セリ

613 昭和三年八月29日 田中外務大臣より
在中國芳沢公使宛（電報）

差等税率問題につき考慮中なる旨エドワーズ
総税務司代理へ回答方訓令

付記 八月三十一日

（付記）
* 日支条約問題ト中間税問題トノ関係
支那カ一方的条約廢棄ノ態度ヲ改メサル以上日本トシテハ断シテ条約改訂ノ商議ニモ応スルヲ得ストノ帝国政府ノ方針ハ之ヲ一貫スレハ實質上通商条約ノ一部改訂トナルヘキ中間増徴ノ商議ニモ応シ得サルコトナルトノ論アリ純理上ヨリ云ヘハ右ハ正当ノ議論ナリト認メラルモ若シ仮ニ此際中間税問題ヲ切離シテ商議スルコト政策上得策ナリトノ見地ヨリ強ヒテ之ヲ支持スヘキ法理上ノ論拠

* 第四二七号
貴電第一二五八号ニ関シ
暫行税率ノ承認ハ条約問題トノ関係モアリ条約問題今尚研究中ノ今日右ニ對スル政府ノ意見モ何等明示スルヲ得サル次第ニ付右御含ノ上「エドワーズ」ニ対シテハ尚考慮中ナル旨回答シ置カレタシ

本省 8月29日発

ト相触ルルコトナクシテ之ヲ支那側ニ許与スルコトヲ得
ヘシ或ハ今回ノ中間付加税ハ前記災害付加税ノ如ク期限
ヲ明定セサル方却テ得策ナルノミナラス又無条件ニテ許

与スルモノニ非シテ支那側ニ一定ノ義務ヲ課セムトス
ルモノナルニ付災害付加税ト同様一方的通告ノ形式ニ依
ルコトハ不可能ナリト論スルモノアリ然レトモ中間税ニ

付明確ナル期限ヲ付スルヤ否ヤ又之カ許与ニ付条件ヲ設
クルヤ否ヤハ彼此商議ノ結果ヲ俟テ初メテ決定スヘキ所
ナリ而シテ今茲ニ差当リ問題トナレルハ帝国政府トシテ
矛盾ナク中間税ノ商議ニ応シ得ルヤ否ヤノ点ナルヲ以テ
商議ノ結果如何ヲ慮リテ当初ヨリ之カ商議ニモ応スヘカ
ラストナスハ首肯シ難キ所ト謂フヘシ

(昭和三年八月三十一日)

614 昭和3年9月(2)日 在英國佐分利臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

中間税率を基礎として中國側と交渉した旨
ウエルズレー英国外務次官の談話について

ロンドン 発
本省 9月2日後着

* 第一八七号

「ウエルズレー」休暇旅行ニ先チ八月三十日彼ト面会種々
雜談ヲ交ヘタルカ其ノ中ニ左ノ如キ談話アリ

何等御参考迄

一、「ウ」ハ對支政策ニ付英國カ日本及其ノ他ノ諸国トノ
協調ヲ大ニ希望スルハ勿論ナリ只英國トシテハ一昨年覚
書等ヲ以テ其ノ政策ヲ声明シ居ルヲ以テ之ト背馳スルカ
如キ行動ニ出ツルヲ得サル次第ナルニ付其ノ点ハ諒解ヲ
請フト云ヘリ

二、「ウ」ハ英國當局ニ於テ關稅自主権トハ結局中間稅率
ノ実施ト考ヘ居ル旨ヲ再言シ且商務省ニ於テ右稅率ニ付
テハ異存ナキヲ以テ之ヲ基礎トシテ支那ト稅率協定ヲナ
サント考ヘ居ル旨ヲ述ヘタル上日本側ニ於テ右稅率ニ關
シ如何ナル考ヲ有セラルルヤト問ヘルニ付本官ハ關稅會
議ノ際自分等カ之ニ關係セル際ハ大體差支ナシト思考シ
タル次第ナルモ帝国政府トシテ右稅率ニ付現在如何ニ考
ヘ居ラルルヤ未タ承知セサル旨程ヨク答ヘ置キタリ

三、「ウ」ハ尚往電第一七四号ノ一、三及四等ノ趣旨ヲ重

ネテ述フル處アリタルカ翻ツテ前後ノ談話ヲ綜合シテ考
フルニ英國ハ既ニ對支寬容政策ヲ声明シ殊ニ關稅ニ付テ
ハ相互妥協的態度ニ出ツルモ差支無シト考ヘ居ルヲ以テ
日本側ニ於テ果シテ如何ナル考ヲ有セラルルヤ殊ニ差当
リ手近ノ具体問題トシテ中間稅率ニ對シ日本側カ如何ナ
ル意向ヲ有セラルルヤニ付知ランコトヲ希望シ居ル物ノ
如シ

米、仏、独、連盟ニ転電、伊、露、白、蘭、瑞典ニ暗送シ
獨ヲシテ内田全權ニ轉報セシム

差等稅率問題と日英協調に關し意見具申

615 昭和3年9月7日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

北 京 9月7日後發

本省 9月7日後着

往電第一二七六号ニ關シ
第一二七八号

國民政府ハ宋子文ノ更迭其ノ他内部ニ重大ナル変更アラサ

(一)「エ」カ各國ノ承認ヲ經サル課稅ノ徵収ヲ命スルハ明カ
ニ條約違反ナルカ列國トシテハ之ヲ如何ニ処置スルヤ
(二)英國カ日本ノ反対ニ拘ラス之ヲ承認シ為ニ日英ノ間ニ生
スヘキ間隙ヲ如何ニ調整スルヤ

(三) 支那側ニ於テ愈強制スル場合ハ我商人ハ如何ニシテ之ニ
対抗スヘキヤ
等ノ問題ヲ生シ華府付加税ノ場合ニ比シ一層複雑ナル事態
ヲ生スヘシ

帝国政府ニ於テ折角実現方御努力中ノ日英協調ハ先ツ差等
税率ニ於テ「テストケース」ニ遭遇シタルモノト云フヘク
往電第一二四二号英國公使カ日英協調ニ付日本政府ニ於テ

詳細ナル具体案ヲ有セラル次第ナリヤ承知シタシト言ヘ

ルハ先ツ差等税率ニ対スル日本ノ態度ヲ知ラムトスルモノ
ニシテ又閣下発在独大使宛電報第七二号「バートン」カ吉

田次官ニ対シ地方問題ニ付テノ日英協調ハ兎ニ角全支那問

題ニ付テハ日英ノ利害必シモ同一ナラストノ趣旨ヲ述ヘ
タルハ差当リテノ問題トシテハ畢竟差等税率ニ対スル日英

間協調ノ困難ナルヲ意味スルモノナルヤモ測リ難シ他方濟
南事件、条約問題及滿州問題等ヲ控フル帝国トシテハ国民
政府ニ対スル關係ハ英國ノ如ク単純ナル能ハサルハ勿論ナ

ルカ同時ニ英國始メ各國ハ日本ノ此等諸懸案ニハ頓著ナク
着々国民政府トノ交渉ヲ進メテ南方トノ關係改善ニ努メ南
方側亦之ヲ日本ニ対スル懸案ニ利用シテ懸案ノ解決ハ益々
方策亦之ヲ日本ニ対スル懸案ニ利用シテ懸案ノ解決ハ益々

困難トナルニ至ルヘシ從テ我方トシテハ差等税率ノ御詮議
ニ當リテモ今後如何程迄日本独自ノ政策ヲ徹底シテ行フヘ
キヤ或ハ列国トノ協調トノ為ニハ我方单独ノ問題ニ与フル
不利ヲ幾分カ犠牲トスヘキヤノ根本方針ニ付慎重御考慮ノ
上之カ対策御決定ノ必要アルヘク既ニ御氣付ノ次第ト存ス
ルモ御参考迄

上海、南京へ転電セリ

616 昭和3年9月10日 田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛 (電報)

蔣介石へ差等税率実施延期を要請方訓令

付記 九月十日

差等税率、債務整理問題への対応方針について

本省 9月10日後發

* 第二二四号

最近ノ情報ニヨレハ国民政府ニ於テハ所謂中間税率ヲ十月
一日ニ公布シ明年一月一日ヨリ之ヲ実施スル計画ニテ而モ
其ノ税率ハ閏税率會議當時日英米間ニ協議ヲ遂ケタル七種差

等税率トハ別種ノ支那側独特ノモノナル趣ノ處国民政府ニ
シテ果シテ右ノ通り實行スルモノトセハ帝国政府トシテハ
税率其ノモノニ付貿易上大ナル不利益ヲ蒙ルト共ニ閏税率增
徵ニ當リ付加スヘキ条件ノ利益ヲ失フコトトナリ又條約問
題ニ閏スル從来ノ經緯ニ鑑ミ之ヲ漫然傍観スル事能ハサル
次第ナルカ支那側ニシテ一旦之ヲ公布スレハ我方ニ於テ如
何ニ条理ヲ尽シテ其ノ不法ヲ責ムルモ所謂体面上之ヲ撤回
スルコトモ困難ナルヘキハ彼ノ臨時弁法ノ事例ニ徵シ明カ
ナルノミナラス若シ所定ノ期日ニ之ヲ実行スルカ如キコト
アラハ日本トシテハ何等カ対抗策ヲ講セサルヘカラサルヘ

クスクシテ日支両國ニ於テ互ニ相讓ラサルニ於テハ條約満
州等ノ問題ノ外更ニ一ノ難問ヲ加フルコトトナリ日支国交
上極メテ好マシカラサル次第ナリ

仍テ貴官ハ至急蔣介石若クハ張群ニ會見シ貴官ノ思付トシ
テ蔣ニ対スル本大臣ノ同情ハ往電第二〇九号「メッセー
ヂ」ノ通りニシテ我方ニ於テハ蔣ノ事業ノ円満ナル成功ヲ
期待シ居リ現ニ汪公使ニ対シテモ往電第二一五号ノ如ク述
べ居レル次第ニシテ又蔣トシテモ国民政府ノ改組ヲ行ヒ之
カ為ニ同政府ニ対スル列國ノ信用一層高カラントスル矢先

困難トナルニ至ルヘシ從テ我方トシテハ差等税率ノ御詮議
ニ當リテモ今後如何程迄日本独自ノ政策ヲ徹底シテ行フヘ
キヤ或ハ列国トノ協調トノ為ニハ我方单独ノ問題ニ与フル
不利ヲ幾分カ犠牲トスヘキヤノ根本方針ニ付慎重御考慮ノ
上之カ対策御決定ノ必要アルヘク既ニ御氣付ノ次第ト存ス
ルモ御参考迄

上海、南京へ転電セリ

(付記)
* 国民政府ノ中間税実施問題ニ閏スル件

一、国民政府ハ国定税率実施ニ至ル迄ノ中間的措置トシテ
本年十月一日以降二分五厘乃至二割二分五厘ノ七種輸入
付加税(嚮ニ閏税率特別會議ニ於テ日英米三国委員立案シ
仏國以外ノ參加國委員ノ同意ヲ経タルモノ)ヲ実施シ度
シテ一方的ニ之ヲ徵收セムトスルモノナリヤ又ハ右実施
方ニ付予メ關係各國ニ協議シ來ル意向ナリヤ判明セサル

處支那側カ一方的ニ徵収セムトスル場合ニハ我方トシテ固ヨリ之ヲ容認スヘキ限ニアラサルヲ以テ別ニ有効ナル対策ヲ考究スルコトトスヘキモ然ラスシテ予メ関係各国ニ協議シ来ル場合ニハ右税率ノ内容ハ既ニ関税會議ノ當時我専門委員カ十分研究ノ上最モ有利ナリトシテ作成セルモノナルノミナラス此際部分的ニ変改スルコトハ極メテ困難ナル事情アルニ付大体之ヲ其儘承認スルヲ得策トスヘク唯右承認ノ条件トシテ中間税実施ニ依ル増収使途ニ不確実債務整理問題ヲ如何ニスヘキヤニ付篤ト考究スルヲ要スヘシ

三、関税増徴ニ就テハ米国ハ嚮ニ本年七月二十五日ノ米支

関税新条約締結ニ依リ無条件承認ノ態度ヲ明カニシ居リ英國側モ大正十五年十二月及昭和二年一月ノ対支覚書ノ

方針ヲ持続シテ極メテ寛容ナル態度ニ出テムトスルモノノ如キ処此際我方独リ関税會議當時ト同様ノ主張ヲ固執スルニ於テハ各國間ノ議容易ニ纏ラサルヘク其結果不確実債務ハ依然未整理ノ儘残存スルノミナラス他方新財源ヲ求ムルニ急ナル支那側ヲ駆テ中間税一方的徵収ノ擧ニ出テシムルコトナル虞アリ從テ我方トシテハ此際右ノ

北 京 9月13日後発
本 省 9月14日前着

第一三〇四号
(¹) 第十三日仏國代理公使來訪約十日前英國公使館ノ同僚ヨリ極秘トシテ承知シタル処ニ依レハ南京政府ハ十月一日ヨリ列

617 昭和3年9月13日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)
日英仏三国の差等税率実施対策協議開催に
し仏國代理公使と会談について

(昭和三年九月十日)

情勢ニ鑑ミ单ニ不確実債権ヲ關稅收入担保ニ乗替ヘ確実化スル程度ノ要求ヲナスニ止メ整理公債ノ利率並償還等ニ付テハ成ルヘク寛大ナル態度ニ出ツルコト大局上有利ト認メラル

四、尚本件中間税ハ固定税率実施ニ至ル迄ノ暫行税ニシテ固定税率ハ明年一月一日ヨリ実施セラルモノトセハ中間税ノ実施期間ハ僅々二ヶ月ニ過キサルカ如クナルモ固定税率ノ実施ニハ相当ノ準備ヲ必要トシ支那ノ現状ニ於テハ到底明年一月ヨリ実施セラルモノト認メ難ク從テ右中間税ハ一旦実施ノ運トナルニ於テハ相当長期ニ亘リ続行セラルモノト見ルヘキニ付使途問題ヲ研究スルニ当リテモ右ノ点ハ之ヲ考慮ニ入ルルヲ要スヘシ

トシ又關稅自主権ノ回復ニ對シテモ釐金ノ廢止(支那側ニテハ釐金ノ廢止ハ条件ニアラスト主張スヘキモ關稅會議ニ於ケル決議通過ノ際ハ列國ノ意向ハ之ヲ条件同様ト看做シタル次第ニテ

今ニ至リテ關稅條約ノ発頭人タル米國カ釐金廢止ヲ忘却シタルカ如キ態度ヲ採ルハ了解ニ苦シム処ナリト付言シ置キタリ)互惠協定ノ締結其ノ他二、三ノ条件ヲ必要トス從テ若シ支那ニシテ之等ノ条件ニ関シ予メ何等ノ協定ヲ遂クル事無クシテ自己ノ一方的行為ニ依リ暫行税率ナリ又ハ固定税率ナリヲ実施スルモノトセハ不法之ヨリ甚シキハ無ク日本トシテハ到底之ヲ承認スルコト能ハスト述ヘタル処同代理人公使ハ理論ハ誠ニ其ノ通ナリ支那ノ不法措置ニ對シ列國トシテハ如何ニ之ヲ應酬スヘキヤト尋ネタルニ付本使ハ其ノ点ハ最重要ナル問題ナルカ本使ノ觀ル處ヲ以テセハ米支那ノ不法措置ヲ看過シ支那カ之ヲ實行スルトセハ日仏兩國トシテハ如何ニ之ヲ應酬スヘキヤト尋ネタルニ付本使ハ其ノ点ハ最重要ナル問題ナルカ本使ノ觀ル處ヲ以テセハ米支那ノ不法措置ヲ看過シ支那カ之ヲ實行スルトセハ日仏兩國ハ既ニ條約締結後ナルカ故ニ之ハ問題トナラス去リ乍ラヲ為シ難シト言フニ在リテ從テ日本政府ノ意見ヲ此ノ際説明シ難キモ本使一己ノ所見ヲ述フレハ日本ハ暫行税率実施未タ決定シタル次第ニアラス日本政府トシテハ御承知ノ通商條約問題未解決ノ際暫行税率ノ問題ニ關シ何分ノ決定ヲ尋ネタルニ付本使ハ本問題ニ關シテハ日本政府ノ意向ハ未タ決定シタル次第ニアラス日本政府トシテハ御承知ノ通商條約問題未解決ノ際暫行税率ノ問題ニ關シ何分ノ決定ヲ為シ難シト言フニ在リテ從テ日本政府ノ意見ヲ此ノ際説明シ難キモ本使一己ノ所見ヲ述フレハ日本ハ暫行税率実施

英國ハ必スシモ米國ト同様ニハ看做シ難ク自分カ先般英國

619 昭和3年9月20日

在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

上海、南京へ転電アリ度シ英仏ニ転電セリ
 (b) 不確実外債整理ノ保証等ヲ主張シ度意向ナリ



二、若シ支那側ニ於テ右原則ヲ承認シ我方ニ対シテモ正式ニ本件ニ付キ承認ヲ求メ来る場合ノ対策トシテハ支那側提案ノ内容如何ニ依リ考慮ヲ加フルヲ至当トスヘク今ヨリ具体的ニ我方ノ態度ヲ明示スル能ハサルモ税率トシテハ関税会議當時ノ日英米共同案タル所謂七種差等税率ヲ基準トシテ之カ実施ノ条件トシテハ(1)内地通過税ノ廢止

ケラレタシ

(五六九文書)
大臣宛第一七四号ニ依ルモ之ヲ有耶無耶ノ間ニ黙過シ又ハ事後ニ承認ヲ与フルカ如キ措置ニ出ルコトナカルヘシトモ推セラルニ付此際關係国一致シテ支那側ノ一方的措置ヲ未然ニ防止スルコト緊要ト思考セラル就テハ貴電仏國代理公使申出ヲ機会ニ先ツ貴官ニ於テ日仏協同シテ英國公使ヲ説得シ支那側ヲシテ本件ニ付正当ノ手続ニ出テシムル様列國協調ノ上支那側ニ対抗方可然協議ヲ遂

差等税率問題に関する英國公使との会談につ

いて

北 京 9月20日後発
本 省 9月20日後着

第一三二五号（至急）
貴電第四六九号ニ閲シ

右貴電ハ昨十九日接到シタルニ付二十日直ニ仏國代理公使ニ面会ヲ求メタル處西山ニ赴キ二十二日迄ハ帰還セストノコトニテ本使ハ同代理公使ニ面会スルニ非サレハ仏國政府ノ意向ヲ承知スルコト能ハス同政府ノ意向ヲ承知スルニ非サレハ日仏協同シテ英國公使ヲ説得スルコト不可能ナリト考ヘタルモ英國公使ハ一夜帰任シタル際ナレハ仏國側ヲ「コンミット」スルコトヲ得サルモ我方単独ノ責任ニ於テ英國公使ト本問題ヲ論議スルコトハ差支無シト思考シ先づ種々ノ問題ニ談緒ヲ開キタル上本問題ニ閲スル英國側ノ意向ヲ叩クコト然ル可シト認メ二十日同公使ヲ訪問シ同公使不在中ノ約一個月間に於ケル時局ノ發展ヨリ進ムテ別電第一三二六号及別電第一三二七号ノ通會談ヲ為シタル後本使ハ「エドワーズ」出發前ニ本使ヲ來訪シ總稅務司問題及閑

公使ト会談ノ際得タル印象ニ依レハ暫行税率実施ノ条件ニ付日支ノ間ニ協定成立スル場合ニハ英國ハ之ニ反対スルモノニ非スト認メラルカ故ニ此ノ際ノ措置トシテハ日仏ノ外英國ヲモ加ヘ三国間ニ南京政府ノ計画ニ対スル対抗策ヲ付三国間ニ協議纏マル場合ニハ右条件ヲ南京政府ニ提出シテ同政府トノ間ニ話ヲ纏ムル事得策ナルヘク
 若シ三国間ノ協議纏マル場合ニハ伊国其ノ他ノ諸国モ之ニ参加スヘキハ明白ナルニ付其ノ場合ニハ仮令米國ノ參加無シトスルモ列國側ノ立場カ頗ル有利トナルハ勿論ナルニ付南京政府ニ対抗スル場合ニ於テモ頗ル効力アルニ相異無ク要スルニ此ノ際ハ成否ハ兎ニ角英國ヲ引入ルコト最必要ナリト述ヘタル処同代理公使ハ全ク其ノ通ナリ英國ヲ引入ルコト出来得ルモノトセハ之ニ越シタルコト無ク早速自分モ御意見ノ次第ヲ本国政府ニ電報スヘシト答ヘタリ尚為念本使カ同代理公使ト協議ノ上認メタル「フォーミュラ」左ノ通

支那側ハ本年十月一日ヨリ暫行税率ヲ実施スルコトヲ決心セルモノノ如キ處ニ対シテハ必要ノ場合強力ヲ以テ反対ルコト出来得ルモノトセハ之ニ越シタルコト無ク早速自分モ御意見ノ次第ヲ本国政府ニ電報スヘシト答ヘタリ尚為念本使カ同代理公使ト協議ノ上認メタル「フォーミュラ」左ノ通

シトスルモ列國側ノ立場カ頗ル有利トナルハ勿論ナルニ付南京政府ニ対抗スル場合ニ於テモ頗ル効力アルニ相異無ク要スルニ此ノ際ハ成否ハ兎ニ角英國ヲ引入ルコト最必要ナリト述ヘタル処同代理公使ハ全ク其ノ通ナリ英國ヲ引入ルコト出来得ルモノトセハ之ニ越シタルコト無ク早速自分モ御意見ノ次第ヲ本国政府ニ電報スヘシト答ヘタリ尚為念本使カ同代理公使ト協議ノ上認メタル「フォーミュラ」左ノ通

スルカ又ハ相当条件ヲ付シテ之ニ同意スルカノニ策アルノミナル處諸般ノ事情ニ顧ミ第二案ヲ得策トシ日英仏三国ノ間ニ直ニ右第二案ニ付協議ヲ進ムルコト然ル可シ云々就テハ右様ノ事情ニ付至急御詮議ノ上若シ政府ニ於テモ右ニ御同意ノ上ハ仏國政府ノ同意ヲ経テ至急日仏双方ヨリ英國政府ニ勧誘スルコトト致シ度尚協定スヘキ条件等ニ付テモ至急御考慮ヲ煩ハシ度シ
 上海、南京へ転電セリ

618 昭和3年9月19日 田中外務大臣より
在中國芳沢公使宛（電報）

差等税率問題につき列國協調して中國側を正式手続ヘ誘導方訓令

本省 9月19日発

* 第四六九号
貴電第一三〇四号ニ閲シ

一、支那側ノ一方的行為ニ依ル關稅增徵ハ我方トシテ承認シ難キハ勿論ナル所仏國ノミナラス英國側ニ於テモ從来ノ貴電第一二七六号及一二〇号及（在英大使発本

税問題ニ付意見ヲ交換シタル際本使ハ「エ」ニ対シ日本ハ無条件ニテ差等税率ヲ承認スルコト能ハサル旨ヲ説示シテ上「エ」ノ上海着後宋子文ニ対シ右我方ノ意見ヲ伝達方差支無キ旨告ケ置キタル処「エ」ノ上海着後間モ無ク「エ」ヨリ本使ニ対シ「エ」ヨリ宋ニ対シ本使ニ於テ差等税率問題ニ関シ宋ト会談シ度キ旨ノ希望ヲ有スル旨ヲ宋ニ伝ヘタル処

自分ハ目下北上シ難キニ付本使ノ南下ヲ望ム旨宋ヨリ依頼アリタル趣本使ニ電報アリタルニ付右ハ「エ」ノ誤解ニシテ本使ニ於テハ日本側ハ無条件ニテ差等税率ニ同意シ難キ旨ヲ宋ニ伝達方ヲ依頼シタル迄ニテ右問題ニ付宋ト会談シ度キ旨伝言方依頼シタルニ非サル旨返電シ置キタルカ其ノ後「エ」ヨリ何等ノ報道ニ接セサル処諸般ノ情報ニ依レハ差等税率ヲ十月一日ヨリ実施スルコトハ未タ確定シタル次第ニ非サルモ目下詮議中ノ次第ナルハ事実ナルモノノ如ク從テ若シ南京政府ニシテ各国ノ承認ヲ得ル事無ク一方的ニ差等税率ヲ実施スル場合ニ於テハ英國側トシテモ勿論事後承認ヲ与フルカ如キ態度ヲ取ラル事無カルヘシト述ヘタル処英國公使ハ本件ニ付テハ既ニ御承知ノ通英國側トシテ

ハ要スルニ差等税率ヲ協定税率トシテ英國商品ノ地位ヲ安全ナラシメタル上来年一月一日ヨリ自主権ノ回復ヲ見ル場合ニモ其ノ儘右差等税率ノ協定ヲ存続セシメ置クコトトセハ英國商品ノ地位ハ安固トナルヘク要スルニ差等税率ヲ協定税率ト為シタキ意向ナリト答ヘタルニ付本使ハ然ラハ英國ノ欲スル互惠税率ハ関税會議ノ際日英米三国ニテ協定シタル差等税率案ノモノヲ採用スル意向ナリヤト尋ネタル處同公使ハ右日英米三国案ノ内ヨリ英國關係ノ主ナルモノヲ摘出スル計画ナルカ

日本トシテハ關稅自主権恢復ニ対スル条件トシテハ互惠税率ノ協定ヲ要求セラルヘク差等税率ノ場合ニ於ケル条件ハ如何ナルモノナリヤト尋ネタルニ付本使ハ右ニ付テハ嘗テ御話シタル通不確實外債整理ノ保障其ノ外内地通過税ノ廢止等ヲ云フモノニシテ英國ハ内地通過税ノ廢止ニ対シテハ關税會議ニ於テモ異存ナカリシテ現ニ釐金補償税等ヲ討議シタル程ナリト述ヘタル処同公使ハ英國政府ハ既ニ昨年十二月十八日ノ覚書及昨年一月二十七日ノ覚書ニ依リ「コンミット」シ居リ税率問題モ其ノ範囲ヲ出ツル能ハスト答ヘタリ茲ニ於テ本使ハ往電第一二七一号末段ニ於テ

ハ自主権恢復ニ同意ヲ表シ居ル以上夫レ以下ナル差等税率ノ実施ニ異存無ク尤モ先般御話シタル通り（往電第一一七号）米支條約ニ加フルニ協定税率（互惠税率ノ意味ニシテ英國公使ハ支那側ニ於テハ協定ノ二字ヲ喜ハサルカ故自ルヘシト考ヘ居レリト付言シ居タリ）ヲ以テスルノ案ハ本国政府ノ同意ヲ得タルニ付之ヲ基礎トシテ關稅條約ノ締結ニ進マンカト考ヘ居レリト述ヘタルニ付

本使ハ透サス其ノ御方針ハ諒解シタルモ支那側カ差等税率ヲ一方的ニ実施セントスルニ對シテハ同意セラルコトナカルヘシト突込ミタル処同公使ハ英國政府ハ差等税率ニ反対スルモノニアラサルモ支那側ニ於テ一方的ニ実施スル場合ニハ英國政府ハ多少「スチツフ」トナルヘク旁十月一日モ既ニ非常ニ切迫シ居ル次第ニ付速ニ互惠税率締結ノ交渉ヲ開キ度キ意向ニテ其ノ趣旨ニテ目下在南京英國總領事ニ對スル電訓起草中ナリト述ヘタルニ付本使ハ英國側ノ所謂互惠税率ニ就テハ先般貴公使ヨリ多少承ハリタル次第ハアルモ詳細ハ未タ之ヲ承知セサルカ果シテ如何ナルモノヲ作製セラルル意向ナリヤト尋ネタル処同公使ハ英國側ノ意向

ツド」卿其ノ他ト会談シ日英協調ノ主義上ノ談話ヲ交換セラレ其ノ細目ノ商議ノ場所トシテハ倫敦、北京、東京何レナリトモ異存ナキモ就中北京ヲ以テ便利トナスノ趣意ヲ述ヘラレタルニ対シテハ「ク」卿等モ全然同感ノ意ヲ表セラタリトノコトナルカ貴公使ニ於テハ今日迄未タ何等ノ情報ニ接セラレサルヤト尋ネタル処同公使ハ何等接収セスト答ヘタリ（在英代理大使発閣下宛電報第二〇一號^(六〇四文書)ニ依レハ同伯爵ノ「リンゼイ」ニ面会セラレタルハ十七日ニシテ「リ」ハ同伯ニ対シ全然同感ノ意ヲ表シ其ノ趣旨ニ依リ在支公使ニ訓令スヘシト答ヘタリトノコトナルニ拘ハラス英國公使ハ十七日ノ会見ニ就テモ寿府ニ於ケル「クツシエンダム」トノ会見ニ就テモ何等報道ニ接セスト云ヘルハ本使ノ少シク信用ヲ置キ難キ処ニシテ或ハ同公使カ閑税条約ノ商議即開ニ熱中スル余リ此ノ際日英ノ協調ハ好マシカラストノ考ヨリ態ト何等ノ報道ニ接セサルカノ如キ態度ヲ持シタルモノナルヤニモ邪推セラレタリ）依テ本使ハ右ノ如ク日本政府ニ於テモ差等税率問題ハ勿論其ノ他一般的ニ英國側トノ協調ヲ希望スルモノト認メラル処右ニ拘ラス英國側ニ於テ单独ニテ閑税協

⁽⁶⁾ 何等報道ニ接セスト云ヘルハ本使ノ少シク信用ヲ置キ難キ処ニシテ或ハ同公使カ閑税条約ノ商議即開ニ熱中スル余リ此ノ際日英ノ協調ハ好マシカラストノ考ヨリ態ト何等ノ報道ニ接セサルカノ如キ態度ヲ持シタルモノナルヤニモ邪推セラレタリ）依テ本使ハ右ノ如ク日本政府ニ於テモ差等税率問題ハ勿論其ノ他一般的ニ英國側トノ協調ヲ希望スルモノト認メラル処右ニ拘ラス英國側ニ於テ单独ニテ閑税協

ル重キヲ置ク処ナルニ付兎ニ角電訓ノ発送ハ二三日猶予セラレタント請求シタル処同公使ハ然ラハ折角ノ御依頼ニモアリ貴公使御來談ノ次第八高速本国政府ニ電報シテ本国政府ヨリ何分ノ電訓ニ接スル迄ハ在南京總領事ニ対スル電訓ノ発送ヲ見合ス事トスヘシト述ヘタルニ付本使ハ其ノ好意ヲ謝シタル上辭去シタル処本使ヲ見送リタル同公使ハ玄関先ニ於テ別電第一三二七号ノ總稅務司問題ニ關シ本件ニ付テハ自分モ苦心ヲ重ね居ル次第ナルカ貴公使ニ於テ何等名案無キヤト尋ネタルニ付本使ハ直ニ此ノ問題ヲ差等税率問題其ノ他ノ日英協調ニ多少トモ利用スル事ノ得策ナル事ニ想到シタルニ付總稅務司問題ニ就テハ予テ本使ヨリ貴公使ニ意見ヲ申述ヘ置キタル通日本ハ稅關組織ノ変更ハ対支貿易ニ重要ナル關係アル事ヲ認メ充分英國側ノ立場ヲ了解シ之ヲ支持シ来リタル次第ナルカ御依頼ノ次第モアリ本使ニ於テモ篤ト考慮シ置クヘシト答ヘ置キタリ

差等税率問題ニ關スル英國公使トノ会談ハ右ノ通ニテ兎ニ

角英國公使ハ在南京總領事ニ対スル電訓ノ発送ヲ二三日猶

予方承諾シタルモ英國側ノ意向ハ前記談話ニ依リ略看取シ得ヘキ次第付交渉ノ即開ヲ阻止スルコトハ頗ル困難ナル

定ノ商議ヲ進捗セラルルコトハ本使ニ於テ多少失望ヲ感スル処ニシテ若シ在南京總領事ニ対スル電訓ノ発送ヲ兩三日猶予セラルルコトヲ得ハ幸甚ナリト述ヘタル処同公使ハ実ハ自分ハ既ニ本国政府ノ「オウソリゼイション」ヲ得タル結果ニモアリ且差等税率ハ十月一日ヨリ実施セラルルモノトセハ既ニ余日モ無ク成ルヘク交渉ヲ即開シタキ意向ニテ又自分ノ直覺ニ依ルニ斯ノ如キ交渉ハ時期ヲ逸スルコト面白カラサルニ付成ルヘク速ニ開始シタキ意向ナルカ在南京總領事ニ対スル電訓モ今直ニ交渉ヲ開始セムトスルニ非スシテ訓令ノ劈頭ニ於テ先ツ日下本件交渉ヲ開始スルコト時期ノ宣シキヲ得タルモノナリヤ否ヤノ点ニ付南京政府ノ意向ヲ探ラムトスルモノニテ若シ時期ニ適セリトセハ茲ニ於テ交渉ニ入りタキ所存ニテ且交渉ニ入ルトスルモ仮令「タリファレンジメント」ナル文字ヲ用フルニセヨ税率ノ協定ナルコトハ事實ナルニ付

南京政府トシテハ容易ニ協定税率ニ応スルコトハナカルヘク自分トシテハ楽觀シ難キヤニ認メ居レリト述ヘタルニ付本使ハ英國側ノ意向ハ充分了解シタルモノ本件ノ如キ税率問題ハ各国トモ夫々關係ノアル問題ニテ殊ニ我方トシテハ頗

ヤニ認メ且我方ニ於テハ債務整理、通過稅ノ廢止等ノ有條件主義ナルカ故仮令之ヲ阻止シ得ルトスルモ協調ヲ實現スルコトハ容易ノ業ニ非ス去リ乍ラ結局協調不能ニ終ルトスルモ兎ニ角至急帝國政府ヨリ英國政府ニ申入レラレ英國公使ヲシテ交渉開始方ヲ差当リ中止セシメ白仏両國ト出来得ル範囲ニ於テ協調セシムル事ヲ得ハ本問題處理上好都合ト思ハルニ付右様至急御取計アラム事ヲ切望ス本電ハ至急ヲ要スト認メラルニ付本使ヨリ直接在英代理人ニ付転電スヘキニ付閣下ヨリモ至急然ルヘク同代理ニ御電訓相成様致シタシ

本電別電ト共ニ上海、南京ヘ転電シ本電ノミ在英代理大使ヘ転電シ英ヲシテ仏ヘ転電セシム

620 昭和3年9月20日

田中外務大臣より
在英國佐分利臨時代理大使宛
(電報)

差等税率実施問題につき英國の協調要請方訓

第一一七号

在支公使發本大臣宛電報第一三二五号ニ関シ
(六一九文書)

関税問題ニ付英國側トノ協調困難ナルヘキハ貴電第二〇一
号末段極東部長ノ談ニ依リテモ推知セラル通リニシテ英
支間税率協定ノ交渉開始ヲ阻止スルコト不可能ナルヤニ思
考セラルモ此際英國政府ニ対シ我方ノ立場ヲ説明シ置ク
コト適當ト認メラルニ就テハ貴官ハ英國當局ニ対シ左記
ノ趣旨可然御説明ノ上今後ノ協調方ニ付諒解ヲ得置カレタ
シ

一、暫行税率問題ニ関スル帝國政府ノ態度ハ往電第一一一
号ノ通りナル處支那側ハ右税率引上ニ付テハ岡本發本大

臣宛電報第四五九号ノ通り関係各國ノ同意ヲ求ムル意向
ナルヤニモ認メラルモ事ノ如何ニ依リテハ一方的実施ノ
底意ナルヤモ計ラレス然ルニ右一方的措置ハ條約上之ヲ
容認スル能ハサルハ勿論之カ阻止方ニ付テハ日支追加通
商條約第一条、華府關稅條約並ニ關稅特別會議ノ成行等
ニ鑑ミ列國共同ノ態度ニ出ツルコト正当ナリト認メ特ニ
英國政府ノ協調ヲ希望スルカ為芳沢公使ヲシテ英國公使
ニ対シ右ノ旨申入レシメタル次第ナリ（前記在支公使來

往電第四五四号ニ関シ

本十九日午后本官宋財政部長ヲ往訪最近新聞ノ伝フル処ニ
依レハ国民政府ハ關稅會議ノ各國共同修正案ト著シク掛離
レタル七種差等税率案ヲ作成シ来ル十月一日ヨリ実施スヘ
シトノ事ナルカ右ハ果シテ事実ナリヤト質シタルニ対シ宋
部長ハ七種差等税率案実施準備中ナルハ事実ナルモ右税率
ハ全然關稅會議ニ於ケル支那側提案ヲ基礎トセルモノニシ
テ最高六割乃至八割ト謂フカ如キ法外ナルモノニ非スト一
笑ニ付シ又十月一日ヨリ実施スト謂フカ如キハ固ヨリ有り
得ヘカラサル事ニシテ右ハ或ハ上海ニ於テ國定税率委員會
辺ニ於テ國定税率ヲ十月一日頃公表シテハトノ意見アリタ
ルヲ誤リ伝ヘタルモノナルヘク本差等税率ニ付テハ曩ニ
「エドワーズ」ヲシテ芳沢公使ヲ通シ貴國政府ノ御意向ヲ
確メシメタル次第ナルモ未タニ何等ノ御申出之無キ処聞ク
処ニ依レハ本税実施ニ付テハ日本ハ強硬ナル反対意見ヲ有
ト尋ネタルヲ以テ本官ハ未タ何等ノ訓令ニ接シ居ラスト答
ヘタル処宋ハ然ラハ至急貴政府ノ御意向ヲ確カメラル様
願度本件ニ關シテハ在滬中矢田總領事ニモ御話致シ度ク存

電参照）帝国政府トシテハ勿論英國カ税率協定ニ付交渉

ヲ開始スルコトニ付何等之ヲ阻止スル意思ナキモ支那側

カ暫行税率ヲ一方的ニ実施シ而カモ海關ニ於テ之ヲ徵收
スルカ如キ場合ニハ帝国政府ハ必要ニ応シ其適當ト認ム
ル対抗手段ヲ講セサルヲ得サルニ至ルヘク此点ハ英國側
ニ於テモ特ト慎重ノ考慮ヲ払ハレンコトヲ希望ス
尚帝国政府ハ英支交渉ノ進捗如何ニ拘ラス今後モ可能ノ範
囲ニ於テ英國側トハ協調ヲ保チ度キ意向ナリ

仮ヘ転電シ歐米各大使並ニ瑞典、西班牙、和蘭ヘ暗送アリ
度シ

621 昭和3年9月20日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛（電報）

現在準備中の差等税率案は北京關稅會議での
中國案を基礎としている旨の宋子文財政部長
の説明について

南京 9月20日後発
本省 9月21日前着

第四五九号

シ居リタルモ掛違ヒ其ノ意ヲ果シ得サリシ次第ナリトテ我
政府ノ意向ニ付特ニ懸念セラルヤニ見受ケラレタリ
尚國定税率ヲ來年一月一日ヨリ実施スト声明セラレタルヤ
ニ承知スル處事実ナリヤトノ質問ニ対シ宋ハ「未定ナルモ
之亦準備其ノ他ノ關係上容易ニ実施シ能ハサルヘシ」と答
ヘタリ

在支公使、上海へ転電セリ

622 昭和3年9月23日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

宋子文、差等税率実施にかかる國民政府側
の意向を説明について

上海 9月23日後発
本省 9月23日後着

第六四八号

⁽¹⁾宋子文ヨリ南京領事ヲ経テ本官ニ面会ヲ求メタル結果宋ハ
二十二日來滬シ二十三日午前宋ノ私宅ニテ会见ス右談話ノ
大要左ノ通

宋ハ先ツ本官トノ親シキ会談ヲ希望シ之ヲ試ミタルカ未タ

右ニ対シ本官ハ貴電第二二四号ノ趣意ヲ繰返シ暫行税率ト謂フモ通商条約ヨリ切離サレタルモノナラサル以上ハ通商条約其ノモノハ改訂問題カ国民政府ト日本政府トノ間ニ停頓シ居ル現状ニ於テハ考量ノ余地少カルヘシ国民政府トシテハ先ツ第一ニ條約問題ヲ解決シ然ル後暫行税率実施問題ニ入ル事順序ナルヘシト述へ種々意見ヲ戰ハシタルカ兔ニ角前記国民政府ノ所見ヲ至急帝国政府ヘ電報アリ度シト要求セルニ付本官之ヲ承諾シ辞去セリ

ニ対シ実施シ漸次他省ニ及ホスコトニ決シタリ右趣意ヲ日本政府ニ伝達サレ其ノ回答ヲ得度シ尚茲ニ念ヲ押シ度キハ国民政府ハ飽迄日本ト了解ヲ得ムトスルモノニシテ決シテ高压の方法ヲ採ラムト考フルモノニ非ス然レトモ如何セム時日遷延セムカ国民政府トシテ窮余多少ノ無理ヲシテモ焦眉ノ急ヲ救ハサルヘカラス尚又暫行税率ヲ実施スルヲ得ハ関税自主ノ実現ハ余り急ヲ要セスト認メ居レリ云々ト述ヘタリ

差等税率実施問題に關しできるだけ協調国を
増やすべき旨意見具申

北京 9月25日後発
本省 9月25日後着

第一三三四六号
往電第一三二五号ニ閑シ

二十五日仏國代理公使ヲ招キ本月二十日英國公使訪問ノ顛末概要ヲ内話シタル上仏國政府ヨリノ電訓ノ有無ヲ尋ネタル處同代理公使ハ自分ヨリ發送シタル電報ニ對シ今日迄何等ノ返電ニ接セサルモ多分在英同國大使ヨリ英國政府ニ交渉中ノコトト思考スル旨ヲ述ヘタルニ付本使ヨリモ貴電第四七九号ノ次第ヲ略述シ置キタリ尚同代理公使トノ間ニ種々意見ヲ交換シタルカ要スルニ英國政府トノ交渉ノ發展ヲ俟チ其ノ結果ヲ見タル上今後執ルヘキ措置ヲ更ニ考究スルコトセリ尤モ同代理公使カ在上海同國總領事ヨリ得タル電報ニ依レハ英支間ノ関税協約ノ商議ハ既ニ在南京英國總領事ト南京政府トノ間ニ開始セラレタルモノノ如ク同代理公使ハ其ノ内容ヲ既ニ承知シ居タル処(右ハ英國公使ヨリ承知シタルニハアラスシテ上海仏國總領事ノ電報ニ依リ)

今日迄其ノ都合着カサリシカ其ノ用件ハ暫行税率問題ナリ国民政府ハ近ク暫行税率表ヲ二箇月間ノ予告ヲ以テ發表スルコトニ決シ若シ十月一日發布スレハ十二月一日ヨリ実施スル訳ナリト述ヘタルニ付本官ハ日本政府トシテハ国民政府カ日本ト何等了解ヲ經スシテ一方的ニ実施スルコトニ反対ナリト述ヘ往電第六三九号ノ件ヲ述ヘ御來訓ノ次第ヲ敷衍説示シタル処宋ハ国民政府ハ何ト云ハルモ金カ要ル訊ニテ何レヨリカ之ヲ捻出セサルヘカラサル破目ニ陥リ居レリ暫行税率ノ実施ニ付テハ自分カ去ル七月北京ニ赴キシ際「エドワーズ」ヲ通シテ日本政府ノ意向ヲ聞合ハシメタルコトアリタリ之ヲ以テ觀ルモ日本政府ヲ無視シテ暫行税率ヲ実施スル意思ニ非サルコトハ明カナリ

然ルニ日本政府ヨリ爾来何等ノ意思表示ヲ聞カス他方国民政府ノ収入増加ノ必要ハ刻々迫リツツアリ實ハ自分ハ今日迄日本政府ノ回答ヲ待チ草臥レ居レリ右暫行税率ハ日英米三国代表ノ協定シタル所謂七種差等税率ヲ採用セントスルモノニシテ其ノ増徵予想ハ當時六千五百万弗ナリシカ其ノ後大連青島ヲ除キ支那全国ニ亘リ二分五厘ノ付加税ヲ徵收シ且「ペトロリウム」ニ付テハ税率表ニ依レハ一割二分五

厘ノ税率ナレハ国民政府ハ石油会社ト協定シ現ニ三割ノ輸入税ヲ課シツツアリ又煙草ニ付テモ二割七分五厘ヲ徵取シツツアリ從テ七種差等税率実施ノ結果国民政府ノ増徵予想ハ年額二千五百万弗ニ過キス日本政府カ若シ此ノ少額ノ歳入ヲ割キテ無担保借款ノ償却ニ充テント主張セラルモ到底無理ナル註文ナリ

仮ニ若シ日本不同意ナリトセムカ已ムヲ得サルニ付列国ニ對シ何月何日ヨリ新税率ヲ実施スヘキ事ヲ通告スヘシ其ノ場合ニ日本ハ領事館供托等ノ方法ニ依リ日本商品ニ對スル課税ヲ阻止スルトモ日本輸入品ノ大宗ハ新税率ニ依ルモ七分五厘ニ過キスシテ右ハ既ニ「アンダープロテスト」ニテ日本商人ノ支払ヒ居ル処ナレハ斯ノ如ク大シタ実害ナキ問題ニ付テ日本獨リ不承認ノ態度ヲ固執シ両国民ノ感情ヲ悪化セシムルハ日本政府ノ為ニ採ラサル処ナリ次ニ又仮ニ列国挙テ反対シ万一實行不能ニ陥リタリトセムカ国民政府ハ二千五百万弗ノ歳入ヲ失フニ過キス而モ其ノ場合ニハ自分ハ内国税ヲ起シ結局間接ニ輸入品ニ課税スル事トナリテ日本商品ニ取りテハ同一ノ結果ヲ齋スニ過キサルヘシ尚釐金廃止ニ付テハ江蘇、浙江、安徽、福建、江西ノ五省

承知シタルモノニ相違ナシ) 若シ果シテ英支間ノ交渉ニシテ既ニ開始セラレタルモノトセハ在南京總領事ニ対スル訓發送ヲ見合ハスヘシトノ英國公使過日ノ言明ハ信用ヲ置キ難キ次第ニテ

又(2)英國政府ノ我方ニ対スル返答モ多分「アンフェーボラブル」ナルヘキヤニ想像セラルル処往電第一三一一号ノ南京政府ノ公文ハ瑞典、諾威ノ外更ニ英國及和蘭兩國公使ニモ到達シタル趣ナルニ付(仏國代理公使ハ昨二十四日右ノ次第ヲ聞込ミタル由) 本使ハ何レ和蘭公使ニモ面会シテ同公使ノ意向ヲ尋ネタキ所存ナリ

惟フニ關稅問題ニ關スル列國間ノ協調ニ付テハ米國ハ全然圈外ニ在リ英國ハ關稅自主権ノ關スル限り協定税率締結ノ点ニ於テハ我方ト協調シ得ヘキ^(脱カ)差等税率ノ条件ニ付テハ我方ト協調困難ノ關係ニ在リ爾余ノ多數小國ハ問題トスルニ足ラサルモ唯和蘭ハ債務整理ニ關シ幾分ノ「インテレスト」ヲ有スル故ニ英國政府ノ態度ニシテ果シテ我方ニ「アソフエーボラブル」ナル場合ニハ和蘭ノ如キ小國ヲモ本件協調ニ加フルコト有利ナルヘシト思考スル次第ナリ

要スルニ通商條約及關稅問題ニ付テハ最惠國条款ト同時ニ

上海、南京へ転電セリ

624 昭和3年9月25日 在英國佐分利臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

英國は海關制度維持を重視しており英國の関税交渉阻止は困難について

ロンドン 9月25日後発

本省 9月26日後着

貴電第二二六号
⁽¹⁾
英國第一一七号ニ關シ

先ツ以テ英國當局ノ意向ヲ確カメ旁々目下本問題ニ付専ラ其ノ衝ニ当レル極東部長ト會談スルヲ適當ト認メ二十四日會見シ二十日芳沢「ラムソン」両公使ノ談話ニ付北京ヨリ

立場ニ非ス然レトモ此ノ機會ニ於テ支那側ヨリ何物カラ得置キ度出来得ル範囲内ニ於テ将来支那貿易ノ安定ニ資スル為何等カノ保障ヲ得ム事ヲ企圖スル次第ニテ之トテモ嚴正ニ言ヘハ關稅問題解決ノ条件トシテ要求スル立前ニ非サル位ナル事ヲ述ヘ

次⁽²⁾ニ海關ノ危機ニ言及シ万一支那側ニ於テ暫行税率ヲ一方的ニ実施スル事トナル場合ニ於テ總稅務司カ條約上不法ナリトテ徵收ヲ拒絶スレハ支那ハ直ニ海關ヲ破壞シ別ノ機關ヲシテ之ヲ徵收セシムルニ至ルヘキハ明カナリ然ルニ今日迄ノ情報ニ依レハ幸ニモ支那ハ暫行税率実施ニ付予メ外國トノ間ニ諒解ヲ遂ケム事ヲ希望シ又右実施ニ就テハ二ヶ月ノ猶予機関ヲ設クル意向ナル趣ニ付此ノ機ヲ逸セス支那トノ間ニ協定ヲ遂ケム事ヲ希望シ又右実施ニ就テハ二ヶ月延セシムルヲ得サル次第ナリト言ヒ尚「ラ」公使ノ南京總領事ニ付スル訓令ハ曩ニ南京側ヨリ英支條約ト同様ノ條約ヲ結ヒ度旨申出テタルニ対シ挨拶スルニ當リ暫行税率案ヲ基礎トシテ税率協定ヲ為シ得ルヤ否ヤヲ「サウンド」セシムル趣旨ナリト付言セリ本官ハ部長ノ談話ニ就テハ時々言ヲ挿ミ我方ノ態度及意向ヲ説明スル所アリタルカ更ニ言

電報アリタリヤト問ヒタルニ「ラ」ヨリ内田伯ト英國當局トノ會談ニ付問合セアリタルカ右ハ過日御話セン「ラ」公使宛電訓ト行違ヒタル次第ナリト答ヘタリ依テ本官ハ両公使談話ノ主タル問題ハ關稅ニ關スルモノニシテ芳沢公使カ「ラ」ニ對シ南京英國總領事ニ付スル訓令發送延期方ニ付希望ヲ述ヘ「ラ」ハ本国政府ニ請求スヘキ旨答ヘラレタルカ右ニ対シ何等回訓ヲ發セラレタリヤト問ヘルニ部長ハ芳沢公使トノ談話ニ付テハ「ラ」ヨリ報告アリタルカ之ト行違ニ南京ニ於テ關稅問題交渉ノ「オーソリゼーション」ヲ与ヘラレタル次第ナリト答ヘタルヲ以テ本官ハ更ニ「ラ」公使ニ付シテハ別ニ回訓セラルヘキヤト質シタルニ既ニ前記「オーソリゼーション」ヲ与ヘタル事ナレハ更メテ申送ル積リ無シト答ヘタリ右ノ通本官再応ノ質問ニ付スル部長ノ答ハ些カ適切ヲ欠クヲ以テ本官ハ更ニ進シテ然ラハ英國政府ニ於テハ「ラ」公使ノ南京總領事宛訓令發送ヲ延期セシムル意向無キ次第ナリヤト質問シタルニ之ニ付シ部長ハ南京政府トノ交渉ヲ延期シ得サル理由ヲ縷々説明シタルカ其ノ要領ハ第一ニ英國ハ既ニ關稅自主権ニ同意ヲ与ヘ居ルヲ以テ実ヲ言ヘハ暫行税率ノ実施ニ付彼是異議ヲ挿ミ得ル

更メテ本官カ英國当局ニ対シ申入方政府ヨリ訓令セラレタ
ル趣旨ヲ再言スヘシトテ貴電第一一七号（左記）ノ趣旨ヲ
繰返シ殊ニ支那側カ暫行税率ヲ一方的ニ実施シ海關ニ於テ
之ヲ徵收スルカ如キ場合ニハ英國政府ハ其ノ適当ト認ムル
手段ヲ講セサルヲ得サルニ至ルヘク云々ノ点ハ力強ク述へ
タルニ付右ハ實際ノ状況ニ依ルヘシト思考スル旨答へ次
ヒタルニ付右ハ實際ノ状況ニ依ルヘシト思考スル旨答へ次
イテ本官ハ英國政府ニ於テハ英支交渉ノ進捗如何ニ拘ラス
今後モ出来得ル限り英國側ト協調ヲ保タレ度意向ナル旨ヲ
述ヘタルニ付部長ハ之ヲ了解シタル後協調問題ニ付内田伯
ニ御説明シタルハ實ニ本件ノ如キ場合ニ互ニ誤解無カラム
事ヲ欲シタルカ為ナリト言ヒ又部長ハ支那カ一方的ニ暫行
税率ヲ実施スルカ如キ事態ヲ生セシメサル様日本側ニ於テ
モ早ク交渉ヲ開カレム事ヲ切望ニ堪ヘサル旨ヲ繰返シ述ヘ
タルニ付

⁽³⁾ 本官ハ英國政府ニ於テモ支那ヨリ本税実施ニ付承認ヲ求メ
來場合ニ対スル大体ノ方策ハ既ニ是ヲ定メ居ラル次第
ナリトテ在支公使宛貴電第四六九号（文書）第二項ノ趣旨ヲ重ネテ
説明シタルニ付長ハ内地通過税ノ廢止要求ニ付テハ關稅會

議ノ初期ニ於テハ是ニ重キヲ置キタルモ其ノ後是カ實現不
可能ト認メ本問題ハ英國側トシテ事實上放棄シ居ル次第ナ
リ又不確實外債整理ニ付テハ英國ハ適當ノ整理案カ見出サ
レントヲ切望スル次第ナルモ率直ニ云ヘハ英國自身ニハ
利害關係少キ問題ナリト思考シ居ル旨ヲ述ヘタリ依テ本官
ハ不確實外債ノ整理ハ支那側ニトリテモ絶対緊要ノコトナ
ルノミナラス關稅會議中ニモ支那當局ハ是ヲ整理ンタキ意
向ヲ有シ居リタル次第ナリト述ヘタルニ付長ハ其ノ通リナ
リト云ヒ又本官カ關稅問題解決ノ際内地通過税ヲ廢止セシ
ムニアラサレハ右廢止ノ好機ヲ逸スルコトトナルヘシト
述ヘタルニ付シ部長ハ自分ハ必シモ左様ニハ思ハス支那
自身ニ於テ自發的ニ漸ヲ追フテ廢止スルコトアリ得ヘシト
答ヘタリ

要之ニ英國當局ハ此ノ際海關制度ノ維持ニ最モ重キヲ置キ

而シテ支那ノ新稅實施ハ何レノ途是ヲ阻止スルヲ得スト諦
メ居リ從テ支那ノ新稅實施ヲ事前ニ合法化シ以テ出來得ル
限り海關ノ危機ヲ予防セント焦慮シ居ルモノト認メラレタ
リ右ノ次第ナルヲ以テ閣下ニ於テモ既ニ御推察相成ル通り
此ノ際英國側ノ關稅問題交渉ヲ阻止スルコトハ困難ト認メ

トアルモ更ニ「クツシエンダン」卿ト會見ノ上我方ノ立場
ヲ説明シ殊ニ今後ノ協調方ニ付了解ヲ得置クコトニ努ムヘ
シ
米、仏、独、伊、白、露、連盟事務局ニ転電シ、土、蘭、
西、瑞典ニ暗送セリ

625 昭和3年9月28日 在英國佐分利臨時代理大使より
田中外務大臣宛（電報）

差等税率実施問題に対する列国協調に関する
カッセンダン卿との会談について

ロンドン 9月28日後発

本 省 9月29日前着

往電第二二三三号
⁽¹⁾ 第二二六号ニ閲シ

九月二十七日「クツシエンダン」卿ニ會見先ツ同卿ヨリ内
田伯ハ満足シテ当地ヲ立タレタルヤト問ヘルニ付然リ殊ニ
「バーケンヘッド」卿ノ演説ニハ満足ノ意ヲ表シ居ラレタ
リト挨拶シタル上日英協調ニ付同伯ト英國側トノ話合ヒノ
後第一ニ逢着セル問題ハ暫行税率実施ニ関スルモノナルカ

トテ話ヲ進メントスルヤ同卿ハ之ヲ遮リ貴官ノ御話ヲ承ル
ニ先タチ一応申上度ハ是等ノ問題ニ關スル日英間ノ話合ヒ
ハ北京ニ於テ行フ事ニ内田伯ト御話シ同伯ニ於テ全然同意
ヲ表サレタル次第ナリト述ヘタルニ付本官ハ既ニ其ノ趣旨
ニテ芳沢公使ニ訓令セラレ居リ去ル二十日同公使ハ本件稅
率問題ニ就テハ「ラムソン」ト懇談シタル次第アリ右ニ就
テハ月曜日同卿帰倫早々且閣議ノ日ナリシヲ以テ不敢極
東部長ニ一応話シ置キタルカトテ両公使談話ノ要点ヲ述ヘ
進テ貴電第一一七号（文書）ノ趣旨ニ依リ先ツ暫行税率問題ニ關ス
ル政府ノ方針ヲ告ケ次イテ英國政府ニ於テハ支那カ一方的
ニ新稅ヲ実施スル事ハ明カナル條約違反ナルヲ以テ之ヲ容
認スル事能ハス而シテ之カ阻止ニ就テハ從来ノ種々ノ關係
ヨリシテ列国共同ノ態度ニ出ツルヲ正当ト認メラレ居リ殊
ニ英國トノ協調ヲ希望セラル云々ト述ヘタルニ同卿ハ日英
協調ノ事カ外部ヨリ問題トセラル時ハ却テ面白カラサル
影響ヲ來スヘシト輕ク述ヘタル後日本政府ニ於テハ列国政
府共同シテ如何ナル手段ヲ取ラムトスル御趣旨ナリヤト反
問セルニ付本官ハ先ツ以テ関係諸國ニ於テ暫行税率ノ一方
的実施カ條約上不法ナリト認ムル旨ヲ等シク表示スル事ハ

緊要ナルヘク而シテ一方的実施ヲ阻止スル具体的ノ手段方法ハ相互協議ノ上時宜ニ応シ決定セラルヘキモノト思考セラルト答ヘタルニ「ク」卿ハ英國ハ既ニ無条件ニテ關稅自由ヲ認ムル意向ヲ声明シ居リ且釐金廃止ハ英國側ニ於テハ最早問題トセス又不確実外債整理ノ問題ニ付テハ既ニ覺書ニ依リ其ノ全般ノ態度ヲ声明シアルヲ以テ是ニ反スルコトヲ得スト述ヘタリ依テ本官ハ極東部長トノ談話ニ依リ両國ノ考ニ逕庭アルコトヲ承知シタルカ更ニ

今段々ノ御話ヲ承リテ英國側ニ於テ關稅問題ニ關スル南京政府トノ会談ヲ延期スルコトハ困難ト認メラルヘキヤニ推察セラル處英國政府ニ於テハ勿論英國カ右交渉ヲ開始スルコトヲ阻止スル意思ヲ有セラル次第ニ非サルモ支那側カ一方的ニ暫行税率ヲ実施シ海關ニ於テ是ヲ徵收スルカ如キ場合ニハ帝國政府ハ必要ニ応シ適當ノ手段ヲ講セサルヲ得サルニ至ルヘシト考ヘラル次第ナル旨ヲ述ヘタルニ

「ク」卿ハ右ハ如何ナル手段ナルヘキヤト問ヘルニ付其ハ場合ノ如何ニ依ルモノナルヘシト答ヘタルニ「ク」卿ハ予メ是ヲ「デファイン」スルヲ欲セラレサルモノカト言ヲ挾得サルニ至ルヘシト考ヘラル次第ナル旨ヲ述ヘタルニ

「ク」卿ハ右ハ如何ナル手段ナルヘキヤト問ヘルニ付其ハ場合ノ如何ニ依ルモノナルヘシト答ヘタルニ「ク」卿ハ予メ是ヲ「デファイン」スルヲ欲セラレサルモノカト言ヲ挾得サルニ至ルヘシト考ヘラル次第ナル旨ヲ述ヘタルニ

626 昭和3年10月2日 田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛（電報）

差等税率実施問題につき我が方承認条件に沿
う文渉妥結へ尽力方訓令
別電 十月二日付田中外務大臣より在上海矢田總領事宛第二四七号
差等税率実施承認のための条件

本省 10月2日発

*
貴電第六四八号ニ閲シ

貴官宋子文トノ会談ニ依リ(一)支那側ニ於テ暫行税率ヲ一方的ニ強行スルノ意図ナキコト(二)税率ハ關稅會議ノ際ノ日英米三国共同案其儘ナルコト(三)二分五厘付加税ヲ廃止スル意向ナルコト等略判明シタルモノト被認所果シテ然リトセハ支那側ヨリ正式ノ手続ニ依リ具体的提案ヲ以テ我方ノ承認ヲ求メ来る場合我方トシテモ好意的考慮ヲ加フルニ吝ナラサル次ナルモ他方通商條約問題解決セサル今日我方トシテハ條約商議ノ主要事項タル關稅自主権恢復ヲ前提トスル暫行税率又ハ中間税率トシテ本問題ヲ取扱フ事ハ絶対ニ之ヲ避ケ度キ意向ニシテ從テ本問題ハ條約問題ノ懸案ト引離シ支那側ノ單純ナル關稅增徵計画トシテ之ヲ取扱フノ外ナ

メルニ付本官ハ實際如何ナル場合ヲ生スヘキヤ予測シ得サレハナリト述ヘ置キタリ次ニ本官ハ重ネテ英國側ニテハ南京トノ交渉開始ヲ延期スルコトハ困難ト認メラルヤモ知レスト独リ言的ニ繰返シタルニ「ク」卿ハ右交渉ハ一週間に位前ヨリ着手シタリト了解シ居レリト言ヘリ「ク」卿ト会見直後ニ一極東部員ト談話ノ際此ノ点ヲ確カムル為南京ニ於ケル關稅交渉ハ既ニ開始セラレタリヤト質シタルニ未タ開始セラレスト答ヘタリ)何レニセヨ右同卿ノ言ニ依リ会談延期ノ意ナキコトハ明カトナリタルヲ以テ本官ハ言ヲ次テ英國政府ニ於テハ英支交渉ノ進捗如何ニ拘ラスコン(脱)モ可能ノ範囲ニ於テ英國側トノ協調ヲ保チ度キ意向ヲ有セラルニ付右篤ト御了承アリタント述ヘタルニ「ク」卿ハ英國側ニ於テモ全然御同感ナリト答ヘ右ニテ本件ノ談話ヲ結ヒ他ノ話題ニ移リタリ
米、仏、独、伊、露、白、連盟ニ転電シ土耳其、和蘭、西班牙、瑞典ニ暗送セリ

北京ニ転電セリ南京ニ転電アリタシ

本省 10月2日発

**第二四七号

往電第二四八号
(六二六文書)
別電第二四七号我方案説明左ノ通り往電第二四六号ニ閲シ
(六二六文書別電)

一、北京関税會議當時ニ於ケル各國専門委員共同案タル七

種差等税率ヲ其儘輸入付加税率トシテ採用スルコト

二、前記差等税率中ニハ当然抵代税ヲ包含スルモノト見做

スコト

三、対支不確実担保又ハ無担保債権ノ整理ニ付テ関税收入ヲ担保トル債トシテ整理スルノ方針ヲ確認シ之カ具体案作成ノ為メ七種差等税率施行前ニ支那政府代表者ト対支債権国代表者トノ会合ヲ開キ協議セシムルコト若シ右会合実現困難ト認ムル場合ニハ日支間ノ協議ヲ開催スルコト

南京ニ転電アリタシ

627

昭和3年10月2日

田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛(電報)

差等税率実施承認のための我が方条件に関する説明について

二、往電第二四七号ニ付本件支那側來翰中ニハ別表差等税率現行五分税ニ付加スヘキ旨記載セシメ別表トシテ各

國専門委員共同案ヲ付属セシムルコト適當ト認メラル尚実施スヘキ税率自体ニ付テハ現行從価税ハ兎モ角従量税ニ閑スル限り換算付加ノ要アル外前記差等付加税品目ヲ現行税表ノ品目ニ当テハムル要アリ之カ為ニハ少クトモ分類其他ニ付我方ノ同意ヲ経テ之ヲ決定スヘキモノナルカレ度ン

ニ付予メ了解ヲ遂ケ置カレ度シ察スルニ支那側ハ差等税率実施ノ場合ハ曩ニ物価編訂委員会ニ於テ非公式ニ編成ヲ了シタル税率ヲ基礎トスヘキ意向ナルヘキモ実ハ之亦正式ニ我方ノ承認ヲ求メシムル要アルニ付形式ヲ簡単ニスル趣旨ニ於テ前記支那側來翰中「別表差等税ヲ現行五分税ニ付加スヘキ旨」トアル箇処ヲ「別表差等税ヲ物価編訂委員会ニ於テ編成スル税率ニ付加シタルモノヲ輸入税率トシテ採用スヘキ旨」ト改メ右委員会編成ノ税率表ヲモ添付セシムルコトトセハ本問題ヲ容易ニ解決シ得ヘシト思考セラル

三、同二ニ付差等税率中ニ抵代税ヲ包含スルモノトスル結果差等税納付済ノ貨物ハ現行條約第十一條ノ抵代税ヲ納付シタルモノト見做サレ更ニ何等ノ税金支払ヲ要セヌシテ同条所定ノ特典ヲ享有スヘキモノナリ此点ハ北京関税特別會議當時列國側ニ於テ異議ナカリシ所ナルノミナラス支那側ニ右共同案手交ノ際佐分利委員ヨリ特ニ説明ヲ加ヘタルニ対シ支那側ニ於テモ了解シ居リシ次第ナリ(支那關稅特別會議報告書第一一八頁参照)尚從來我方ニ於テ差等税率承認条件ノ一トシテ通過税ノ廃止ヲ主張

現実ノ增收額二千五百萬元ニ過キスト称スルモ仮リニ一千六百万元右ノ中ヨリ現行二分五厘稅收約三千万元外ニ石油稅純增收額約二千万元(現行税率ヲ三割ト仮定シ其

ノ中ヨリ五分又ハ二分五厘ヲ控除シタル二割二分五厘ヲ
増収率トス) 及煙草税純増収額約六百万元(二割七分五
厘中ヨリ五分及二分五厘控除額ヲ増収率トス)ヲ加算シ
テ差引クモ尚現在ニ比シ四千万元内外ノ増収アリ必シモ
支那側計算ノ如キ結果トナラス從テ債務整理ニ充当シ得
ヘキ余裕十分ナリト認メラル此点御含置ノ上必要ニ応シ
支那側ニ説明セラレ度シ

北京ニ転電セリ、南京ニ転電アリ度シ

628

昭和3年10月3日

田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛(電報)

差等税率問題交渉は条約問題とは矛盾しない

旨の見解について

本省 10月3日後6時30分発

*
第二五三号
(六二六文書)
往電第二四六号ニ閲シ

差等税率問題ト日支条約問題トハ密接ナル關係アリテ條約
問題ニ対スル態度ヲ変更セサル限り我方トシテハ差等税率
等税率実施ノ上ハ現行二分五厘付加税ヲ廢止スヘキコトヲ
問題ヲ考慮スルヲ得サルヘシトノ議論モアリタルモ差等税
明言シ

第二点抵代税ニ付テハ未タ考慮シタルコトモ無ク関税會議
當時ノ經緯モ記憶シ居ラストノコトナルニ付本官ハ御訓電
ノ趣旨ニ從ヒ充分我方ノ立場ヲ説明シ研究ヲ促シ置キタリ
第三点債務整理ニ付テハ自分ハ充分ノ誠意ヲ有スルモ無担
保又ハ不確実担保ノ借款余リニ多ク且国民政府ノ財政モ窮
乏シ居ル折柄ナレハ右整理具体案成立迄ニハ長日月ヲ要ス
ニ取極置キタリ

公使、南京ニ転電セリ

630 昭和3年10月9日

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

宋子文、抵代税廢止を同意および債務整理の
ための債権所有者代表會議開催を提案について

従テ右整理案ノ完成ヲ俟ツテ差等税率ヲ実行セヨト言フハ
ヘク

無理ナル注文ナリト述ヘタルニ依リ本官ハ関税會議當時ノ
經緯ヲ指摘シ且我方ノ計算ニ依レハ差等税率実施ニ依ル增
収差引四千万元内外ニ達スヘキ見込ニテ其ノ一部ヲ債務整
理ニ充當スルノ余裕アリト認メラル旨弁駁シ尚今回我方

提出ノ条件ハ支那ニトリテモ極メテ実行容易ナルモノナレ
ハ我方ノ好意ヲ諒トシ慎重考慮アリタキ旨御電訓ノ趣旨ヲ
可然敷衍説明シタル処宋モ日本ノ好意的態度ニ満足ノ意ヲ

率問題ハ一九〇二年ノ英支条約、華府関税条約等ニ由来シ
関税會議以来ノ懸案ニシテ日支条約問題トハ其經緯ヲ異ニ
スルカ故ニ此際差等税率問題ニ關スル支那側ノ申出ニ対シ
考慮ヲ加フルモ條約問題ニ対スル七月三十一日付対支回答
ノ方針ト矛盾スルコトナシト認メ往電第二四六号ノ通り訓
令シタル次第ナルニ付右御含置アリタシ為念

南京へ転電アレ、北京へ転電セリ

629

昭和3年10月7日

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

宋子文、七種差等税率三国共同案の採用、二

分五厘付加税廢止を同意について

本省 10月7日後着

(1)
第六九五号(極秘)
貴電第二四六号ニ閲シ

宋子文南京滯在中ナリシニ依リ在南京領事ヲ通シ會見ヲ申
込置キタルニ宋ハ六日帰滬シタルニ依リ七日午前上村ヲ帶
道同人宅ニ於テ會見御訓電ノ趣旨ヲ篤ト説明シタル處貴電
其ノ結果ヲ聽取シタル上午後本官ト宋ト再ヒ會見スルコト
ニ取極置キタリ

て

上海 10月9日前發

本省 10月9日前着

(1)
第七〇二号(至急極秘)
往電第六九五号ニ閲シ

八日夜宋ト會見シタル處貴電第二四七号ノ第二点差等税率
中ニハ抵代税ヲ含ムモノト看做ス旨明記スル事ニ同意スル
旨ヲ述ヘ從テ差等税ヲ支払ヒタル上ハ釐金其ノ他一切ノ内

国税ヲ課セラレストレスル我方ノ解釈ニ服スヘキ旨明言シ第三点ニ付テハ英文対案ヲ読ミ上ケタルカ其ノ内容ハ「国民政府ハ鞏固ナル財政的基礎ノ上ニ於テ公正ナル解決ヲ計ラントスル目的ヲ以テ不確実担保又ハ無担保借款ノ債権所有者代表ノ會議ヲ開催スルノ用意ヲ有ス但シ右債務整理會議ハ差等税率実施ノ条件トハナラサルモノトス」トアリタルヲ以テ先ツ但書ノ削除ヲ要求シタル處債権整理ヲ差等税率実施ノ条件トシテ明記スルハ国民政府ノ本體面問題トシテ承服シ難シトテ肯セサルニ依リ然ラハ本官限リノ思付トシテ書ヲ削除スヘシトテ同意シタリ依テ本官ハ日本ハ今回国民政府ノ關稅増徵計画ニ対シ極度ノ好意的考慮ヲ加ヘタル結果今次我方ノ提案ハ釐金廃止其ノ他ノ重要ナル条件サヘモ讓歩シタル程ナルカ

關稅增收ノ一部ヲ債務整理ニ充当スルコトハ北京關稅會議以来ノ日本ノ大方針ナルニ依リ此ノ点ニ就キテ丈ハ是非国民政府ノ明確ナル言質ヲ取付ケ置カントスル次第ナルコトヲ懇々説明シ宋ノ反省ヲ求メタルカ宋ハ差等税率実施ノ条件トシテ關稅增收ノ一部ヲ債務整理ニ充当スル旨ヲ明記ス

關稅增收ノ一部ヲ債務整理ニ充当スルコトハ「國民政府ノ上級幹部ノ間接ノ損失大ナルモノアルヲ後ニ發見シタルモ此ノ点ハ既ニ何事ヲモ云ハサル次第ナリト述ヘ

次ニ差等税率実施前ニ債権國代表者ノ會議ヲ開催スヘキ旨明記スル点ニ付テハ(一)本覚書ハ差等税率採用ニ關スル文書トハ別ニ差出シ度キ考ナルニ依リ債権國代表者會議ノ開催ヲ一見差等税率実施ノ条件ト見ラル如ク明記スルヲ避ケ度(二)国民政府カ誠意ヲ以テ會議ノ招請ヲ約スル以上殊更日本案ノ如ク記載スルノ要無カルヘク若シ "The national government of China is prepared to invite" カ曖昧ト云フナラハ will invite ドスルモ差支ナキカ「差等税率実施前」ナル条件ヲ明記スルコトニハ同意シ難シト述ヘタルニ依リ本官ハ差等税率実施ニヨル正味增收額ニ關スル日支計算ノ相違ハ姑ク措キ北京關稅會議ニ於ケル支那代表ハ關稅增收ヲ以テ釐金保障不確実債務ノ整理、建設費及行政費トシテ充当スヘキ旨明言シタルニ拘ラス今回日本ハ唯不確実債務ノ整理ノミヲ条件トシ其ノ他ノ点ニハ言及セス極メテ寬大ナル条件ナルニ依リ宋ノ説明ハ全然理由無キ所以ヲ説明シ更ニ債権國代表者會議ノ開催ニ付差等税率実施前ナニ依リ現在ヲ拘束セムトルハ無理ナリ殊ニ抵代税ニ関

ル時ハ政府部内ハ勿論国民モ挙テ自分ニ反対シ自分ハ直ニ現地位ヲ去ラサルヘカラス仮令秘密文書トスルモ目下政府部内ニハ種々異分子アリ而モ其ノ背後ニハ元老ニモ比スヘキ勢力家アル次第ナレハ到底是等ノ同意ヲ得ル望ナキニ依リ余ノ苦衷ヲ諒トセラレタク目下ノ所何トシテモ同意シ難シ尤モ日本カ關稅自主ヲ認ムルトテモ云フナラハ又考慮シ得ヘントテ結局妥協ノ余地ナキ様認メラレタルニ依リ本官ハ国民政府カ日本極度ノ讓歩案ニサヘモ同意セサルハ甚タ遺憾ナルカ貴官ハ今晚南京ニ赴クトノコトナレハ南京ノ領袖ニ対シテモ今一応日本ノ意ノアル所ヲ説明シ充分考慮ヲ求メラレ度旨述ヘタルニ宋モ亦本官ニ別電第七〇三号ノ通宋ノ最後ノ妥協案ヲ示シ日本政府ノ意向ヲ問合サレ度旨述ヘ双方政府ニ報告考慮ヲ求ムルコトトシテ辞去セリ

北京、南京ニ転電セリ

631 昭和3年10月12日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

宋子文、關稅增收の不確実債務整理充当の明
言拒否を堅持について

上海 発
本省 10月12日後着

*
第七二四号
往電第七〇二号ニ閑シ
(六三〇文書)

宋子文十一日帰滬シ会见ヲ申込ミ来レルニ依リ十二日朝会見ノ事ニ定メ置キタル處貴電第二七〇号及第二七一号接到シタルニ依リ約ノ如ク宋ヲ訪問シ本省ヨリ回訓ニ接シタル趣ヲ述ヘテ貴電第二七一号日本側対案ヲ披露シ尚關稅增收ノ一部ヲ債務整理ニ充当スルコトハ支那側ノ夙ニ確認シ居ル処ナリトテ北京關稅會議ニ於ケル支那代表ノ声明等ヲ示シ宋ノ考慮ヲ求メタル処宋ハ關稅增收ヲ債務整理ニ充当スル点ニ付テハ

(一)差等税率実施ニ依ル正味增收額ハ日本側ノ計算ト異リ二千五百元ニ過キスシテ關稅會議ノ際ノ計算ヨリ遙カニ少キ事

(二)釐金ノ現在年収ハ七千万元ニシテ而モ国民政府ハ近ク先ツ五省ニ於テ之カ廢止ヲ実行スル筈ナルニ依リ北京關稅會議ト今日トハ事情遙カニ異リ從テ關稅會議當時ノ声明ニ依リ現在ヲ拘束セムトルハ無理ナリ殊ニ抵代税ニ関

キ事

スル日本ノ要求承認ハ結局釐金廃止ト同シ結果トナリ政府ノ間接ノ損失大ナルモノアルヲ後ニ發見シタルモ此ノ点ハ既ニ何事ヲモ云ハサル次第ナリト述ヘ

次ニ差等税率実施前ニ債権國代表者ノ會議ヲ開催スヘキ旨明記スル点ニ付テハ(一)本覚書ハ差等税率採用ニ關スル文書トハ別ニ差出シ度キ考ナルニ依リ債権國代表者會議ノ開催ヲ一見差等税率実施ノ条件ト見ラル如ク明記スルヲ避ケ度(二)国民政府カ誠意ヲ以テ會議ノ招請ヲ約スル以上殊更日本案ノ如ク記載スルノ要無カルヘク若シ "The national government of China is prepared to invite" カ曖昧ト云フナラハ will invite ドスルモ差支ナキカ「差等税率実施前」ナル条件ヲ明記スルコトニハ同意シ難シト述ヘタルニ依リ本官ハ差等税率実施ニヨル正味增收額ニ關スル日支計算ノ相違ハ姑ク措キ北京關稅會議ニ於ケル支那代表ハ關稅增收ヲ以テ釐金保障不確実債務ノ整理、建設費及行政費トシテ充当スヘキ旨明言シタルニ拘ラス今回日本ハ唯不確実債務ノ整理ノミヲ条件トシ其ノ他ノ点ニハ言及セス極メテ寬大ナル条件ナルニ依リ宋ノ説明ハ全然理由無キ所以ヲ説明シ更ニ債権國代表者會議ノ開催ニ付差等税率実施前ナニ依リ現在ヲ拘束セムトルハ無理ナリ殊ニ抵代税ニ関

ル条件ヲ付セントスルハ從來ノ經緯ニ鑑ミ日本政府トシテハ當然ノ要求ナルコトヲ指摘シ宋ノ反省ヲ求メ更ニ進ンテ關稅増収ノ一部ヲ債務整理ニ充當セムトスルハ日本トシテハ主義ノ問題ナルニ依リ支那カ右主義ヲ認ムル以上之カ實行案ニ付テハ日本ハ充分好意的考慮ヲ加フルノ用意アル旨敷衍説得ニ努メタル処実ハ債權整理會議ヲ開催セハ結局關稅増収ノ一部ヲ債務整理ニ充當スルノ已ムナキ事自ラ明瞭トナルヘク自分ハ既ニ其ノ腹ナルカ一般國民ハ此ノ点ヲ了解セス政府部内ニ於テモ強硬ナル反対アル次第ナルニ依リ藉スニ時日ヲ以テシ債務整理會議ノ如キ機會アル毎ニ漸次彼等ヲ教育シテ覺醒セシムルヨリ外ナク現状ニ於テハ自分トシテハ到底關稅増収ノ一部ヲ債務整理ニ充當スル旨明言スルヲ得ルノ地位ニ非ストテ往電第七〇二号所載ノ如キ国民政府内部ノ事情ヲ訴ヘ其ノ苦衷ヲ述ヘ更ニ語ヲ継キ実ハ本件ニ閔スル貴官トノ交渉ニ付テモ自分ハ政府部内ノ何人ニモ洩ササリシ處ニテ愈政府内部ノ贊成ヲ得ル見込アル案貴官トノ間ニ成立スル迄ハ政府ニモ諮ラサル積リナリ然ルニ本件ニ閔シ既ニ日本側ヨリ発表アリ殊ニ關稅會議ニ於ケ列国案タル七種差等税率ヲ其ノ儘採用スルコトハ反対ヲ

顧慮シテ一般國民ニハ秘シ居リタル次第ナレハ自分ハ頗ル迷惑シ居ル処ナリトテ到底讓歩ノ余地ナキ旨述ヘタルニ依リ本官ハ日本カ提案ニ際シ既ニ極度ノ讓歩ヲ為シタル次第ハ既ニ屢説明シタル通ニシテ我方トシテハ之以上讓歩ノ余地無キヲ以テ本件交渉ハ決裂ノ外ナカルヘシ日本トシテハ今回國政府ノ建設的努力ニ同情ヲ表シテ斯ル妥協的態度ヲ以テ臨ミ而モ尚兩國間ニハ解決ヲ要スヘキ問題山積スルニ拘ラス其ノ第一歩ニ於テ蹉跌ヲ見ルカ如キハ誠ニ遺憾ナリト述ヘ大局上ヨリ再考慮ヲ求メタルカ宋ハ暫ラク沈思シタル後日本ノ好意的態度ハ自分モ良ク了解セリ然レ共遂ニ「デッドロック」ニ突当ルヲ否ム能ハス暫ク時機ヲ待ツヨリ外無カルヘシ尤決裂ノ事ハ發表セラレサル様希望ストテ再考ノ余地無キ事ヲ明ニシタルニ依リ遂ニ其ノ儘物別トナルノ止ム無キニ立至レリ

右ニテ御承知ノ通り最早先方反省ノ望ナキ様認メラル処宋カ關稅増収ノ一部ヲ債務整理ニ充當スルコトニハ頑トシテ反対シツツ我方カ言及セサル釐金廃止ノ実行ヲ「コンミツト」スルカ如キ点ヨリ察スルニ差等税率ニ閔スル英國トノ交渉ニ於テ英ハ債務整理ヲ問題トセス釐金廃止ヲ条件ト

スルカ如キ事情ニ在ルニ非ヤトモ思考セラルルニ付本件ニ閔スル英米等ノ態度至急探査ノ要アルヘシト存セラル
北京、南京へ転電ス

632 昭和3年10月15日 田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛（電報）

債務整理問題につき英國の支持取付け方訓令

* 第五三一号 本省 10月15日後發

往電第五〇五号ニ閔シ
矢田總領事宋子文間ノ本件交渉ハ御承知ノ如ク債務整理問題ノ為メ今尚妥結ヲ見ルニ至ラサル処支那側ノ一方的措置ヲ阻止シ且将来ニ於ケル列国ノ立場ヲ有利ニ導ク為此際一定条件ノ下ニ差等稅実施ヲ承認セントスル我方ノ態度ハ英仏側モ之ヲ諒トスル所ナルヘク而モ支那側カ既ニ内諾ヲ与ヘタル差等稅中ニ抵代稅包含ノ件ハ外國輸入貨物ニ閔スル限り釐金廃止ト實質上同様ノ結果トナルヘキノミナラス支那側ハ債務整理問題ニ付テモ關係國代表者會議ヲ開催スル

コトニハ異存ナキヤニ認メラレ從ツテ本件暫行稅ニ閔スル

633 昭和3年10月15日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

ソコルスキイ、債務整理問題に關し日中妥協 案を提案について

別電 十月十五日着在上海矢田總領事より田中外務

ノコルスキイの債権国代表会議開催に関する
妥協案

上 海 10月15日後発
本 省 10月15日後着

⁽¹⁾ 第七三三三号（極秘）

往電第七三一〇号ニ閲シ

「ノコルスキイ」ヨリ宋子文ト打合ノ結果本官、宋及「ノ」三人丈ケニテ友人トシテノ談合ヲ為シ解決案ヲ見出スコトトシタキ旨申越シタルニ依リ本官ハ之ヲ承諾シ十五日朝「ソ」ノ自宅ニテ宋ト落合ヒタリ依テ本官ハ先ツ協議ノ基礎ヲ提供スル為貴電第一七一号日本側対案ノ英訳ヲ示シ日本ノ主張ノ要点ハ（一）関税增收ノ一部ヲ以テ債務整理ニ充當スルノ主義ヲ確認スルコト（二）債権国代表会議ハ差等税率施行前ニ招集スルコトノ二点ニ在ルコトハ屢々説明シタル通ナルカ字句等ノ修正ニ付テハ如何様ニモ御相談ニ応スヘキニ依リ右我方案ヲ基礎トシ修正案ヲ示サレタシト述ヘタルニ宋ハ頗る不機嫌ニテ右日本側主張ノ二点ハ到底承諾シ得ストキツバリ言ヒ放シ抑々現在支那国民ノ要望ハ関税自主

即時実現ニシテ暫行税率ノ実施ニハアラス從テ暫行税率ノ実施其ノモノニ付テサヘ反対起ルヘキヲ怖レ居ル程ナレバ、⁽²⁾ 外國ヨリ要求セラレタル条件ヲ容レテ漸ク外國政府ヨリ暫行税率実施ノ承認ヲ得タリト見ラルルカ如キ形式ハ到底採用シ得サル次第ナリ殊ニ国民政府ハ目下新ニ外債募集ヲ計画シ居リ之カ成否ハ債務整理ニ係ルコト大ナルヲ自覺シ居リ而シテ債務整理会議ヲ開催セハ結局關稅收入ヲモ担保トスルコトトナルヘキヲ充分承知シ居ル次第ナルニ依リ日本側ニ於テ此ノ間ノ事情ヲ諒解セラルルニ於テハ此ノ際自分ヨリ文書ヲ取ラストモ差支無キニ非スヤ愈日本ト妥協ノ途無キ場合ハ国民政府トシテハ日本カ難題ヲ持掛け妥協ノ余地無キ次第ヲ声明シ当初ヨリ計画透明（年）一月一日ヨリ断然差等税率ヲ実施スル覚悟ナリト頗ル興奮ノ態ナリシニ依リ「ソ」ハ之ヲ宥メ此ノ際ハ兎ニ角双方ヨリ幾分宛歩ミ寄ルノ外解決ノ途無キニ依リ自分ヨリ妥協案ヲ提議スヘシトテ宋ト相談シツツ別電第七三四号ノ如キ案文ヲ作リタルカ右案文ハ關稅收入ヲ債務整理ニ充當スヘントノ日本ノ主張ト国民政府ノ困難ナル立場トヲ斟酌シ關稅收入ヲ債務整理ニ充當スルノ主義ヲ認ムルト明ラ様ニハ言ハサルモ

⁽³⁾ “for the use of customs or any other available revenue” ム語メタル次第ニテ關稅收入以外ニ有力ナル担保ナ

キハ明瞭ナルモ態ム “any other available revenue” ナル語ヲ挿入シテ關稅ナル語ヲ目立タサル様シタリ又債権者

代表會議開催ノ時期ニ付テモ両者ノ主張ヲ考慮シ “at the earliest possible date” ムヤリト説明シタル処宋ハ右

「ノ」ハ妥協案ニ対シテハ自分一存ニテ諾否ヲ決スル勇気ナキニ依リ即時南京ニ電報スヘタ回電アル迄ハ本官ヨリ日本政府ニハ何等報告ナキ様希望スト述べタルニ依リ本官ハ右妥協案ニ対スル本官ノ意見ハ態ト述べス唯宋ニ対シ南京ニテ何人カ本件ノ相談ニ与ル次第ナリヤト質問シタルニ王正廷、胡漢民、譚延闔何ノモ其ノ議ニ参与スル次第ニテ実ハ本件交渉モ自分トシテハ王ニ委シタシト考ヘ居ル次第ナリト語リ本官ノ南京行ノ日取決定セハ自分ヨリ南京ヘ電報スヘン等ト述ヘ王トノ関係ヲモ顧慮シ居ル様子見ヘタリ

尚右会談中宋ハ米国ハ債務整理ニハ余リ重キヲ置キ居ラサルニ依リ債務整理会議ヲ開催スル場合ニハ米国ノ参加ヲ断念セシムルノ確信ヲ有スルモ債務整理ニ付日本ノ〃ト单独商議スルハ他國ノ債権者ヲ無視シ得サルヲ以テ不可能ナリ

ト述くタリ

北京、南京へ転電セリ

（別 電）

Shanghai,

Rec'd., Oct. 15th, P.M. 1928.

Gaimudaijin, Tokio.

No. 734.

It is the purpose of the National Government of China to call a conference, at the earliest possible date, of representatives of the Ministry of Finance and bondholders of inadequately secured and unsecured loans for the purpose of arranging the conditions of these loans on a sound financial basis.

At this proposed conference, ways and means shall be considered for the use of the Customs or any other available revenue, as that interest payments and amortization may be promptly and adequately met.

Yada.

634 昭和3年10月16日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

債務整理問題に関し英國公使へ支持申入れについて

北京 10月16日後発
本省 10月16日後着

第一四三八号(極秘)
貴電第五三一號ニ閲シ

^(五七〇文書)
実ハ債務整理問題ニ付テハ往電第一二四二号及累次ノ拙電ニテ報告ノ通英國トンテハ日支間ニ成立スヘキ協定ニ均霑スルコトハ躊躇セサルモ自ラ進ンテ本問題解決ノ衝ニ当ル意向ノ如キハ全然無之次第ニ付今朝拝受シタル御電訓ヲ实行セントセハ勢ヒ英國公使ヲ訪問シテ多少懇請的態度ニ出行セアルヲ得ス右ノ如キハ本使ニ於テモ多少苦痛ヲ感スル次第ニモアリ旁同公使ニ対スル説明振考慮中偶々本十六日同公使來訪シタルニ付頗ル好都合ト認メ先ツ本使ヨリ英國側ノ関税問題ニ關スル南京政府トノ交渉振ニ付質問シタル処

第一四三九号(参考)

次イテ本使ハ矢田總領事、宋子文間ノ

差等税率問題ニ關スル交渉ノ要領ヲ説述シタル後支那側ノ

關稅實施ニ關シテ一方的措置ヲ阻止シ又抵代税ヲ包含セシ

メタル等列國ノ利益ニ貢獻シタル処鮮カラサル次第ヲ述ヘタル上債務整理問題ニ言及シテ英國ハ要スルニ日支間ノ協定ニ均霑セントスルモノニテ若シ我方ノ努力ニシテ成功スル場合ニハ英國側モ利益スヘキ事勿論ナルカ乍併英國側ニ

於テモ在南京同國總領事ヲシテ日本側ノ交渉ヲ促進スル為支那側ニ対シ然ルヘク後援(push)ヲ与ヘシムル様致シ度右ハ日本政府ヨリモ本使ニ対シテ電訓有リタル次第ニ付

英國側ニ於テ右様取計ハルレハ日本政府ニ於テモ之ヲ徳トスヘシト述ヘタル處同公使ハ實ハ之レ迄屢次御話シタル通り英國政府ハ債務整理問題ニ付テ熱心ナラス勿論他國ト支那トノ間ニ協定成立ノ上ハ之ニ均霑スヘキモ自ラ進ンテ此ノ問題ノ交渉ニ参加スルノ意向ナキ次第ナルカ故ニ自分トシテハ本国政府ニ請訓セサル上ハ如何トモ申上ケ難シト答ヘタルニ付然ラハ至急請訓ノ上本使申出ノ通取計方希望スル旨要求シタル處同公使ハ直ニ本国政府ニ然ルヘク電報スヘキ旨答ヘタリ

同公使へ tariff arrangement (英支互惠税率協定ノ事ナリ)ニ付テハ王正廷ハ主義上反対セルカ一方ニテ自主権ノ恢復ヲ認メ乍ラ他方ニ於テ幾分ナリトモ税率ノ協定ヲ為スハ矛盾セル政策ナリトテ未タ明白ニ同意セサルモ實際上ハ同意シタルモ同様ナリト答ヘタル上本使ニ対シ何時頃帰任スヘキヤト問ネタルニ付本使ハ明朝出發ノ上御大礼参列後二三週間日本ニ滯在ノ上帰任シ度キ考ナリト答ヘタル處同公使ハ其ノ頃ハ自分ハ多分南下シタル後ナルヘシト答ヘタルニ付本使ハ貴方ノ関税協定ハ米支間税率協定ニ tariff arrangement ハ加ヘタルモノニテ極メテ簡単ナルモノニアラスヤト尋ネタル處同公使ハ其ノ通ナルカ国民政府ニ於テ tariff arrangement ニ同意スル上ハ細目ニ付テハ専門家ヲシテ交渉セシムル意向ナリト答ヘ本使ノ質問ニ対シテハ適切ナル答弁ヲ為サス此ノ時偶々貴電第五二九号ヲ接受シタルカ(貴電第五二八号ハ當時解説未済)

本使ハ貴電第五三一号ノ御訓令ヲ執行スル前先ツ海關問題ニ付テ我方ノ好意的態度ヲ話シ英國側ニ恩ヲ壳り付クル方得策ト認メタルニ付先ツ貴電第五二九号御電訓ノ要旨ヲ述ヘタル處同公使ハ深ク感謝シ二三回問答ヲ重ねタリ(別電貴電第五二八号ハ當時解説未済)

635 昭和3年10月16日

在中国芳沢公使より

(電報)

仏国代理公使より債務整理問題に関し我が方

との協調を同意について

北京 10月16日後発
本省 10月16日後着

第一四四一号(極秘)

(六三三文書)

貴電第五三一号及往電第一四三八号ニ閲シ

十六日仏國代理公使來訪シタルニ付本使ハ右訓示ニ基キ英國公使ニ対スルト同様從來ノ交渉経緯ヲ説明シタル上此ノ際仏國側ニ於テモ債務整理問題ニ付我方ニ協調セラレ速ニ上海仏國總領事ニ對シテ日本總領事ト支那側トノ交渉ヲ然ルヘク援助スル様電訓方依頼シタル處同代理公使ハ往電第一四二〇号仏國政府ノ電訓ニ言及シ債務整理問題ニ付テ仏國政府ハ全然日本側ト同様ノ立場ニアル次第ニテ協調ハ勿論異存無キモ仏國政府ノ訓令ハ直ニ在上海總領事ニ転電シテ國民政府ノ意向ヲ確カムル事トシタルカ故ニ國民政

府ニ於テ若シ仏国政府ノ条件ヲ基礎ニ交渉開始ニ異存無キ事確メラル場合ハ直ニ交渉ヲ開始スルコトトナルヘク右交渉開始ノ上債務整理問題ニ逢着スル場合ハ喜ムテ日本側ト協調スヘキ旨述ヘタルニ付本使ハ本使ノ望ム処ハ正式交渉開始ノ時期ヲ待タス貴國上海総領事カ貴官ノ電訓ニ基キ国民政府ノ意向ヲ確カムル為下交渉ヲ為サルル場合ニ於テ直ニ債務整理問題ニ付日本總領事ト協調シテ日本側ノ立場ヲ支持セラル事ニアルカ之麤テ仏國側ノ利益トモナルヘキニアラスヤト述ヘタル処同代理公使ハ誠ニ其ノ通ナリ直ニ然ルヘク上海総領事ニ電訓スヘキ旨答ヘタリ

636 昭和3年10月17日 在中國塘臨時代理公使より
田中外務大臣宛(電報)

英國は債務整理問題に積極的関与は為しえない旨の英國公使の談話について

北 京	10月17日前発
本 省	10月17日後着

第一四四五号(極秘)
往電第一四三八号ニ閲シ

芳沢公使見送ノ帰途英國公使ヨリ差等税率ニ関スル矢田総領事ノ内交渉行詰リタル由ニ非スヤト話掛ケラレタルニ依リ本官ハ夫レカ真ノ行詰ナルヤ否ヤハ日英協調ノ試金石タルヘシ日本ノ英國ニ対スル期待ニ関シテハ芳沢公使ヨリ御聞キノ通ナリト言ヒテ英國公使カ本国政府ニ向ケ發シタリト称スル電票ニ言及シタル處公使ハ貴説尤ナレトモ債務整理問題ニ深入セサル点ハ英國トシテハ非常ニ「バイタル」ノ政策ナレハ英國側ノ為シ得ル最大限度ハ利害関係無キ第3者トシテ日支間ニ「グツドオフイス」ヲ務ムルニ止マルヘシト述ヘタルニ依リ本官ハ夫レテハ何等ノ益無シ日本ノ英國ニ対スル期待ハ英國カ日本ト同一列ニ立チテ日本ト此ノ難関ヲ share スルコトニアリテ右ハ日英協調ノ本質上正当ノ要求ト信スト言ヒ次テ債務整理問題ニ関スル日本内地及上海等ノ実業家ノ殆ト desperate ナル意見發表ハ新聞ニテ御承知ノ通ニテ此ノ問題ハ我政府トシテモ輕々ニ看過スル能ハサル処ニシテ若シ此ノ「ファイト」ニ失敗セハ日支關係ハ再ヒ悪化セサルヲ得サルヘシト切言シタルニ公使ハ傾聽シタル後英國トシテハ乍遺憾本件ニ関シ利害關係ノ当事者タル能ハサルヘシ元來英國ノ債権ト言ヒテモ純粹ノ難關ヲ share スルコトニアリテ右ハ日英協調ノ本質上正当ノ要求ト信スト言ヒ次テ債務整理問題ニ関スル日本内地及上海等ノ実業家ノ殆ト desperate ナル意見發表ハ新聞ニテ御承知ノ通ニテ此ノ問題ハ我政府トシテモ輕々ニ看過スル能ハサル処ニシテ若シ此ノ「ファイト」ニ失敗セハ日支關係ハ再ヒ悪化セサルヲ得サルヘシト切言シタルニ公使ハ傾聽シタル後英國トシテハ乍遺憾本件ニ関シ利害關係ノ当事者タル能ハサルヘシ元來英國ノ債権ト言ヒテモ純粹

ニ不確実ナルモノハ「マルコニ」「ビイツカース」等ノ関係債権ナルカ是等ハ本来政府ノ警告ヲ無視シテ締結シタルモノニ係リ今更回収出来スト言フモ或ル程度迄因果応報トモ看ルヘシト説明シテ別レタリ

天津、上海、南京へ転電セリ

637 昭和3年10月17日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

債権国代表会議開催に關する宋子文の申入れについて

上 海 発
本 省 10月17日後着

*第七四一號

(〔文書〕往電第七三三號ニ閲シ

十七日午前「ソロロスキ」宋ノ旨ヲ受ケタリトテ本官ヲ來訪シ宋ハ南京ヨリ回電ニ接シタルカ右ニ依レハ往電第〔文書別電〕七三四號契約案ノ末段 for the use of the Customs or any other available revenue ヲ單ニ for the use of any available revenue ヲヤハ国民政府ハ直ニ文書トシテ

差出スヘク且日本カ右ニ同意ノ上ハ債務整理會議ノ招請状ヲ即刻発送シ十二月ニハ右會議ヲ開催スル様取計フヘキニ付右ノ趣至急日本政府ニ照会アリ度キ旨ヲ述ヘ尚宋ハ本件至急解決シ度キニ付日本政府ノ回訓アル迄当地ニ滯在スヘキニ付本官モ南京行キヲ延期アリタシト希望シ居ル旨付言セルニ依リ本官ハ貴下ヨリ申出ノ趣ハ直ニ本省ニ報告スヘキモ回訓ハ少クトモ二三日ヲ要スヘキニ付右ニ對スル日本政府ノ意向ハ本官南京ヨリ帰滬ノ後御伝ヘ致スヘキニ付右ノ次第宋ニ伝言アリタシト述ヘ置キタリ

尚本官ハ直ニ宋ニ電話ヲ掛け為念「ソ」伝言ノ諸点ヲ一々確メタル処宋ハ總テ肯定シタリ就テハ右御詮議ノ上何分ノ儀御回電アル様致シ度シ

在支公使、南京へ転電セリ

638 昭和3年10月19日 田中外務大臣より
在英國佐分利臨時代理大使宛(電報)

債務整理問題等での日英協調の具体策実施に關し

八 中国関税問題

内田全権渡欧ノ節英國側ト大体ノ了解ニ達シタル対支日英協調ノ根本方針ハ逐次当面ノ問題ニ付具体的ニ之ヲ実現シ度キ希望ニテ之カ為既ニ本大臣發在支公使宛電報第五二八

号及第五三一號ノ通リ訓令シタル次第ナル处在支英國官憲

殊ニ「ランプソン」公使ニハ未タ日英協調ノ精神徹底シ居ラサルカ如キ懸念モ有之ルニ付本大臣ヨリハ在邦英國大使ニ対シ往電合第三九六号ノ通り談話シ置キタルカ貴官ヨリモ英國政府ニ対シ協調ノ具体的実現方ニ付更ニ一段ト英國側ノ努力ヲ切望スル旨右本大臣談話ノ趣旨ニヨリ篤ト申入レラレ度ク尚累次ノ轉電ニヨリ御承知ノ差等税率承認ニ

關スル債務整理ノ問題並塙政變改ニ伴フ塙余ヲ担保トスル債權整理ノ問題ニ關シ日英間ニハ更ニ協調ノ余地有リト信シ居ル次第ニ付此点ニ付テモ貴地當局ノ注意ヲ喚起セラレ先官憲ニ訓令方取計ハシムル様御配慮有度シ

(在支公使宛第五三六号ニテ轉電)

債務整理問題につき我が方從來の二条件で宋子文を説得方訓令

本省 10月19日後発

第二八七号

貴電第七三三三号ニ閔ン

宋ハ外國ヨリ要求セラレタル条件ヲ容レテ漸ク外國政府ヨリ暫行税率実施ノ承認ヲ得タリト見ラル如キ形式ハ到底採用シ得スト云フモ右ハ華府ニ於ケル關稅特別會議ノ際支那側委員ノ既ニ認メ居リタル所ノモノヲ更ニ大ニ輕減シタルモノナルニ於テヲヤ故ニ宋子文カ從來ノ經緯ヲ無視シ右ノ如キ議論ヲ敢テスルハ誠ニ無法千万ト云ハサルヘカラス尤モ右ハ或ハ表面ノ理屈ニ過キスシテ實ハ彼等カ關稅增收ヲ担保トシテ外債募集ヲ計画シ居ルカ為メ若シ右關稅增收ヲ無担保及不確実債權ノ担保トナスコトヲ承認スルニ於テハ新規外

債ノ担保品ヲ失フコトトナルヘキヲ虞レ居ルモノナリト想像サレサルニアラス若シ支那側ノ考ヘ居ル所右ノ如シトス

レハ關稅增收ハ全部新規外債ノ方ニ奪ハレ我方債權償却等ハ事實上有耶無耶トセラルヘキコトハ殆ント疑フ余地ナカルヘシ如此考ヘ来レハ「債務整理會議ヲ開催セハ結局關稅收入ヲモ担保トスルコトトナルヘキヲ充分承知シ居ル次第ナルニ依リ此際自分ヨリ文書ヲ取ラストモ差支ナキニアラスヤ」ト云フカ如キ宋子文ノ言ヲ信シ貴電第七三四号ノ如キ文書ヲ以テ満足スルコトハ甚タシク危険ニシテ遺憾乍ラ同意シ難シ

ナリ

固ヨリ今日ハ當時トハ狀況ヲ異ニセルモノアルヲ以テ日本トシテモ決シテ同一ノ条件ヲ主張セムトスルモノニアラス現在ノ支那ノ財政狀態ニ同情シテ出来得ルタケ之ヲ輕減スルノ用意アリ故ニ債務支払ノ条件方法等ハ如何様ニモ相談ノ余地アル次第ニテ關稅增收ヲ担保トスルモ例へハ一兩年ハ「モラトリーム」ヲ認ムルカ如キ又例へハ「モラトリーム」後ニ於テモ其ノ支払ハ小額ニ初マリ關稅ノ增收ニ伴ウテ其ノ支払額ヲ増加スルカ如キ方法モ考ヘ得ヘク何レノ途決シテ無理ナル主張ヲナサムトスルノ意思ナキカ故ニ之等ノ点ハ必要ニ応シ貴官ノ思ヒ付キトシテ適宜先方ニ匂ハセラレ差支ナシ若シ宋子文ニ於テ此際一旦無担保及不確実債務ヲ關稅ヲ担保トシテ整理スルノ原則ヲ承認セハ關稅ヲ担保トシテ外債ヲ起スヲ得サルニ至ルヘシトノ懸念ヲ有スルモノトセハ無担保及不確実債務ノ整理ニ使用スル關稅增收ノ割合ヲ予メ百分率ヲ以テ定メ置クカ如キモ一方法ナルヘ

要之日本トシテハ今回交渉開始以来ノ支那側ノ態度ニ顧ミ益々当初ヨリ主張ノ通り(1)關稅ヲ以テ整理スルノ主義ヲ確略々支那側委員ノ同意ヲ得タルコトハ宋子文モ承知ノ通り

認セシムルコト(口)債務整理会議ヲ差等税率施行前ニ召集スルコトヲ明カニ支那側ニ認メシムルコトヲ絶対ニ必要ナリト確信スルニ至ル次第ナリ宋子文ハ愈々日本ト妥協ノ途無キ場合ハ国民政府トシテハ日本カ難題ヲ持掛ケ妥協ノ余地ナキ次第ヲ声明シ当初ヨリノ計画通り一月一日ヨリ断然差等税率ヲ実施スル覚悟ナリト語レリトノコトナルカ右ハ恐ラク「ブランフ」ニ過キサルヘキモ日本トシテハ其ノ主張カ決シテ難題ナリトハ信シ居ラサル斗リカ宋子文ノ言分カ寧ロ随分得手勝手ナリト確信シ居ル次第ナレハ同人ノ所言ニ対シテハ為念貴官ヨリ懇々説示ノ要アルヘク殊ニ一月一日ヨリ一方的実施ノ覚悟ナリトノ放言ニ対シテハ當時貴官ヨリ然ルヘク奢メ置カルヘキ筋合ナリシトサヘ思考シ居ル次第ナリ

右様ノ次第ナルニ付貴官ハ宋子文ニ対シ日本トシテハ其ノ主張スル所カ決シテ無理ナリトハ信シ居ラサル次第ニ付宋ニ於テモ右諒解ノ上大局ヲ顧念シ尚国民政府要路トモ篤ト協議ヲ重ネラレ七種差等税率ノ速カニ実施ヲ見ル様取計ハレ度旨懇談セラレ度シ

尚「ソコルスキイ」ハ我方ニ好感情ヲ有シ支那側ニモ知已

精通セル「ウエルズレー」次官ヲ通シテ申入ルルヲ適當ト認メ二十日会見シ閣下ヨリ日英協調ノ具体的実現方ニ付電訓ニ接シタル趣ヲ前置シタル後去ル十二日閣下ヨリ本件ニ關シ英國政府大使ヘ御話シノ次第アリタルカ閣下ニ於テハ其ノ後更ニ芳沢公使ニ対シテ内田伯ニ依リ英國側ノ諒解ヲ得タル対支日英協調ヲ出先ニ於テ實際ノ場合アル毎ニ充分實現スル様努力スヘキ旨ノ希望訓令(尤尤説明ニ当リテハ先方ヲシテ例ニ依リ無用ノ心配ヲナサシメサル為閣下ニ於テハ具体的問題トシテハ時ニ協調ノ容易ナラサルモノ有リ得ヘキ事モ承知シ居ラレ又英國カ対支覚書ヲ以テ其ノ政策ヲ声明シ居ル關係モ充分諒解シ居ラル旨ヲ付言シ置キタリ)ヲ発セラレタル外尚具体的ノ問題トシテハ海關制度ノ維持及債務整理ノ件ニ付訓令セラレタル処有リ之等問題ニ關シ北京ニ於テ日英両公使間ニ行ハレタル談話ニ付テハ既ニ報告ニ接セラレタル事ト信スト述ヘタルニ次官ハ右ニ付テハ報告アリタリ対支協調ハ英國側ニ於テモ勿論之ヲ切望スル處ナルカ先以テ自分ニ於テ承知シタキ事アリ自分ノ諒解スル処ニテハ日本政府ニ於テハ釐金廃止ト共ニ債務整理ヲ条件トシテ支那ノ関税自主権ヲ承認セラルル御趣旨ノ如

多キ人物ナルニ付彼ノ好意ヲ無下ニ拒絶スルコトハ考ヘモノナルヘク又此際適宜彼ヲ利用スルコト得策ト認メラルモ本件ノ如キ重大ニシテ且機微ナル問題ニ付彼ヲ通シテ交渉ヲ進メ又ハ彼ヲシテ恰モ貴官ト宋子文トノ交渉ノ調停役タルカ如キ役目ヲ演セシムルコトハ面白カラスト思考セラルニ付今後彼ノ利用法ニ付テハ右御含ノ上然ルヘク御措置アリ度

北京、南京ヘ転電セリ

多キ人物ナルニ付彼ノ好意ヲ無下ニ拒絶スルコトハ考ヘモノナルヘク又此際適宜彼ヲ利用スルコト得策ト認メラルモ本件ノ如キ重大ニシテ且機微ナル問題ニ付彼ヲ通シテ交渉ヲ進メ又ハ彼ヲシテ恰モ貴官ト宋子文トノ交渉ノ調停役タルカ如キ役目ヲ演セシムルコトハ面白カラスト思考セラルニ付今後彼ノ利用法ニ付テハ右御含ノ上然ルヘク御措置アリ度

640 昭和3年10月21日 在英國佐分利臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

債務整理問題解決交渉に關し日英協調をウエ
ルズレー英国外務次官へ申入れについて

ロンドン 発

本省 10月21日後着

* 第二六三号
貴電第一五四号ニ閲シ

本件ニ付テハ種々具体的ノ問題ニ談及スルノ必要アルヘキヲ以テ直接「クツシエンダン」卿ニ会見スルヨリモ問題ニ

多キ人物ナルニ付彼ノ好意ヲ無下ニ拒絶スルコトハ考ヘモノナルヘク又此際適宜彼ヲ利用スルコト得策ト認メラルモ本件ノ如キ重大ニシテ且機微ナル問題ニ付彼ヲ通シテ交渉ヲ進メ又ハ彼ヲシテ恰モ貴官ト宋子文トノ交渉ノ調停役タルカ如キ役目ヲ演セシムルコトハ面白カラスト思考セラルニ付今後彼ノ利用法ニ付テハ右御含ノ上然ルヘク御措置アリ度

本問題ノ交渉ニ関係セス日支間ニ之カ解決ヲ見ル時ハ其ノ利益ニ均霑セントスルニアルカ如シト述ヘタルニ次官ハ言ヲ挿ミ米モ仏モ同様之カ利益ヲ受クヘント云ヘルニ付本官ハ其ノ他ノ諸國ト雖モ苟クモ債権ヲ有スルモノハ何レモ其利益ヲ受クヘキコト勿論ナルカ是迄自分カ度々英國側ヨリ伺ヒタル所ハ要スルニ英國ハ債務整理問題ニ利害ヲ感セルコト極メテ少ク解決ノ交渉ニ参加セスンテ解決ノ利益ニハ便乗スト云フニ帰着スルカ如シト繰返シタルニ次官ハ會議ヲ催シテ之ヲ支那ニ強制スルコトニハ反対ナルカ支那自身任意的ニ債務ト本問題ヲ解決スルハ固ヨリ之ヲ望ム所ナリト云ヘルニ付本官ハ英國政府ニ於テハ英國側ニ於テ何等カ積極的ニ行動セラレンコトヲ希望スル次第ニテ之ニ就テハ芳沢公使ヨリ「ラ」公使ニ懇談ヲ遂ケラレタル次第ナリト述ヘタルニ次官ハ英國側ニ於テ如何ナル行動ニ出テソムトヲ希望セラルル次第ナリヤト問ヘルニ付本官ハ芳沢公使ニ於テハ「ラ」公使ニ對シ日本側トノ本件交渉ヲ促進スル為南京英國総領事ヲシテ支那側ニ對シ push ヲ与ヘシムル様致シ度旨ヲ話サレタルカ「ラ」公使ハ本国政府ニ請訓スルニアラサレハ何トモ云フコトヲ得スト答ヘラレタル趣第七七〇号（至急極秘）

南京発閣下宛電報第五九一號ニ關シ

本官二十九日午後宋子文ト会見スル事ニ取極メ置キタルニ依リ同日午前先ツ橋爪（正金）ヲシテ宋ト会見セシメ無担保及不確定担保債権所有者側ノ意向ヲ説明セシメ置キタル処有田局長及正金川上氏来滬ノ情報ニ接シタルニ依リ本官ハ本日ノ会見ニ於テハ單ニ宋ノ腹ヲ探ルニ留メ余り深入リセサル方針ヲ定メ約ノ如ク午後三時宋ト会見シ先ツ貴電第（六三九文書）二八七号ノ趣旨ヲ然ルヘク敷衍説明シタル処宋ハ考慮シ置クヘシトテ明答ヲ避ケタルニ依リ本官モ敢テ追求セス本官ノ思付トシテ嚮ニ宋ヨリ申出テノ次第モ有リタルニ依リ本官ハ即答シ難キカ何レ塩税ニ關スル統計ヲ持参シ

641 昭和3年10月29日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

閑税增收の債務整理充当につき中國側提案を容れるならば塩税剩余の債権償却に関し我が方要求を容れる旨の宋子文の新提案について

上海 10月29日後發 本省 10月30日前着

件ノ正式交渉ハ王正廷ト致スモ一方法ナルヘシト述ヘタル処宋モ即座ニ同意シ貴官トハ今後モ内交渉ハ進ムル事ト致シ度キモ正式商議ハ外交部長ニ讓ル方可ナリト述ヘタリ依テ本官ハ更ニ貴電第二八五号塩余回答ニ關スル御訓令ノ次第ヲ説明シタル処宋ハ例ノ如ク中央政府カ支那全体ノ財政ヲ完全ニ「コントロール」シ得サル現状ニ於テ日本カ閑税增收塩税剩余ト矢継早ニ攻メ立テルハ無理ナリト愚痴ヲ並ヘタルニ依リ

⁽²⁾本官ハ日本カ決シテ無理ノ要求ヲ為シ居ルニ非サル所以ヲ反覆説明シタルニ宋ハ閑税収入ヲ債務整理ニ充当スルコトハ各國ニ關係アリ困難ナル事情アルコトハ屢々貴官ニ説明シタル通ナル処塩余担保ノ借款ハ殆ト日本ノミノ責任ヲ以テ協定シ得ヘキモノナルニ依リ若シ日本カ閑税增收ヲ債務整理ニ充当スル点ニ付自分ノ提案（往電第七一四号）ヲ採用シ吳ルニ於テハ自分ハ塩余担保ノ借款償却ニ關シテハ極力日本側ノ要求ヲ満足スル様方法ヲ講スヘシト述ヘタリ依テ本官ハ然ラハ年額五百万円位ハ保障シ得ル積リナリヤト質シタル処宋ハ即答シ難キカ何レ塩税ニ關スル統計ヲ持参シ

貴官ト御相談致スヘシト答ヘタルニ依リ本官ハ單ニ貴下ノ御話ハ一応政府ニ取次キ見ルヘシト述ヘ辞シ去レリ就テハ右差等税率ニ関シ正式交渉ハ王ヲ相手トスルコト及右宋ノ新提案ニ関スル件ニ付御詮議ノ上至急御回電アリタシ
北京、南京へ転電セリ

642 昭和3年11月2日 田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛（電報）

問題解決促進のため宋との交渉継続が得策であることおよび関税と塩税剩余による債務整理問題はいずれも譲歩しえない旨訓令

本省 11月2日発

*第三一三号
貴電第七七〇号ニ閑シ

一、交渉相手方ニ付テハ差等税率問題ハ在支公使外交部長間文書交換ニ依リ解決シタキコト往電第二四六号申進メノ通リナル處右公文交換ニ至ル迄ノ交渉ハ我方トシテハ別ニ正式非公式ノ區別ヲ為スノ要ナク且ツ交渉相手方ノ何人ナルカハ支那側ノ希望ニ委シテ差支ナキモ我方トシ

北京、南京へ転電アレ

643 昭和3年11月(5)日 在中國堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛（電報）

債務整理問題に関する英國政府のランプソン
公使宛訓令について

北 京 発
本 省 11月5日後着

*第一五三七号

往電第一五九号ニ閑シ

五日塩務會議後「ランプソン」ハ本官ノ居残リヲ求メ予テ本官ノ内報ニ基ク債務整理問題ニ関スル矢田宋子文十月十七日迄ノ商議経過ヲ英國政府ニ報告シタルニ対シ四日受取

リタル一日付同政府ノ電訓ヲ抜萃シテ読ミ聴カセタルカノ要旨ハ

(一) 差等税率施行以前ニ債権国民代表者会議開催ノ日本ノ主張ニ対シ鮮カラス驚駭ノ意ヲ表シ日本ハ同會議ニ於テ必然債務整理ヲ新税実施ノ条件トシテ主張スヘキ处英國ハ一九二六年十二月ノ声明ノ手前上之ニ反対セサル能ハス然レトモ此ノ趣旨ハ決シテ債務整理問題ニ關シ英國カ日本ニ対スル援助ヲ嫌フ意味ニアラサルコトヲ日本代理公

テハ成ルヘク速カニ本件ノ解決ヲ計リ度キニ付此儘宋トノ商議ヲ継続シ彼我ノ意見一致ヲ見タル上王正廷トノ商議ニ移スコト正当且得策ナルヘシト思考シ居ル次第ナルカ其ノ辺ノ懸引ハ出張中ノ有田局長ノ意見ニ依リ可然決定セラレ差支ナシ

二、尚宋ノ新提案ニ關シテハ右ハ要スルニ塩余確保問題ヲ交換条件トシテ閑稅担保債務整理問題ニ關スル我方ノ主張ヲ譲歩セシメムトスルニアリト解セラル處本來塩余問題ト本件債務整理問題トハ全ク別ノモノニシテ其ノ間何等関連ナキノミナラス然レトモ宋ノ云フカ如ク国民政府財政ノ困難ナル現状ニ付テハ我方ニ於テモ充分之ヲ承知シ居リ決シテ難キヲ国民政府ニ強ヒムトスルノ意思ナキハ勿論ニシテ往電第二八七号ノ「モラトリウム」案ノ如キモ右ノ考慮ニ基クモノニ外ナラサル次第ニ付右ノ趣詳細宋ニ説示ノ上此上共我方主張貫徹方御尽力アリ度シ
北京、南京へ転電アレ

(二) 従テ英國トシテモ宋子文ヲシテ前後二回ノ提議以上ノ讓歩ヲ為シ閑稅收入ヲ以テ不確實債務ヲ整理スルコトヲ承認セシムルコト望マシク而シテ之カ説得ノ任ハ貴官（「ランプソン」）自ラ南下シテ之ニ当ルヘク下僚ニ委任スルコト不可ナリ

(三) 斯シテ支那側ニ於テ閑稅ノ一部ヲ債務整理ノ使途ニ充ツルコトヲ承認シテモ支那ヲシテ之即チ國際債務上ノ責ヲ果シタリトノ妄想ニ陥ラシメス其ノ債務全部ヲ決済シ終ル迄ハ依然トシテ現存スルモノナルコトヲ力説スルノ要アリ

(四) 本件交渉ニ於テ特ニ注意スヘキコトハ之ヲ以テ英國ハ一九一二年以降ノ新事態タル閑稅收入ニ対スル外国人ノ監督權ヲ永続セシメント希望シ居ルカ如キ印象ヲ支那側ニ与ヘサルコト之ナリ

本官ハ之ニ対シ右(一)ニ依レハ英國ハ日本カ債務整理条件ヲ固持スル場合日本ノ希望スル援助ヲ見合ハセラル趣旨ニモ非サル様ナルカ或ハ債権者會議ノ閑スル限り英國ハ参加ヲ見合ハセラル趣旨ト解シ然ルヘキヤト尋ネタルニ公使

ハ否英國ハ右會議ハ必然英國ノ債権ニモ重大ナル關係アリト考へ参加ヲ主張スルモノナルモ若シ同會議ニ於テ債務整理ヲ以テ新稅承認ヲ条件トスル如キ議論出テタル場合ニハ年來ノ政策トシテ公表シ来レル立場上是ニ反対セサルヲ得ス從テ會議ノ紛糾ヲ懸念スルナリト答ヘタルニヨリ本官ハ自分ノ考ニテハ債権者會議ハ支那ニ於テ日本ノ主張スル新稅施行前債務整理ノ主義ヲ認メタル後開催セラルヘキ性質ノモノナレハ會議自体ハ数学的ノ討議ニ止マリ主義上ノ問題ニハ亘ラサルヘシト信スルモ英國政府カ特ニ右ノ懸念ヲ高調セラル趣旨ハ何處ニ在リヤト尋ネタルニ公使ハ答ヘテ実ハ茲ニ態ト朗読ヲ遠慮シタル一節アリトテ読上ケタル点ハ英國トノ葛藤ヲ招来スヘキモ如上ノ紛糾ヲ救フ為日本カ債務整理ヲ新稅施行ノ条件トスル其ノ主張ヲ緩和セムコト望マシトノ趣旨ナリ依テ本官ハ右ハ前記(二)ノ貴國政府カ宋子文ヲシテ日本ニ對スル讓歩ヲ為サシムル様交渉方貴官ニ電訓セル点ト矛盾スルニ非スヤト述ヘタルニ公使ハ答ヘテ英國政府ハ宋子文ヲシテ飽迄自發的ニ新稅施行トハ關係無ク債務整理ヲ声明セシメムトスルモノニシテ決シテ矛盾セスト云ヘリ

我ト歩調ヲ一ニセサルモノアリ此間ノ事情ヲ承知セル支那側ハ從来屢次ノ声明ノ關係モアリ我方カ差等税率自体ニハ何等異議ナキ旨表示シ居ルヲ幸ヒ時日ノ切迫ニ伴ヒ他国トノ互惠條約ノ成否ニ拘ラス近ク一方的ニ差等税率ヲ実施シテ閏稅自主ヲ實行スルカ如キコトナキヲ保セス貴電第七九五号華府會議付加稅徵收ニ關スル「エドワーズ」申出ノ如キハ前記支那側計画遂行ノ第一歩トモ觀察シ得ル處支那側ニ於テ右ノ如キ一方的措置ニ出ツルニ至ラハ右ハ啻ニ形式上ニ於テ條約ノ規定ヲ無視スルノ行為タルノミナラス實行上ニ於テモ債務整理及税率ノ協定(自主權承認条件)ヲ不可能ナラシムルハ勿論本件差等税率ノ税率品目分類、其ノニ関スル宋子文ノ言明モ一片ノ反故トナシ陸境閏稅等ニ付テモ一方的變更ヲ加ヘントスルカ如キコトナキヲ保セス為ニ事態ハ益々紛糾ヲ加フル虞アルニ依リ貴官ハ適當ノ機会ニ於テ支那側ニ對シ閏稅問題ヲ合法ノ手段ニ依リ解決スヘキコトハ帝国政府ノ終始一貫セル方針ナル旨ヲ篤ト説明セラレ一方的措置ニ出ツルコトナキ様嚴重御申入置アリ度尚右ニ閏連シ往電第二四八号ヲ以テ申進シタル差等税率実施

右問答ニヨリ御承知ノ如ク英國政府ハ遂ニ債務整理問題ニ於テ支那側ニ説得スル為種々細目ニ亘ル訓令ヲ「ランプソン」ニ発シタルモ同時ニ英國ノ重要視スル政策ハ是ヲ固持シ是ト撞着セサル範囲ニ於テ行動スル決意固キモノト觀ラルヲ以テ日本トシテモ此ノ趣旨ヲ以テ同國トノ提携ヲ我ニ有利ニ誘導スル外無キヤニ思考ス

上海、南京へ転電セリ

644 昭和3年11月8日 田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛(電報)

*
特第二号
閏稅問題の合法的解決が我が方の一貫した方針である旨説明方訓令

本省 11月8日発

最近支那ト關係各國トノ閏稅條約交渉ノ成行ヲ見ルニ英仏ハ自主權承認ト同時ニ差等税率ヲ其ノ儘國定税率トシテ定期間実施セシメ併セテ互惠協定ヲモ締結セントスルモノノ如ク債務整理ヲ以テ閏稅問題解決ノ条件トシ居ラス爾余諸國モ大体英仏ノ態度ニ做ハントシツアリテ必スシモ

問題ハ彼我文書ノ交換ニ依リ解決スヘキコトニ閏スル貴官宋子文間ノ會談ノ大體ハ貴電第七〇二号(六四〇二文書)ニテ判明シ居ルモ當方参考ノ為當時此点ニ閏スル彼我應酬ノ模様詳細電報アリ度シ

北京へ転電セリ南京へ転電アリタシ

645 昭和3年11月10日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

閏稅增收を債務整理に充當の原則承諾に關し
宋子文を説得について

本省 11月10日前着
上海 発

*第八一四号

南京發往電第六三二号ニ関シ

當日本官宋ト三時間ニ亘ル會見ノ模様詳細電報ス

八日宋ト會見ノ際宋ハ往電第七七〇号(六四〇文書)後段ト同様差等税率問題ニ付宋ノ提案ヲ採用シ吳ルルニ於テハ鹽稅ニ付テハ如何様ニモ御相談ニ応スヘシト述ヘタルニ依リ右南京發往電ノ通我方ノ主張ハ何レモ公正ニシテ其ノ一方ヲ交換的ニ讓

歩シ得ルカ如キモノニ非サル旨主張スルト共ニ差等税率ニ
関連シ目下日本ノ要求スル処ハ関税増収ノ一部ヲ債務整理
ニ充当スルノ主義ヲ認メシムルニアルモ是カ实行ニ当リテ
ハ好ク考慮スヘク例ヘハ当初一两年ハ支払ヲ為サス（宋ハ
曩ニ橋爪ニ対シ「モラトリュウム」ナル文字ハ国民政府ノ
对外信用ヲ低下スルカ故ニ好マシカラスト語リタル趣ナ
リ）
其ノ後ニ於テモ其ノ支払ハ少額ニ始マリ漸次支払額ヲ増加
スルカ如キモ一法ナリ若シ又関税増収ヲ新規外債ノ担保ト
スル意アラハ予メ債務整理ニ充当スル関税増収ノ割合ヲ百
分率ニ依リ定メ置ク可ナリ国民政府財政ノ困難ナル現状
ニ付テハ我方ニ於テモ充分之ヲ承知シ居リ決シテ難キヲ國
民政府ニ強ヒントスル意思ナキ次第ナルニ付此ノ際我方ノ
要求ヲ容ルルコトハ我方ヲモ満足セシメ国民政府ノ増収計
画ヲモ促進スル所以ナルコトヲ懇々説示シタル處宋ハ日本
政府ノ意ノアル処ハ貴官從來ノ説明ニ依リ好ク承知シ居ル
モ債務整理ニ関税増収ノ一部ヲ充当スルノ原則ヲ認ムル事
ハ主義トシテ応諾シ難キ次第ナリト言ヒ切リタルニ依リ本
官ハ更ニ右原則ハ北京関税會議ニ於テ支那代表モ認メ居リ

明後年一月一日ヨリハ関税自主ヲ実行スル積リナリト放言
シタルニ依リ其ノ不心得ヲ詰リ誤解ヲ懇々説キ聞カセ日本
政府カ国民政府ノ穩健ナル建設事業ニ対シテハ列国ニ勝ル
同情ヲ有スル次第ナルニ付貴下ハ日本ヲ信頼シ順序ヲ経正
道ヲ踏ンテ理想ニ進ムヘキナリト論シタルモ宋ハ貴官急遽
御来寧ノ旨承知シ少シハ從来ト異ナル案ヲ提示スルモノト
期待シ居タルニ拘ラス依然トシテ同シ事ヲ繰返スニ過キス
日本ハ何處迄モ自分ヲ追廻ハシテ逃道ヲ少シモ開ケテ呉レ
サルモノナレハ自分ハ窮余自分ノ計画ヲ断行スルヨリ外ナ
ク是カ為日支関係ニ如何ナル影響アルモ仮令国交断絶スル
モ真ニ已ムヲ得サル処ナリト言ヒ放ツニ至リ遂ニ物別レト
ナリタル事南京発往電第六三二号ノ通リ
北京、南京へ転電セリ

646 昭和3年11月11日 在上海矢田總領事より
　　田中外務大臣宛（電報）
　　債務整理問題に関し我が方主張貫徹の見込み
　　なきにつき宋の妥協提案を容れるのが得策な
　　る旨意見具申

日英米三国委員カ差等税率案ヲ支那側ニ手交シタル際ニモ
之ヲ明ラカニシ更ニ差等税率表決定ニ至レル総緝ニ鑑ミル
モ差等税率ノ実施ト債務整理ノ原則トハ離ル可カラサル関
係アリ決シテ新シキ原則ニモアラス無理ナル要求ニモ非ス
而シテ若シ日本ノ承諾無シニ差等税率ヲ實行センカ之レ実
ニ北京関税會議ヲ無視シ通商條約及差等関税条約ヲモ蹂躪
スルモノナルカ故ニ嚮ニ国民政府ノ声明シタル條約廢棄若
ハ臨時弁法適用問題ト同様ノ結果ヲ招来シ折角日支両國カ
其ノ国交改善ノ為尽シタル努力モ全然水泡ニ帰スルニ至ル
ヘク其ノ影響計リ知ルヘカラサルモノアルニ依リ本官ハ貴
下ノ慎重ナル考慮ヲ促ス所以ナリト事由ヲ尽シテ論シタル
モ宋ハ貴官ノ誠意ハ充分之ヲ諒トシ債務整理會議ハ直ニ召
集スヘク塙余借款ニ付テハ飽迄貴意ニ副フ様提議シ日本ノ
為実際的手段ニ依リテ解決セん事ヲ計リ自分トシテハ最早
出来得ル丈ノ讓歩ヲナシ居ルニ拘ラス日本ハ日本ニ取りテ
ハ実益モナキ原則ノ承認ヲ強ヒ自分ニ取リテハ致命的ナル
主義ヲ奪ヒ自分ノ地位ヲ覆スモ顧スト云フカ如キ状態ニ出
ツルハ甚タ無理ナリト云ハサルヲ得ス從テ仮令日本ノ承諾
ナキモ自分ハ断然明年一月一日ヨリ差等税率ヲ実施スヘク

貴電特第二号ニ關シ
⁽¹⁾_(六四五文書)
第八一八号（至急、極秘）
本省 11月11日後着

上海 11月11日前發

道ヲ踏ンテ理想ニ進ムヘキナリト論シタルモ宋ハ貴官急遽
同情ヲ有スル次第ナルニ付貴下ハ日本ヲ信頼シ順序ヲ経正
道ヲ踏ンテ理想ニ進ムヘキナリト論シタルモ宋ハ貴官急遽
御来寧ノ旨承知シ少シハ從来ト異ナル案ヲ提示スルモノト
期待シ居タルニ拘ラス依然トシテ同シ事ヲ繰返スニ過キス
日本ハ何處迄モ自分ヲ追廻ハシテ逃道ヲ少シモ開ケテ呉レ
サルモノナレハ自分ハ窮余自分ノ計画ヲ断行スルヨリ外ナ
ク是カ為日支関係ニ如何ナル影響アルモ仮令国交断絶スル
モ真ニ已ムヲ得サル処ナリト言ヒ放ツニ至リ遂ニ物別レト
ナリタル事南京発往電第六三二号ノ通リ
北京、南京へ転電セリ

貴電特第二号ニ關シ
⁽¹⁾_(六四五文書)

差等税率問題ニ對スル宋ノ態度ハ累次ノ拙電ニ依リ御承知
ノ通爾余ノ条件ニ付テハ左シタル議論モナク我方要求ヲ容
レタルニ拘ラス債務整理問題ニ付テハ終始一貫其ノ主張ヲ
改メス終ニ我方ノ承認ヲ得ストモ明年一月一日ヨリ断然差
等税率ヲ実施スヘシトノ放言ヲ繰返シ八日ノ會議ニ於テ宋
ハ幾分支那側ノ実状ヲ訴フルモ日本政府ハ国民政府ノ要望
達成ニ同情ヲ寄マスト称シ乍ラ依然トシテ同一要求ヲ改メ
ススケテハ最早交渉無益ナリトテ全ク不貞腐リ本官ト押問
答ヲ重ネテ終ニ国交断絶ニ迄及ヒ議論ニモナラサリシ状況
ハ拙電第八一四号ノ通ナリ蓋シ右ハ宋ノ天性直截寡默ニシ
テ支那一流ノ辞令ナキ結果モアルヘキモ亦彼カ壯年ニシテ
自信強ク曩ニ廣東及武漢政府ノ財政部長ヲ歴任シ列国側ノ
抗議ヲ無視シテ横車ヲ押シ切りタル経験ニ顧ミ我方ノ反対
ニ付テモ高ヲ括リ居ル次第ニハアラサルカ更ニ王正廷ノ條
約廃棄臨時弁法ノ適用声明モ一時ハ轟然タル反対ノ声ヲ聞

タルモ結局ハ列国ヲ引摺リテ条約改訂ノ商議ヲ進ムルノ已ムナキニ至ラシメ縦テハ支那側ノ思フ壺ニ嵌マリツアル折柄ナレハ宋カ今次関税問題ニ付列国ノ足並ミ全ク乱レタルヲ觀取シ殊ニ債務整理ニ付テハ日本独リ孤軍奮闘シ居ル足下ヲ見透シテ強硬ナル態度ニ出テタルハ何等怪ムニ足ラス從テ其ノ差等税率ヲ一方的ニ実施スヘシトノ放言モ必シモ「プラソフ」トシテ一笑ン去ルヲ得サル形勢ニ在リト存セラル

事情右ノ通ニシテ橋爪、李銘等トノ間接交渉ハアルモ本官トシテハ此ノ儘ニテハ最早宋ト会見スルモ無駄ナルヲ以テ税率問題ノ交渉ハ王正廷ヲ相手トスルヨリ外ナキ次第ナル處宋ノ態度既ニ斯ノ如クナル以上王ノ手ニ移スモ多クヲ期待シ得サルハ明カニシテ且今ニ及ンテハ税率問題ト塩税問題トヲ引離スハ却テ我ニ不利ニシテ寧ロ兩者ヲ相関連セシメテ塩余借款償還年額ニ関スル我方ノ主張ヲ有利ニ導ク方賢明ノ策ニ非スヤトモ存セラル

他方宋トシテモ好ンテ我方ト事ヲ構ヘントスル意思ナキコトハ曩ニ債務整理問題ニ付一旦決裂シタル後モ「ソコルスキ」ヲ介シテ妥協ヲ求メ夫レニテモ妥協ノ見込ナシト見

について
別電 十一月十六日着在上海矢田總領事より田中外務大臣宛第八四五号
関税收入中五百万ドルの債務整理充當に關する宋子文の覚書案
上 海 11月16日後発
本 省 11月16日後着
第八四四号
往電第八四三号ニ関シ

十五日午後宋トノ会見物別レトナリ辞去セムト立上リタル処宋ハ惶シク本官ヲ押留メ債務整理問題ニ關シ何等回訓アリタリヤト尋ネタルニ依リ未タ詳細ノ回訓ナキモ簡単ニ貴下申出ノ如キコトニテハ問題ニナラスト申越セリ本件ニ付テハ何レ回訓ヲ俟テ御相談致スヘシト述ヘタルニ宋ハ差等税率ノ実施モ間近ニ迫リ居ルニ付成ル可ク速カニ日本ノ同意ヲ取付ケ置カムト焦慮シ居ル次第ナルカ何故自分ノ申出ニテハ問題ニナラサルヤト頗ル困惑ノ体ナリシニ依リ実ハ前回会見ノ折（往電第八二九号）ハ塩余問題ニ没頭シタル為債務整理ニ関スル貴下ノ申出ハ單ニ聞放シニシ聞キ得タ

キタルモ結局ハ列国ヲ引摺リテ条約改訂ノ商議ヲ進ムルノ已ムナキニ至ラシメ縦テハ支那側ノ思フ壺ニ嵌マリツアル折柄ナレハ宋カ今次関税問題ニ付列国ノ足並ミ全ク乱レタルヲ觀取シ殊ニ債務整理ニ付テハ日本独リ孤軍奮闘シ居ル足下ヲ見透シテ強硬ナル態度ニ出テタルハ何等怪ムニ足ラス從テ其ノ差等税率ヲ一方的ニ実施スヘシトノ放言モ必シモ「プラソフ」トシテ一笑ン去ルヲ得サル形勢ニ在リト存セラル

事情右ノ通ニシテ橋爪、李銘等トノ間接交渉ハアルモ本官トシテハ此ノ儘ニテハ最早宋ト会見スルモ無駄ナルヲ以テ税率問題ノ交渉ハ王正廷ヲ相手トスルヨリ外ナキ次第ナル處宋ノ態度既ニ斯ノ如クナル以上王ノ手ニ移スモ多クヲ期待シ得サルハ明カニシテ且今ニ及ンテハ税率問題ト塩税問題トヲ引離スハ却テ我ニ不利ニシテ寧ロ兩者ヲ相関連セシメテ塩余借款償還年額ニ関スル我方ノ主張ヲ有利ニ導ク方賢明ノ策ニ非スヤトモ存セラル

他方宋トシテモ好ンテ我方ト事ヲ構ヘントスル意思ナキコトハ曩ニ債務整理問題ニ付一旦決裂シタル後モ「ソコルスキ」ヲ介シテ妥協ヲ求メ夫レニテモ妥協ノ見込ナシト見

647 昭和3年11月16日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）
宋子文より関税收入中五百万ドルを債務整理
に充當することを条件に日本政府説得方要請

ルヤ更ニ塩税制度ニ関スル英國トノ默契ニ拘ラス塩税ニ対スル我方要求ヲ容レントノ口吻ヲ洩ラシ以テ交換的ニ差等税率ニ関スル我方トノ妥協ヲ計ラントシ居ルニ徵スルモ首先セラル處ナルヲ以テ此ノ際我方トシテハ債権国代表者会議ヲ事実上差等税率実施前ニ招集スルコトヲ以テ満足シ塩余担保借款ノ償還年額協定ニ全力ヲ傾倒シ依テ事実上ノ利益ヲ確保スル様努ムル方有利ナリト思考セラル
蓋シ此ノ上我方ノ主張貫徹ヲ計ルモ殆ト見込ナク去リトテ万一一方的ニ差等税率ヲ実施セラレンカ列国ノ協調頼ミ難キ現状ニ於テハ我方如何ニ抗議ヲ統クルモ結局ハ大勢ニ引摺ラレ今日以上ノ讓歩ヲ為シ不利ヲ忍ンテ屈服スルノ止ムナキニ立至ルノ惧アルヘシト憂慮セラルルヲ以テナリ

転電先、北京、南京

ルヤ更ニ塩税制度ニ関スル英國トノ默契ニ拘ラス塩税ニ対スル我方要求ヲ容レントノ口吻ヲ洩ラシ以テ交換的ニ差等税率ニ関スル我方トノ妥協ヲ計ラントシ居ルニ徵スルモ首先セラル處ナルヲ以テ此ノ際我方トシテハ債権国代表者会議ヲ事実上差等税率実施前ニ招集スルコトヲ以テ満足シ塩余担保借款ノ償還年額協定ニ全力ヲ傾倒シ依テ事実上ノ利益ヲ確保スル様努ムル方有利ナリト思考セラル
蓋シ此ノ上我方ノ主張貫徹ヲ計ルモ殆ト見込ナク去リトテ万一一方的ニ差等税率ヲ実施セラレンカ列国ノ協調頼ミ難キ現状ニ於テハ我方如何ニ抗議ヲ統クルモ結局ハ大勢ニ引摺ラレ今日以上ノ讓歩ヲ為シ不利ヲ忍ンテ屈服スルノ止ムナキニ立至ルノ惧アルヘシト憂慮セラルルヲ以テナリ

転電先、北京、南京

認メサルヤト詰リタルニ宋ハ主義ヲ明記スルコトハ何レシ

テモ出来ス之カ出来サレハコソ難キヲ忍ンテ五百万弗投出
ス決心ヲシタルナリ之ニヨリ閑税增收ノ一部ヲ債務整理ニ

充当スルノ主義ハ事実ニヨリ確認サレ債務整理會議モ事実

上新税実施以前ニ召集スル旨言明シタル次第ナレハ日本ノ

要求ハ全部事實上貫徹シタルニ非スヤ夫レ以上ノ債務整理
ニ関スル具体的計画ハ債務整理會議ニ於テ決定スルコトト

ナラハ自分ノ立場モ楽ニナリ日本ノ面子モ立ツ次第ナレハ
之レ位ノ處ニテ協定致度ク愚図々々シテ居テハ一月一日以

前ニ債務整理會議ヲ召集スルコト事實上不可能トナリ折角
ノ努力モ無駄トナルヘシ貴官ナレハコソ自分モ是迄折レテ

出テ事實上日本ノ要求ヲ全部容レタル次第ナレハ今度ハ貴
官ヨリ日本政府説得方御尽力アリタシトテ大急キニテ別電

第八四五号ノ如キ案文ヲ書上ケ本官ニ示シタルカ時既ニ午
後五時半トナリ本官ハ一時モ早ク「ステートメント」発表
ノ件請電シタント存シタルニ依リ孰レ近日緩ツクリ協議ス
ヘシト述ヘ辞去セリ

北京、南京へ転電セリ

(附 電)

Shanghai,

Received, November 16th. p.m., 1928

Gaimudaijin, Tokio
* No. 845 (Urgent)

The Chinese Government will set aside the sum of 5 million dollars annually from the increased tariff for the purpose of consolidating loans inadequately secured and unsecured. Future arrangement will be discussed at the Conference which the Chinese Government intends to call at an early date.

Yada.

648 昭和3年11月17日 在中国塘臨時代理公使より
田中外務大臣宛 (電報)

税率改定に関する日本の承認および債務整理の原則承認の必要性を承子文に記載する所
英國公使の談話に依る

* 第一五八一號

往電第一五八〇號談話ヲ交ヘタル際

(丁)債務整理問題ニ関シ英國公使ハ自分南下ノ際ニハ支那カ

國定税率ナリ差等税率ナリヲ実施スル場合ニハ如何ニシ

テモ日本ノ承諾ヲ取付ケサレハ各國トモ平等待遇ノ保障

ヲ受ケ居ル關係上増税ハ實行不可能ニ終ルヘク他方債務

ハ何レノ途一度ハ支払ハサルヘカラサルニ付是カ支払ノ

「アリンシップル」ヲ認ムル方賢策ナリトノ趣旨ニテ宋子

文ヲ説クヘク右ノ趣旨ハ宋カ曩ニ北京ニ來リタル際ニモ

自分ヨリ申聞ケ置キタル處ナリト述ヘタルニ付本官ヨリ

宋ハ強情ナルニ付他ノ列國カ折合ヘハ日本モ結局ハ隨イ

来ルヘシトナシ中々當方ノ思フ通リニハ行カサルヘシト

答ヘタルニ「ハ」ハ他ノ者ナラハ兎ニ角宋ハ話ノ分ル人

物ナルニ付日本ノ承諾ナケレハモノニナラヌコトハ了解
スヘシ旁自分ハ右ノ趣旨ニテ充分説キ付タルニ

く転シテ債務整理ノ實際方法トシテハ「ヒドワーズ」ノ
「シンキング・ファンデム」案カ實際的ナリト思考スル處

649 昭和3年11月19日 田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛 (電報)

五百万ドル債務整理充當に関する宋覚書案に
対する我が方修正条件について

本省 11月19日後発

*^(マ)
貴電第八四四号ニ閲シ

第一五〇号

宋ノ申出ハ結局関税增收中五百万弗ヲ「セット・アサイド」シテ内外不確実債務ノ整理ニ充当セムトスルニアルモ

ノ如キ処整理ヲ要スヘキ内外不確実債務ハ関税會議ノ當時既ニ総額十億ニ上リ今日ニ於テハ更ニ多額ニ上ルモノト推定セラルニ付年額僅カニ五百万弗ヲ以テシテハ如何ニスルモ整理ノ方法到底立チ難ク嚮ニ右ノ案ニテハ考慮ノ余地ナキ旨不取敢電報シ置キタルハ右ノ趣旨ニ外ナラス然ル

ニ本件ニ閲シ我方ノ最モ重キヲ置ク点ハ関税增收ニヨリ不確実債務ヲ整理スヘシトノ主義ノ問題ナルコト屢次往電ノ通ナルニ付「宋ニ於テ右ノ点ニ付十分ノ誠意ヲ示シ此ノ主旨ヲ実質上明白ナラシムル」ニ於テハ我方トシテモ国民政府創業ノ此際之ニ難キヲ強ヒムトスルノ意毫モナク十分同情的考慮ヲ払フニ咨カナラサル次第ニ付此ノ際宋カ其ノ申

出中ニ

別電ト共ニ北京南京へ転電セリ

650 昭和3年11月(2)日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

宋子文関税增收の債務整理充當に関する我方
修正条件を拒否および近く差等税率予告実施
を通知について

ノ三点ヲ明記スルコトナリト述ヘタル處宋ハ総稅務司ニ訓令スルコトハ内部關係ノコトナリト不平釜敷ク述ヘタルニ付本官ハ右訓令ハ當然執ルヘキ処置ニシテ明記スル迄モ無キコトナルカ五百万弗ヲ「セット・アサイド」スル確保ヲ得タリトノ印象ヲ一般ニ与ヘ安心セシメムカ為特ニ明記セムコトヲ要求スル次第ナレハ敢テ反対スル要無カルヘント說示シタルニ宋ハ実ハ前回申出ノ案文ハ自分トシテハ最後のモノニシテ是以上讓歩ノ余地無キニ付若シ右案文ニテ日本政府ノ同意ヲ得ル能ハサル時ハ已ムヲ得ス日本ノ同意無クモ新税率ヲ実施スル覺悟ヲ定メ既ニ右案文ヲ政府ノ會議ニ提出シ其ノ同意ヲ得居ルニ依リ今更一句ト雖モ変更シ難シトテ讓ル色見エサルヲ以テ本官ハ上海宛貴電特第一九号ノ我方修正案ヲ手交シ右ハ貴下ノ提案ト大差無ク尚政府ノ會議ニ於テ決定セルカ故ニ最早変更ノ余地無シト云フカ如キコトハ本官ノ閑スル限ニ非ストテ一応審メタル上本官ハ然ラハ我主張ノ第一点初年度ニ於ケル五百万弗ヲ支出シ爾後増加スルノ原則ヲモ認メサル積リナリヤト詰リタル

(一)債務整理ノ為初年度ニ於テ五百万弗ヲ支出シ爾後逐次増

額スヘキコト

(二)右ノ趣旨ニヨリ総稅務司ニ訓令スヘキコト

(三)細目ハ出来得ル限リ速ニ開催セラルヘキ債權國代表會議ニ於テ北京關稅特別會議ニ於ケル討議ヲ基礎トシ討議決

定スヘキコト

ニ原則ヲ實行スルコトハ勿論ナリマサカ年々五百万丈ケニテ十億ノ内外債ヲ償還シ得ヘシトハ考ヘ居ラスト笑ヒニ紛ランタルニ依リ然ラハ其ノ趣旨ヲ明記スルコト何等妨無キニ非スヤト追及シタルニ宋モ弱リタル態ニテ本件ハ兎モ角相談ノ上後刻何分ノ儀御返答致スヘシト挨拶シタリ然ルニ午後四時半宋ハ張閔務處處長ヲ伴ヒ本官ヲ領事館ニ來訪シ日本ノ対策ニ付考究シタルモ既ニ政府ノ決定ニ係ルモノナラニ依リ遺憾乍ラ修正ノ余地無キ處案文ノ内容ニ於テハ何等變ル處無キ次第ニ付貴官ニ於テ日本政府説得方御尽力アリタシト述ヘタルヲ以テ案文ヲ眺メ居タルカ終ニ然ラハ自分支ケノ責任ニテat leastノ一語ヲ挿入スヘシat least 5 million dollars annuallyトセハ五百万弗以上ニ増額スルノ趣旨明瞭トナルベク自分トシテモ是位ノ修正ナラ會議ノ決定ニ拘ラス知ラヌ顔モ出来ル訳ナリト述ヘタルニ依リ夫レニテハ初年度以降支出額ヲ遞増ストノ趣旨明瞭ナラスト駁シタルモ宋ハ右ノ如キ細目ハ債務整理會議ニテ決定セハ然ルヘシトテ応セス

依テ本官ハ第二点總稅務司ニ訓令ストノ文句モ挿入アリタシト要求セル處宋ヨリ右訓令ハ必ス實行スルコトヲ茲ニ誓

日本ノ對策ニ付考究シタルモ既ニ政府ノ決定ニ係ルモノナラニ依リ遺憾乍ラ修正ノ余地無キ處案文ノ内容ニ於テハ何等變ル處無キ次第ニ付貴官ニ於テ日本政府説得方御尽力アリタシト述ヘタルヲ以テ案文ヲ眺メ居タルカ終ニ然ラハ自分支ケノ責任ニテat least 5 million dollars annuallyトセハ五百万弗以上ニ増額スルノ趣旨明瞭トナルベク自分トシテモ是位ノ修正ナラ會議ノ決定ニ拘ラス知ラヌ顔モ出来ル訳ナリト述ヘタルニ依リ夫レニテハ初年度以降支出額ヲ遞増ストノ趣旨明瞭ナラスト駁シタルモ宋ハ右ノ如キ細目ハ債務整理會議ニテ決定セハ然ルヘシトテ応セス

依テ本官ハ第二点總稅務司ニ訓令ストノ文句モ挿入アリタシト要求セル處宋ヨリ右訓令ハ必ス實行スルコトヲ茲ニ誓

約ス自分ノ誓約ニ依頼サレタシ抑モ斯ノ如キハ内部關係ノコトナリ實ハ自分申出ノ案ヲ政府會議ニ提出ノ際ニハ余リニ讓歩シ過キタル案文ナリトテ可成反対アリタルモ漸ク説得シタル次第ナレハ今更斯様ナ修正案ヲ再度提出スルハ不可能ナリトテ本官如何ニ説得スルモ頑トシテ応セス自分ノ言ニ信頼アリタシノ一点張ニテ將開カス依テ本官ハ第三点債務整理案ノ討議ハ北京閔稅會議ノ討議ヲ基礎トスヘキ旨明記スルコトニ話頭ヲ轉シタル處宋ハ依然案決定シタレハ何トモ致方ナシトノ主張ヲ繰返シ押問答ヲ重ヌル内宋ハ右北京閔稅會議ニ對シテハ国民政府カ廣東時代ニ強硬ナル反対意見ト共ニ不承認ヲ表明シタル次第モアリ明ラサマニ北京會議ノ討議ヲ基礎トス明記スル訳ニハ行カスト述ヘタルヲ以テ本官ハ隙サス之レハ聞捨テナラサル言ナリ若シ北京閔稅會議ヲ無視スト云フニ於テハ本件交渉ハ全然無益ナリ貴下カスク主張サルル以上本官モ飽ク迄此ノ句插入方ヲ主張セサルヲ得スト詰寄リタルニ宋ハ決シテ左様ナ意ニ非ストテ陳弁ニ努メタルモ本官ハ飽迄頑強ニ此ノ一句ヲ挿入セサレハ政府ニ取次クヲ得スト繰返シ固執シタル結果宋モ困リ果テタル如ク遂ニ自ラ筆ヲ取り別電第六六七号意ニ非ストテ陳弁ニ努メタルモ本官ハ飽迄頑強ニ此ノ一句ヲ挿入セサレハ政府ニ取次クヲ得スト繰返シ固執シタル結果宋モ困リ果テタル如ク遂ニ自ラ筆ヲ取り別電第六六七号

布ヲ為スカ如キハ我方ノ到底承認シ得ル限りニ非スル事アラムカ從来ノ努力ハ全ク水泡ニ帰スベク其ノ影響スル処重大ナルモノアルヘシトテ懇々其ノ不心得ヲ論シタルニ宋ハ決シテ実施ノ意味ニ非ス單ニ予告スルニ過キス既ニ日本トノ文書ノ交換ニ要スル時日ヲモ考慮シ実施期ハ一月一日ヲ二月一日ニ変更スルコトニ決定シタルモ予告丈ハ少クモ二箇月前ニセサルヘカラスト弁解シタルヲ以テ本官ハ如何ナルコトアルモ新稅率実施ノ公布ハ日本ヨリ文書ニテ回答アル迄ハ断シテ不可ナリト百万言ヲ尽シテ其反省ヲ促シタルカ宋ハ貴官ノ主張ヲ容レ実施ハ一個月丈ハ延期シタルモ如何ナルコトアルモ之以上ノ延期ニハ應シ難ク從テ予告ノ公布ハ十二月一日ヨリ遲ルルヲ得スト執拗ニ主張ヲ繰返シテ讓ラス依テ本官ハ現行從量稅ニ對スル差等稅率付加ニ付テハ尚我方ト協議スル筈ナラスヤト其ノ注意ヲ喚起シタル處宋ハ同行ノ張ヲ顧ミタルニ張ハ其点ニ付テハ問題無カルヘシ

(一)現行稅ヲ基礎トシ現行稅率ニヨル從量稅(五分)カ〇・二〇両ニシテ差等稅率カ一割ナレハ付加稅ハ〇・四〇両ナリ

ニ日本ノ完全ナル同意ヲ得ヘキモノトノ前提ノ下ニ行ハレタル次第ナルニ付未タ日本ノ同意ヲ得サルニ新稅實施ノ公

(二) 分類ニ付テハ現行税率表ハ差等税率表ト幾分差違アルモ

別ニ付加実施ニ付反動起ルトモ思ハレスト無造作ニ答ヘタルニ依リ上村ヲシテ上海宛貴電第二九〇号ノ趣旨ヲ説明シタル上本官ハ右換算及分類等ノ点ニ付テハ日本側ニ執リ大ナル利害関係アルニ付決定前是非日本側ト協議ヲ要スルコトハ既ニ貴下ニモ説明シ置キタル通ニシテ右協議ノ為ニモ相當時日ヲ要スヘク其ノ上仮令債務整理ニ付案文ノ妥結ヲ見外交部ヨリ在支公使宛ニ正式照会ヲ為ストスルモ之カ回答ヲ發スル為我方国内関係ノ諸手続ヲ完了スル迄ニハ相当ノ時日ヲ要スル次第ニ付十二月一日公布ト云フカ如キ乱暴ナル考ハ断然止メラレ度ント述ヘ置キタリ

北京、上海へ転電セリ

651

昭和3年11月24日

田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛（電報）

関税増収の債務整理充当問題に関する我が方
妥協策につき訓令

本省 11月24日後発

三、又若シ宋カ右第二案ニ対シテモ承諾ヲ肯セサル場合ニ

ハ此際成ルヘク速ニ本件解決ヲ計ル趣旨ニテ宋ノ申出通

リ全部承認スルコトトシ差支ヘナキモ其文句ハ別電第三

三五号前段ノ通り即チ

an annual sum of at least 5,000,000.....ト訂正セシ

メラレ度シ

右ハ時日切迫ノ折柄再三ノ電報往復ヲ避クルノ主旨ニ於テ

三案ヲ列記シタル次第ニテ當方トシテハ前記第一若クハ第

二ノ何レカニ依リテ解決スルコトヲ切ニ希望シ第三ハ決裂

ヲ避クル等万止ムヲ得サル場合ニ非レハ讓歩シ難キ所ナル

ニ付右御含ノ上然ルヘク御措置アリ度シ

別電ト共ニ北京へ転電セリ

別電ト共ニ南京へ転電アレ

652 昭和3年11月24日 田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛（電報）

時間切迫につき実施条件の妥結成れば我が方

正式承認前の中國側の差等税率実施公布を默

認して可なる旨訓令

*第三三四四号

南京発本大臣宛電報第六六六号ニ閲シ

一、往電特第一八号我方修正ノ三点中第一点初年度五百万

弗及逐年増額ノ件ハ我方ノ最モ重キヲ置ク所ニシテ宋ノ

提案ノ如ク at least the sum of 5 million dollars

annuallyトスルニ於テハ逐次增加ノ意味明瞭ナラス結局

支那側ヲシテ五百万弗以上ヲ支出セシメ得サル結果トナ

ル虞ナキニアラスト思考セラルニ付我方トシテハ此際

第二点及第三点ニ付テハ大体宋ノ申出通り譲歩スル代リ

ニ右第一点ニ付テハ前記往電ノ通り我方ノ主張ヲ承認セ

シムルコト致度ニ付右方針ニテ今一応宋ヲ説得セラレ

度ク（尤モ第三点中dataナル文字ハ單ニ数字等ノ材料

ヲ指スニ過キサルニ付右ハ discussionsト改メ度キモ止

ムヲ得サレハ別電第三五号末段ノ通proceedingsトセ

ラレ度シ）

二、若シ宋ニ於テ如何ニシテモ右我方ノ主張ヲ容レサルニ

於テハ年額少クトモ五百萬元トシ増額其他ノ細目ニ付テ

ハ債權国代表會議ニ於テ決定スルコトトシ大体別電第三

三五号ノ通ト致度ク

*第三三八号

南京発本大臣宛電報第六六六号及第六七二号ニ閲シ

本省 11月24日後発

（六五〇文書）

一、我方ノ最重要視スル処ハ差等税率実施前ニ完全ニ彼我

ノ協議成立シ且正式ニ我方ノ承認ヲ経ルコトニアルコト

御承知ノ通リナル処右協議成立後ト雖モ我方ノ正式承認

前ニ支那側カ本件実施ヲ公布スルカ如キコトハ枢府其他

ニ对スル国内手続遂行上面白カラサルノミナラス支那側

従来ノ遣口ニ顧ミ不安ノ点モ少ナカラサルニ付出来得ヘ

クハ支那側照会ニ對スル我方回答発送後（支那側ニ到着

前ニテモ可ナリ）之ヲ公布セシムルコトニ取極メタキ次

第ナルカ御承知ノ如ク本件ハ枢府諮詢ノ上御裁可ヲ仰ク

コトヲ必要トシ而モ從來此種重要問題ノ前例ニ徵スルモ

少クトモ右手続ノ為一ヶ月以上ノ期間ヲ要シ急速ニ国内

手続ヲ完了スル能ハサル次第ナルヲ以テ万止ムヲ得サル

場合ニハ条件其他ニ付事實上彼我完全ニ妥結成リ右ニ基

キ支那側ヨリ在支公使宛照会発信後直ニ先方カ之ヲ公布

スルコトアルモ之ヲ默過スル外ナシト思考シ居ルニ付右

御含ノ上可然御折衝アリ度

一、公文交換ノ手続トシテハ南京領事ヨリ支那側ノ在支公使宛公文写ノ電報ニ接スルト同時ニ至急我方回答案ニ対スル御裁可ノ手續ヲ執リ度ニ付万全ヲ期スル為來翰案ニ付テハ貴官ニ於テ内諾ヲ与ヘラルニ先チ全文電報及郵送セラルト共ニ支那側ヨリ発給ノ上ハ南京領事ヨリ重ねテ其写全文ヲ電報及郵送セシムルコトト致度シ尚書翰案付属税表ハ広汎ニ亘リ居ルヲ以テ予メ先方ヨリ提示ヲ受ケ當方へ郵送シ置カレタシ

三)、予告期間ニ付テハ關係列国側トシテモ二月位ヲ希望シ居ルコトト思考セラルモ我方トシテハ場合ニヨリテハ多少短縮スルモ差支ナキ意向ナリ

四、尚南京發本大臣宛電報第六六六号末段ニ關シ差等税品目ノ分類及税率算定ハ前記一ノ事情モアリ必要ニ応シ公文交換後本税実施前ニ於テ彼我妥結スルコトニ打合セラレ差支ナシ又差等税率ヲ付加スヘキ基礎税率ニ付支那側ハ單ニ現行税率ニ付加云々ト謂ヒ右ハ大正十一年改訂ノ現行税率及物価編訂委員会編纂ノ新税率中何レ指スモノナリヤ明ナラサル處本件税率ノ分類及税率算定ハ右基礎税率決定後確定シ得ヘキモノニ付此点モ至急御確メノ

一、債務整理問題ニ付テハ先ツ本官強硬ニ貴電特第一八号ノ第一点(subject to the increase)一句存置方ヲ主張シタル結果午後ノ会見ニ於テ渋々乍ラ同意シ次ニ本官ニ於テdata ハ discussion ト修正方執拗ニ主張シタル結果宋モ遂ニ折レテ是ニ同意シタリ尚future application ヲ貴電特第一八号ノ通all detail of application ト修正シ別電第八七〇号ノ通妥結セリ然ルニ右ハ支那文ヲ以テ發送スヘキモノナルヲ以テ別電第八七一号ノ如キ支那文本文ヲ作製セリ右支那文ノ邦訳文別電第八七二号ノ通

二、在支公使公文ニ於テハ貴電第二四八号ノ二前段ノ点ハ單ニ別紙添付ノ新税率表ヲ採用シタキ旨記載シ別紙トンテ現行五分税ニ差等税ヲ付加シテ作製シタル税率表ヲ添付スルコトトセリト述ヘタルニ依リ本官ハ從来累次ノ警告ニ拘ラス新税率表作製前本官ニ諧ラサリシ不都合ヲ詰問シ右新税率表ノ内示ヲ迫リタルカ宋ハ諸外国トノ関係モアリ一存ニテ計ヒ兼ネルトテ南北ニ照会スルコトトナリ直ニ請訓セルカ同席ノ張閩務署長ハ從量税ニ關スル日本側ノ質問ニハ何時ニテモ御答ヘスヘク且御協議ニモ応スヘシト述ヘ居タリ

四、抵代税ニ付テハ当初ノ自分(宋)ハ抵代税ノ性質ヲ十分了解シ居ラス且金額モ多カラサリシヲ以テ一応同意シ其ノ後王正廷ノ意見ヲ求メタルニ王モ異存ナカリシヲ以テ不用意ニ同意ヲ与ヘタル處其ノ後政府部内及各省ヨリ右ハ外國品ノ関スル限り釐金廢止ト同一結果トナリ重大事件ナリトテ強硬ナル反対アリ今日迄何トカ貴官ニ对スル言質ヲ貰キタント反対慰撫ニ努力シ來リ從テ貴官ニハ未タ何事モ申上ケサリシ次第ナルカ最近ニ於テハ其ノ上尚自分カ閩稅收入中五百万弗ヲ控除シ債務整理ニ充当スル案ニ付日本政府ノ要求ニ全然屈服シタリトテ政府部内ノ糾弾激烈トナリ宋ハ矢田ノ傀儡ナリ等ト迄非難セラレ

上結果電報アリ度尚我方ニ於テハ日下右分類及税率算定ニ付審議ヲ進メ居ルニ付不日詳細申進スヘシ
在支公使ヘ転電セリ南京ヘ転電アリ度シ

653 昭和3年11月27日 在上海矢田總領事より田中外務大臣宛(電報)

閩稅增收の債務整理充當に關する覚書案妥結
および宋子文抵代税廃止の言明取消しについ

* 第八六九号
貴電第三三四号(文書)ニ關シ
二十六日午前十時ヨリ正午迄及午後五時ヨリ六時迄二回ニ亘リ宋ト会見シタルカ其ノ結果左ノ通

別電 十一月二十七日着在上海矢田總領事より田中
外務大臣宛第八七二号

閩稅增收の債務整理充當に關する覚書案妥結案
訳文

本省	上海	發
		十一月27日前着

(右攻撃宣伝ハ明日頃ヨリ火ノ手ヲ挙クルナルヘシ) 自分モ全ク立場ニ窮シタルニ依リ万已ムヲ得ス言ヒ出シ難キヲ忍ムテ今日抵代税ニ関スル同意丈ケハ前言ヲ取消シ自分ノ不明ノ罪ハ幾重ニモ御許シヲ請フコトニ決定シタリト申出テタリ本官ハ此ノ告白ニ喫驚シ一旦公約セルコトヲ今ニ及ムテ突如破棄セムトハ暭然言フ処ヲ知ラサル次第ナリスクテハ日本政府ノ貴下ニ対スル信用全然失墜スルノミナラス今日迄本国政府ニ対シ常ニ貴下ノ諾否ヲ信頼シ得ヘキコトヲ力説シ来レル本官ノ面目モ亦全潰レトナルヘク如之本件ハ日本政府ノ最予期シ居ル点ナレハ本件聽カレスムハ恐ラク日本政府ハ差等税率ノ実施ヲ承認スルコト無カラムト述ヘタルモ宋ハ貴官ニ対シテハ何トモ申訳ナキモ自分モ畢竟人間ナリ釐金廃止ニ関スル同意ヲ得ル能ハストモ已ムヲ得サル処ナリト述ヘ本官手前ニ於テ百万言ヲ尽シテ説得ニ努メ午後ノ会見ニ於テ再ヒ硬軟両方面ヨリ説キ付ケ其ノ再考ヲ促シタルモ宋モ遂ニハ捨鉢氣味トナリ成功スルヲ得シテ引揚ケタリ

五、公布期日猶予方ニ付テハ本日ノ会見ニ於テ機会アル毎ニ持出シタルモ二個月ノ予告ハ絶対ニ必要ナリトテ願ト

654 昭和3年11月(27)日

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

宋子文が抵代税廃止声明を取消した事情について

上海 本省 11月27日後着 発

第八七六号
(六五三文書)
往電第八六九号ニ關シ

二十六日午前宋トノ会見ニ於テ債務整理ニ関スル案文ノ交渉一段落ヲ告ケタル後進ンテ外交部長ヨリ在支公使宛公文案文ニ關スル協議ヲ進メ抵代税ノ項ニ及ヒタル処宋ハ如何ニモ言ヒ惡ソウニ実ハ当初自分ハ抵代税ノ性質ヲ能ク了解シ居ラス同税ノ海關年收ハ二三百万兩ニ過キストノコトナリシニ依リ左シタルコトナシト思ヒ不用意ニ同意シタルカ其ノ後政府部内及各省ノ反対制シ難クナリタルヲ以テ已ムナク同意ヲ取消シタルヲ以テ本官ハ事ノ意外ニリシニ一旦為セル公約ヲ此ノ最後ノ瞬間に於テ破棄スルハ何事ソヤ抑々抵代税ノ性質ニ付テハ当初貴下ハ能ク知ラストノコトナリシヲ以テ日支通商條約ノ規定北京関稅會議ノ記

リト申出テタリ本官ハ此ノ告白ニ喫驚シ一旦公約セルコトヲ今ニ及ムテ突如破棄セムトハ暭然言フ処ヲ知ラサル次第ナリスクテハ日本政府ノ貴下ニ対スル信用全然失墜スルノミナラス今日迄本国政府ニ対シ常ニ貴下ノ諾否ヲ信頼シ得ヘキコトヲ力説シ来レル本官ノ面目モ亦全潰レトナルヘク如之本件ハ日本政府ノ最予期シ居ル点ナレハ本件聽カレスムハ恐ラク日本政府ハ差等税率ノ実施ヲ承認スルコト無カラムト述ヘタルモ宋ハ貴官ニ対シテハ何トモ申訳ナキモ自分モ畢竟人間ナリ釐金廃止ニ関スル同意ヲ得ル能ハストモ已ムヲ得サル処ナリト述ヘ本官手前ニ於テ百万言ヲ尽シテ説得ニ努メ午後ノ会見ニ於テ再ヒ硬軟両方面ヨリ説キ付ケ其ノ再考ヲ促シタルモ宋モ遂ニハ捨鉢氣味トナリ成功スルヲ得シテ引揚ケタリ

五、公布期日猶予方ニ付テハ本日ノ会見ニ於テ機会アル毎ニ持出シタルモ二個月ノ予告ハ絶対ニ必要ナリトテ願ト

シテ聽カス遂ニ右抵代税ノ件ニ付宋前言ヲ食ムニ及ヒ交渉ノ成否サヘ疑問トナリタルヲ以テ公布期日ニ付テハ突詰メテ交渉スルノ余裕ナク其ノ儘トナレリ委細後電
北京、南京へ転電セリ

(別電)

上海 本省 11月27日着 発

第八七二号 別電第八七一号訳文

国民政府ハ無担保及不確実担保ノ内外債ヲ整理スル為毎年該税則ノ増加税関公課ヨリ五百万元(此ノ額ハ之ヲ増加スルコトヲ得)ヲ支出ス

一切ノ詳細ナル弁法ハ国民政府ニ於テ最近期内ニ會議ヲ召集シテ之ヲ討論シ該會議ノ迅速ナル解決ヲ促進スル為北京関稅會議ノ討論ニ対シ正當ナル考慮ヲ加フヘシ

北京、南京へ転電セリ

錄等ヲ示シテ説明シ貴下モ納得セラレタルニ依リ然ラハ差等税ヲ納付スル以上抵代税ヲ納付シタルモノト看做シ釐金其他一切ノ内国税ヲ免除セラルモノト了解シ差支ナキヤト念ヲ押シタルニ然リト答ヘタルハヨモヤ御忘レナカルヘシ今ニ及ヒテ抵代税ノ性質ヲ能ク了解シ居ラス不用意ニ同意シタリ等言ヒ出シ得ヘキ義理ニ非スト窘メタルニ宋ハ政府ノ収入ニハ大ナル影響ナシト信シウツカリ同意シ後王正廷ノ意見ヲモ徵シタルカ王モ異存ナシトノコトナリシヲ以テ安心シ居リタル処其ノ後本件各方面ニ知レ亘リ各省ヨリ地方政府ノ重要ナル財源ヲ失フモノナリトテ激烈ナル反対ノ声起リ政府部内ノ攻撃モ逐日火ノ手ヲ挙ケ來リ之カ慰撫ニハ随分骨折リタルカ他方貴官ヨリハ矢繼早ニ債務整理問題ニテ攻メ立テラレ已ム無ク整理資金年額五百万弗支出ニ同意ヲ与フルヤ終ニ軍閥側ノ反対ヲモ招キ自分ニ対スル糾弾愈々熾烈トナリ公然宋ハ矢田ノ走狗ナリトノ言モ耳ニスルニ至レリ形勢斯ノ如ク非ト成レルヲ以テ万已ムヲ得ス勇氣ヲ奮ヒ恥ヲ忍ヒテ取消スコトニ決心シタルナリト答ヘタリ從テ本官ハ斯テハ日本政府ノ貴下ニ対スル信用モ全然失墜スヘク前途アル貴下ノ為採ラサル処ナリト懇々其ノ不心

得ヲ論シタルモ目下ノ自分ノ立場余リ苦シク何トモ致方無シノ一点張リニテ容易ニ納得ノ色ヲ示サス

本官ハ更ニ論法ヲ変エ今日迄自分ハ本国政府ニ対シ常ニ貴下ノ然諾ヲ重ンシ信頼シ得ル人物ナルコトヲ力説シ斡旋ニ努メ来レル次第モアリ今ニ至リ何ノ面目アリテ宋部長ハ前言ヲ破棄セリト報告シ得ルヤ本官ノ信用モ亦失墜スヘシト口説キ立テタルモ宋ハ依然誠ニ申訳ナント繰返スノミニテハ動ク色ナカリシヲ以テ更ニ進テ抵代税ノ件ハ日本年来ノ主張ニシテ北京會議ノ際ニモ日本側ハ其ノ主張ヲ高調シタル結果列国モ進テ我方主張ヲ支持スルニ至リ從テ差等税率表ヲ支那側委員ニ手交シタル際ハ佐分利委員ヨリ右表ハ抵代税ヲ包含スルモノナルコトヲ述ヘタルニ蔡廷幹ハ勿論左様諒解シ居ル旨答ヘタル程ニテ支那側ニモ異議ナク日本側トシテハ年来ノ主張ナルニ鑑ミ本件ヲ最モ重要視シ居ルヲ以テ貴下ノ取消ヲ聞カハ恐ラク差等税率ノ実施ヲ承認セラルヘク交渉モ停頓トナリ旁々貴下ノ主張スル十二月一日ノ公布期日迄ニハ解決全然不可能ニ陥リ事態頻ル憂慮スヘキモノアルヲ以テ此ノ際切ニ貴下ノ英断ヲ促ス次第ナリ

貴下ニシテ一言承知セリト言ヘハ差等税率問題ハ立所ニ解

テ國庫ニモ影響アリ部内ニモ不平アリト弁解シ釐金廃止ノ時期如何ト質セハ未タ決定シ居ラスト答ヘ応酬ヲ重ネタルモ未決ノ儘正午一旦辞去シ午後五時再度会見（此ノ間宋ハ王正廷ト会見セリ）本官ハ改メテ宋カ政府ノ代表トシテ外交ニ携ハリ前言ヲ食ムカ如キハ不信ノ極ニシテ赦スヘカラス之レ国民政府ノ國際的信用ヲ失墜スル所以ナリト指摘シ尚日本カ国民政府カ增收計画ニ対シ同情の考慮ヲ払ヒ差等税率ノ実施ヲ率先承認セントシ交渉モ近ク妥結セントスル矢先貴下ノ不信ノ一言ニ依リ急転直下決裂ニ瀕シタルハ如何ニモ遺憾ナリ之レ貴下ノ為メ取ラサル処ナルノミナラス支那ノ為ニモ甚タ不利益ナリト説得ニ努メタルカ依然聞カススクテハ決裂ノ外ナカルヘシト言ヘハ已ムヲ得サル処ナリ決裂ノ上ハ日本ノ同意ナクモ十二月一日ニハ公布シ二月一日ヨリ断然实行スルヨリ外ナシト応シ然ラハ日支両国ノ交渉ハ一切停頓トナルヘシト述フレハ日本カ如何ナル強硬ナル抗議ヲ提出サルモ將又進ムテ新税率実施阻止ノ為メ

高圧手段ヲ取ラルモ覺悟ノ前ナリト答ヘ全ク捨テ鉢氣味トナリ如何ニ説得スルモ応スル色無カリシヲ以テ遂ニ其ノ儘物別レトナリタリ

決シ得ヘキ状態ニアルニアラスヤト条理ヲ尽シ百方其ノ決心ヲ促シ説得ニ力メタルモ宋ハ御承知ノ通リ一般ハ關稅自

主ノ即時断行ヲ主張シ差等税率ノ実施其モノニ対シテスラ反対シ居ルヲ以テ右実施サヘ出来ル文秘密ニシ其ノ名目モ内部ノモノスラ自分ニ不満ヲ懷クハ当然ノコトニシテハルニ付本税率ノ実行ニ幾多ノ条件ヲ付セリトノコトニテハ自分ノ窮状ハ想像外ニアリ失脚ハ覺悟スル所ナルモ貴官ト約束ヲ守リ之カ為却テ凡テノ問題ヲ破壊スルヨリハ寧ロ

自分ノ不明ニ依リ為シタル失策ヲ潔ク告白シテ日本政府ノ諒解ヲ求ムルニ如カスト決心シタル次第ナリト訴ヘ尚抵代税ノ件ハ明記セサルモ王トモ協議シ必ス日本ノ要求ニ副フヤト窘メタル處宋ハ釐金廃止モ近キニアレハ其ノ際ハ抵代税ノ消滅スヘシト逃ヶヲ張り然ラハ抵代税ニ関スル要求ヲ容ルモ可ナラスヤト迫レハ未タ釐金保障ノ準備整ハサルニ直ニ抵代税ヲ止メンカ各省ノ反対ヲ慰撫スルノ方法ナク且江蘇浙江ノ二省ヨリハ釐金收入ヲ中央ニ送付シ居ルヲ以

惟フニ宋カ抵代税ニ付突如其ノ態度ヲ変更シタルハ宋自身ノ云フカ如ク当初充分研究セス一存ニテ承認シタルカ其ノ後内部ノ反対意外ニ強ク自ラモ行過キタリト感シ困リ居リタル處債務整理問題ニ付交渉延引スルト共ニ各方面ヨリノ攻撃モ盛トナリ他方宋自身ハ債務整理年額五百万弗支出案ニ付日本ニ非常ナル讓歩ヲ為シ恩ヲ売リタリト思込ミ斯ク債務整理ニ付日本ニ満足ヲ与ヘタル以上抵代税ニ付テハ日本ハ國交ヲ賭シテ迄反対セサルヘク旁新税率公布ノ日モ十二月一日ト迫リ居ル折柄大抵ノ処ニテ我慢スヘシト多寡ヲ括リ加之王正廷ノ入智惠モ手伝ヒタルニ非スヤト察セラル節モアリ其ノ態度ヲ変更スルニ至リンナルヘク從テ藉スニ時日ヲ以テセハ抵代税ニ付テモ尚交渉ノ余地無キニ非スト存セラルモ本件急遽円満解決ノ見込無キ以上差等税率実施ノ公布ヲ阻止スルハ困難ナリト存セラル

北京、南京ヘ転電セリ

~~~~~

655 昭和3年11月30日 田中外務大臣より  
在上海矢田總領事宛（電報）  
抵代税廃止に関する宋の前言取消しは容認で

## きない旨および今後の交渉方針につき訓令

本省 11月30日発

## 第三四五号\*

(六五三文書)

(六五四文書)

貴電第八六九号及第八七六号ニ関シ宋今次ノ態度ハ或ハ支那一流ノ懸引カトモ思考セラルル処商議モ漸ク妥結ニ至ラントスル今日我方從来ノ好意ヲ無視シ突然前言ヲ翻シ重要事項ニ付言ヲ二三ニスルカ如キハ到底容認スヘカラサル不信ノ行為ニシテ支那側ハ本件交渉ニ付全然誠意ヲ有セサルモノト謂フ外無ク從テ我方トシテハ先方カ其ノ態度ヲ改メサル限り此上交渉ヲ継続スルモ無益ノ事ナリトモ思考セラル所今一応左記方針ニ依リ本件ノ妥結ニ見込アルニ於テハ商議ヲ続行セラレ差支ナキニ付右ノ趣旨ニテ更ニ御折衝アリ度シ

一、貴電第八六九号ニ依レハ支那側ハ現行五分税ニ付加税ヲ加ヘタル新税率表ヲ全然新規ノ税率トシテ公文ニ添付セントスルモノノ如キ處我方ハ華府条約等ノ規定ニ鑑ミ本件ハ付加税実施ノ形式ニ於テ之ヲ承認スルコト適當ナリト認メ居ルヲ以テ成ルヘク差等税率表其儘又ハ差等税率ヲ現行税表ニ當テハメテ算出シタル付加税表ヲ添付セ

(欄外記入)

## 二、貴電第八六九号三ニ付(イ)二分五厘付加税ノ廃止ハ現ニ

内地税局ノ存在スル關係モアリ支那側ノロ頭約束ノミニ

テハ不安ナルニ付覚書其他適當ノ方法ニ依リ確約ヲ取付ケ置カレ度シ(同)支那側ハ石油煙草及葉煙草税率ニ付日本ニ利害關係ナシ等ノ理由ヲ以テ其変更ヲ主張シ居ル處若シ之ヲ其儘承認スルニ於テハ今後關係國側ノ意向如何ニ依リテハ差等税全般ニ亘リ再ヒ修正ヲ為スノ必要ヲ生スルカ如キコトアルヘク旁々我方トシテハ可成ハ右石油煙ニ付加税ヲ支那側ハ現行五分税ニ付加税ヲ全然新規ノ税率トシテ公文ニ添付セントスルモノノ如キ處我方ハ華府条約等ノ規定ニ鑑ミ本件ハ付加税実施ノ形式ニ於テ之ヲ承認スルコト適當ナリト認メ居ルヲ以テ成ルヘク差等税率表其儘又ハ差等税率ヲ現行税表ニ當テハメテ算出シタル付加税表ヲ添付セ

ニアラスヤト推セラルル筋モアリ何レニスルモ右ハ我方對支貿易ニ対シ急激ナル負担増加ヲ招來スヘク旁々我方トシテハ到底容認ノ限ニアラス從テ前記石油煙草等ノ除外要求ハ之ヲ容認ストモ抵代税ニ関スル主張ハ今更撤回シ難キノミナラス貴電第八七六号末段藉スニ時日ヲ以テセハ尚交渉ノ余地アリトノ御見込ニテモアリ此際多少ノ時日ヲ要ストモ此点ニ付先方ノ反省ヲ促サルルコト致度シ尚新税率ノ公布期日ニ付テハ往電第三三八号申進ノ次第アルモ万一支那側カ十二月一日ニ之ヲ公布スルコトアリトモ右公布後支那側ヨリ適當ノ実施期日ヲ指示シテ我方ノ承認ヲ求ムル旨ノ公文ヲ送リ該期日迄ニ我方ノ承認手続ヲ取ルニ於テハ理論上ハ差支ナキ義ナリ尤モ我方最後ノ讓歩案トシテハ差等税率ヲモ含メタル新税率ノ半分ト云フカ如キハ素ヨリ容認ノ限ニアラサルモ抵代税ニモ差等ヲ付スルコトトシ例ヘハ一分二厘五毛ヨリ順次遞増シテ二分五厘ニ至ルカ如キ案ニテ七級品及下級品ニ対スル抵代税ヲ減シテ支那側カ一度確約ヲ与ヘタル我方ノ面目ヲ立ツル考案ニ付目下關係者ト協議中ナリ右ハ万不得已場合ノ貴官ノ御参考迄ニ申添フ

北京へ転電セリ南京へ転電アリタシ

(欄外記入) 二分五厘ハ現ニ地方収入トナリ居リ今回ノ差等

税ハ中央収入トナルヘキニ鑑ミ二分五厘ノ廢止

カ右財政關係上殊ニ中央ノ実力ヨク各地方ニ及

ハサル今日有効ニ実現セラルヘキヤ疑多シ

656 昭和3年12月1日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

### 抵代税は近い将来釐金とともに廃止する旨宋

子文の言明について

別電 十二月一日付在上海矢田總領事より田中外務

大臣宛第八九五号

抵代税の釐金と同時廃止等に関する宋の覚書

上 海 12月1日後発

本 省 12月1日後着

\*<sup>(1)</sup>第八九四号(至急、極秘)  
<sup>(六五五文書)</sup>  
貴電第三四五号ニ関シ

一日午前十時宋ト会見今朝漸ク回訓ニ接シタル旨述ヘタル

上

(一)先ツ右貴電ノ第三点抵代税ノ件ヲ持出シ本件商議將ニ妥  
結セントスル此ノ機ニ及ヒ突如前言ヲ翻シタル貴下ノ態  
度ニ対シテハ日本政府モ甚タシク失望シ貴下ノ誠意サヘ  
モ疑ヒ居ル次第ナルヲ以テ今一応考慮セラレタシト宋ノ  
反省ヲ求メタル處宋ハ極ク内密ノ話ナルカ内部反対ノ急  
先鋒ハ實ハ馮玉祥ナリト述ヘ今更何トモ致方無シトテ陳  
弁ニ努メ結局拙電第八七六号ト同様ノ押問答ヲ繰返シ果  
テシ無カリシヲ以テ止ムナク本官ハ貴下ノ言ヲ其ノ儘取  
次クモ日本政府ノ態度ヲ益々硬化セシメ交渉決裂ノ外無  
キヲ以テ此ノ際何トカ貴下トノ間ニ妥協点ヲ見出ス必要  
アリ就テハ本官限ノ私案ナルカ例ヘハ現行二分五厘ノ抵  
代税ヲ幾分引下ケ最低ヲ一分二厘五毛位トシテF級及G  
級品位ニ適用シ漸次遞増最高ヲ二分五厘トスルカ如キ案  
ハ如何ト述ヘタルニ

現行抵代税ハ三分七厘五毛ナリ二分五厘ノ上ニ華府會議  
付加税ヲ課シ居レリト言ヲ挾ミタルヲ以テ透カサス新稅  
率実施ノ上ハ右三分七厘五毛ノ現行稅率ヲ其ノ盡維持ス  
ル次第ナリヤト反問シタルニ然リト答ヘタリ依テ本官ハ  
華府會議付加税徵収ハ日本ノ絶対ニ承認シ居ラサル処ナ

ルハ貴トモ御承知ノ通ニテ此ノ期ニ及シテ斯ル問題ヲ持  
出サレテハ愈問題ヲ紛糾セシムヘシ二分五厘ノ華府會議  
付加税ハ廃止ノ筈ナラスヤト迫リタル處宋ハ暫時默考ノ  
上廃止スヘシ、華府會議付加税ハ一切新税率中ニ包含ス  
トノ解釈ヲ採ルヘシト明言シタルヲ以テ然ラハ新税實施  
ノ後モ抵代税ハ二分五厘トスル意味ト了解シ差支無キヤ  
ト念ヲ押シ再度宋ノ言明ヲ得タル上然ラハ最高ヲ二分五  
厘トシ最低ヲ一分二厘五毛トスル案ノ如キハ国民政府ト  
シテハ何テモ無キニ非スヤ抵代税ノ年収二百五、六十万  
兩位ノ處ナレハ其ノ内ヲ幾分減スル位ニテ差等税率実施  
ノ問題解決セハ大成功ナラスヤ此ノ案ニテ果シテ日本政  
府ヲ納得セシメ得ルヤ否ヤ確信シ得サルカ貴下ノ快諾ヲ  
得ハ自分ハ出来ル丈ヶ幹旋ノ勞ヲ取ルヘシトテ説得ニ努  
メタルカ宋ハ渋面ヲ為シ何故ニ貴下カスル些細ナ問題ヲ  
持出スニヤ自分ニハ到底了解シ難シ抵代税ヲ全廃スヘシ  
トノ主張ニハ日本ノ立場トシテ考フレハ自分ニモ首肯シ  
得ラル節アリ

華府會議付加税ヲ廢止スヘシトノ要求モ尤モナリ然レ共  
既ニ抵代税ヲ廢止セストノ主義定マリタル上尚二分五厘

其ノ上「エドワーズ」ノ話ニテハ見越輸入目下盛ニ行ハ  
レ居ルヲ以テ來年度ハ或ハ著シキ関稅減收起ルヘク五百  
万弗ノ約束モ実ハ心配ナリト愚痴ヲ述ヘタルカ本官ハ相

手トセス然ラベ二年後ハ抵代税ヲ廢止スト明記シ得ルヤト追及シタルニ今直ニ年限ヲ明示シ得サルモ必ス近ク廃止スルコトニ付テハ信頼シテ可ナリトテ別電第八九五号(一)前段ノ如キ案文ヲ示シタルヲ以テ单ニ“earliest possible date”文ニテハ問題ニナラストテ更ニ頑強ニ時期ノ明示ヲ迫リ宋モ執拗ニ不可能ノ一点張ニテ終ニ讓歩セバ

(二)次テ右貴電ノ第二点一分五厘ノ付加税廢止及煙草及石油以外ノ品目ハ北京會議ノ税率ト変ラサル旨明記スル件ニ入リタル処絶対ニ公表セサル旨約束セラルニ於テハ差支無シトテ別電第八九五号ノ二及三ノ如キ案文ヲ示シタリ依テ本官ハ種々字句ノ修正ヲ要求シ殊ニ三ノ如キ書方ハ恰モ華府會議付加税ノ徵収ヲ承認シ居タルカ如キ印象ヲ与フル虞アリト指摘シタルカ宋ハ右様ニ曲解スル要モナク左程神經過敏ニナラストモ可ナラスヤト笑ヒタルニ付然ラハ貴(下)ノ誠意ニ信頼スヘシトテ其ノ儘トシ置キタリ

(三)(5)右貴電ノ第一点ニ付テハ宋ハ新税率ヲ見レハ北京會議ノ付加税ヲ現行税ニ付加シタルモノナル事明瞭ナルヲ以テ

日本側リテハ国内リ対シ何トテモ説明セハ可ナラスヤ自分トシテハ國民ノ差等税率ニ対スル強硬ナル反対ヲ冒シテ実施セムトスル次第ニテ国民政府ノ運命ニモ闇スル問題ナルヲ以テ北京會議ノ差等税率等言フ文字ノ使用ハ絶対ニ之ヲ避ケ表面丈ニテモ糊塗スルノ必要アリ若シスル事ヲ公文ニ明記シ得ルニ於テハ石油、葉煙草以外ハ北京會議ノ税率通りナリトノ文書ヲ秘密ニサレタン等御願ヒスルコトナカルベシ兎モ角此ノ点ハ国民政府ニ取りテハ死活問題ナリ日本ニ取リテハホンノ体裁ノ問題ナリ從テ日本政府ニ於テモ自分等ノ窮境ヲ察シスル形式ノ問題ハ強イテ主張セラレサラムコトヲ希望ストテ頑トンテ聽カス

(四)依テ前記貴電ノ趣旨ニ従ヒ不当課税廢止及石油、煙草以外ハ北京會議ノ税率ヲ変更セサル旨ノ覚書ヲ作成セラレタント促シタルニ夫ニテハ余リ目立チ過クルヲ以テ本日詰合ヒタル点ヲ一括文書ニ認メ貴官ト共ニ「イニシヤル」又ハ署名ヲ付シ置ク事トシタント別電第八九五号ノ如キ案文ヲ作成シ且絶対ニ公表セサル様御願スト再ニ念ヲ押シタル上文書ノ上部ニ特ニ“Confidential and

not for publication”ナル一旬ヲ書キ添ヘタリ

(五)最後ニ本官ハ新税率表ノ内示方催促シタル処実ハ新税率ハ計算ニ誤謬ヲ発見シ且急キ訂正中ナレハ出来上リ次第直ニ写ラ送付スヘシト答ヘタルヲ以テ然ラヘ暫ク公布セ出来サルベシト述ヘタルリ實ニ困リ居ル次第ナリト嘆声ヲ洩シタリ依テ本官ハ少クトモ新税率公布前ニ外交部長ヨリ在支公使宛新税率実施ニ關スル公文ヲ送ルノ要アリト宋ヘ注意ヲ喚起シタル処宋ハ右ハ列國ニモ關係トワ公布前日本丈ニ先ツ新税率表ヲ送付スル訛ニモ行カサル付王韶長ト協議ノ上御返答致ベシト走ヘタリ

北京、南京へ転電セリ

(別 電)

Shanghai, Dec. 1st pm.

Received, Dec. 1st p.m., 1928.

Gaimudaijin, Tokio

No.895 (Urgent gokuhi)

Confidential and not for publication.

The following points have been agreed between

Yada.

Mr. T.V. Soong. Minister of Finance, and Mr. S. Yada, Consul-General for Japan:

(1) With regard to the Transit Duties, the Chinese Government intends to abolish likin at their earliest possible date. When likin is abolished the Chinese Government will at the same time remove the Transit Duties of the Maritime Customs. Until then the 2 1/2% transit duties will be maintained, but the 1 1/4% Washington Surtax Transit Duty is considered to be included in the new tariff.

(2) Besides the Changes on Cigars and Cigarettes, Tobacco - leaf and Petroleum, the Minister of Finance informs Mr. Yada, that no changes is being made on the new tariff from the rate proposed at the Conference held at Peiping.

(3) The Washington Surtax is included in the new tariff.

Dated December 1, 1928.

Yada.

北京、南京へ転電セリ

657 昭和3年12月2日 田中外務大臣より

在上海矢田總領事宛（電報）

## 債務整理充当増額等の債権国代表會議での協議

決定を宋が諒解すれば、債務整理に関する

矢田・宋妥結案を認めて可なる旨訓令

\*第三四八号 本省 12月2日後5時30分発

貴電第八九二号前段ニ関シ

貴電第六六六号ノ会談ニ於テ宋ハ年々五百万丈ケニテ十億ノ内外債ヲ償還シ得ヘシトハ考ヘ居ラサル旨ヲ述ヘタル趣ニテ右ハ当然ノコトナルニ付此ノ点ヲ指摘シテ今一応往電第三四二号ノ一ノ通り修正方御努力アリ度キモ若シ右ニ不拘宋カ修正ヲ肯セサルニ於テハ我方トシテハ貴電第六六六号所載前記宋ノ言ニ信頼シ増額其他一切債権国代表會議ニ於テ協議決定セムトシ居ル次第ナル旨篤ト宋子文ニ諒解セシメ貴電第八七一号支那訳文ヲ認メラレ差支ナシ又「債権國代表」ノ「國」ノ字削除ノ点及「北京」ヲ「北平」ト改

ムル点ニ付テハ宋ノ申出通リトシ異存ナキニ付右含ミニテ然ルヘク措置セラレ度シ

658 昭和3年12月6日 田中外務大臣より

在上海矢田總領事宛（電報）

## 抵代税廃止および北京關稅會議での差等税率

採用明記に関する訓令

本省 12月6日発

\*第三五一号 貴電第八九四号ニ関シ

一、支那側最近ノ態度及各般ノ消息ニ鑑ルニ先方ハ差等税実施ニ関スル各国ノ意向モ大体確メ得タルヲ以テ近ク新税率ヲ国定税率ノ形式ニ於テ一方的ニ公布セントスル魂胆ヲ有スルモノノ如クニモ思考セラルル處我方トシテハ從来屢申進ノ通り正式ニ文書交換ニヨリ本件ノ解決ヲ計ルコトヲ最重要視シ居ル次第ナルニ付貴官ハ此際至急支那側ヲシテ來翰案（支那文）ヲ提示セシメラレ之ヲ基礎トシテ商議セラルルコト致度シ尤モ貴電第八七六号前段ニ依レハ外交部長ヨリ在支公使宛公文案ニ付協議ヲ進

メラレタル趣ノ處右案文トハ支那側提示ノモノナルヤ若シ然ラハ折返シ全文電報アリ度シ

二、貴電(一)ニ付抵代税ノ廃止ハ單ニ差当リ差等税実施ニ伴フ急激ナル負担増加ヲ避クル為必要ナルノミナラス将来關稅條約交渉ニ際シ自主權承認ノ一条件タル輸出入貨物ニ対スル内地通過税廃止ノ主張貫徹上ヨリ謂フモ是非必要ナルコト御承知ノ通リナリ（一般通商條約改訂後ハ外國輸入品ニ対シテモ消費税等ノ内地税賦課ハ之ヲ認ムルコトトナルヘキニ付少クトモ通過税廃止ハ自主權承認上絶対ニ必要ナリト認メラル此点貴官御含迄）從テ我方トシテハ右主張貫徹ノ為難キヲ忍シテ石油煙草葉煙草ノ税率変更ヲモ許容セントスル次第ナル處貴電第八九六号(1)支那側提案ハ釐金廃止ト同時ニ之ヲ廃止セントスルモノニシテ而モ内政上財政上等ノ都合ヲ云々シテ釐金廃止ノ時期ヲ明示セサル支那側ノ態度ニ鑑ミ結局之ヲ其儘承認セハ釐金廃止ハ勿論抵代税廃止モ有耶無耶ニ葬リ去ラルルコト明カニシテ旁々如此提案ハ我方ノ承認スル能ハサル所ナリ尤モ貴電御來示ノ次第モアリ万止ムヲ得スムハ其税率ハ二分五厘以下タルヘキコト及差等税実施後一年

三、貴電(二)及四ニ付石油煙草葉煙草ノ税率変更ニ関シ既ニ承認ヲ与ヘラレタルモノト思考セラルル處貴電第八九五号(2)中所謂北京會議ニ於テ提議セラレタル税率トハ果シテ何物ナルカ明ナラス或ハ當時ノ支那側提案ヲ指スモノトモ解セラルル虞アルニ付此点ハ矢張北京會議ニ於テ大正十五年三月二十五日付覚書ヲ以テ日英米専門委員カ支那委員ニ手交シタル七種差等付加税率案ナルコトヲ明記

セラルル様致度シ尚貴電第八九五号(3)ニ付テモ貴見ノ通り我方カ從来付加税徵取ヲ承認シ居リタルカ如ク誤解セラル虞アルニ付從来支那側ニ於テ徵收シ來リタル二分五厘及五分付加税ハ之ヲ廢止スヘキ旨ヲ明カニセラレタシ

四、貴電(3)ニ付我方カ本件ヲ付加税実施ノ形式ニ於テ解決セントスルハ華府関税条約ノ規定ニ準拠シ簡単ニ公文交換ノ形式ニ依リテ解決セントスル趣旨ニ出ツル次第ナルニ付出来得ル限り本件交換公文中ニ右ノ趣旨ヲ明ニスル様御尽力アリタシ尤モ右ニテ妥結困難ナラハ貴電八九五号秘密文書(2)ニ於テ支那側來翰ニ添付セル税率表ハ現行五分税ニ本件七種差等付加税ヲ付加シタルモノナルコトヲ明記セシムルコトトシテ來翰ニ新税率ヲ添付セントスル支那側ノ申出ヲ容レラレ差支無シ

五、貴電(5)ニ付税率自体ノ何物ナルカヲ確知スルコトハ我方ノ最モ重視スル處ナリ而ルニ支那側ハ言ヲ左右ニシテ其提示ヲ肯セサルニ鑑ミ我方トシテハ其ノ實物ヲ見サル限り覚書ノミニ信頼シテ税率実施条件等ノ商議ヲ進ムルモ無益ノコトナラスヤト存シ居ルニ付此際最モ嚴重ニ其往電第九一〇号ニ閲シ

六日午後四時本官不在中外交部駐滬弁事處劉秘書清水ヲ來訪シ王部長ヨリ芳沢公使宛内容別電第九一二号ノ通ノ照会ニ新税率表ヲ添付シタルモノヲ持參シ転達方申出アリ(右同文照会ハ同日各公使宛送付ノ由) 清水ハ本官ニ相談ノ上北京、南京へ転電セリ

(別電)

第九一二号(至急)  
(訳文)

本省 12月6日後着 上海 12月6日後発

文トノ本件交渉未タ成立セサルニ右ノ如キ照会ヲ送付越セルハ不都合ナレハ受領ノ限りニアラスト認メタルヲ以テ右ノ次第清水ヲシテ劉ニ通知セシメ右照会丈ヶハ返却ノコトニ打合ハサシメタルカ其ノ際劉ハ右ノ旨直ニ南京政府ニ電報スヘシト述ヘタル趣ナリ不取敢

北京、南京へ転電セリ

十六年十二月五日  
外交部長 王正廷

660 昭和3年12月7日 在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

新税率実施に關する王外交部長の照会文送付  
に關し宋子文へ抗議について

本省 12月7日前着 上海 12月7日前発

第九一四号(至急、極秘)  
往電第九一三号ニ閲シ

查スルニ中国銀行輸入税則ハ均一税率ノ制ヲ引用シ既ニ八十余年ヲ経タルカ今ヤ時勢推移シ此ノ種税率ハ久シク既ニ用ニ適セス且各國稅制採用ノ原則ト相背馳ス国民政府ハ時勢ニ順応シ稅制ヲ整理セムカ為特ニ各主管機關ニ命シ輸入税率表ヲ制定シ既ニ命令公布シ民国十八年二月一日ヲ期シ实行スルコトトセリ右様御承知相成度此段照会ス

ノ提示ヲ督促セラレ度シ  
北京ニ転電セリ、南京ニ転電アリ度シ  
~~~~~  
659 昭和3年12月6日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)
外交部、新税率実施に關する芳沢公使宛照会
文を手交について

別電 十二月六日付在上海矢田總領事より田中外務大臣宛第九一二号
新税率実施に關する王外交部長照会文(仮訳)
本省 12月6日後着 上海 12月6日後発

第九一一号(至急)

往電第九一〇号ニ閲シ
六日午後四時本官不在中外交部駐滬弁事處劉秘書清水ヲ來訪シ王部長ヨリ芳沢公使宛内容別電第九一二号ノ通ノ照会ニ新税率表ヲ添付シタルモノヲ持參シ転達方申出アリ(右同文照会ハ同日各公使宛送付ノ由) 清水ハ本官ニ相談ノ上

ノ不安危惧ノ念ヲ抱キツツアル日本政府ヲシテ其ノ対支方

針ヲ一変セシムル虞アリト述ヘタルニ宋ハ自分ハ其ノ文章等ニ付与リ知ラス其ノ問題ハ何トカ片付ケ日支間ノ交渉ハ其ノ儘進行シタキモノナリト語レリ

北京、南京へ電気セツ

大明一朝

661
昭和3年12月7日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

北京關稅會議での差等税率案の採用明譯方および抵代税廃止問題での妥協を宋子文へ要請について

貴電第(六五八文書)
九一六号(至急、極秘)
七日午前十一時宋子文ト会見ノ上

不都合ヲ詰リタル処宋ハ実ハ如何ナル書翰ヲ送リシモノ

ルカ如キコトハ敵ニ憤マサルヘカラスト述ヘタルニ北京
會議ノ差等税率ヲ採用スル旨記載シ得サルコトハ既ニ
數々説明セル処ナリト答ヘ応スル色無ク且從來ノ討議ニ
モ顧ミ此ノ点ヲ押問答スルモノ結局効果ナシト認メタルヲ
以テ然ラハ先日貴下申出ノ通（往電第八六九号）単ニ別
紙添付ノ新税率表ヲ採用シタキ旨記載シ別紙トシテ新税
率表ヲ添付スルト共ニ本官ト貴官トノ間ノ秘密文書ニ於
テ右新税率表ハ現ニ五分税ニ北京會議ノ日、英、米三国
共同案タル七種差等税率ヲ付加シタルモノナルコトヲ説
明スルコトトセラレタク右承認スルニ於テハ本官ニ於テ
日本政府ノ同意ヲ取付クル様極力斡旋スヘシト述ヘタル
ニ末ハ笑ヒナカラ国民政府モ近頃ハ日本政府ト同業字句

ノ末ニ至ル迄八釜敷議論シ其ノ承認ヲ得ルコト隨分面倒ナルカ出来ル丈貴意ニ副フ様致スヘク案文ハ次回会見ノ際用意シ来ルヘント素直ニ挨拶セリ

(四)更ニ本官ハ本電(→)在支公使宛公文ノ書式ニ閔スル談合ヲ
少クトモ釐金廢止ノ時期ヲ明示スルト共ニ抵代税ヲ二分
五厘ヨリ幾分引下クルニ於テハ本官ニ於テ何トカ斡旋ス
ル様取計フヘシト述ヘタルニ抵代税ノ税率ヲ引下クルコ
トハ内部ノ空氣ヨリ見テ絶対ニ望ナク釐金廢止ノ時期ヲ
明示スルコトモ九分迄望ナシト思ハルモ貴官ノ誠意ア
ル態度ニ応スル為自分ニ於テ今一度極力政府説得方試ム
ヘシト折レテ出テタリ依テ更ニ右文書第一号末尾^{“but”}
以下削除方提議シタルニ右文書ハ既ニ公議ノ承認ヲ得タ
ルモノニテ变更極メテ困難ナルカ何トカ貴意ニ副フ様致
スヘシト答ヘタリ

ナリヤ知ラサルカ王部長ハ右公文案ニ付自分ト貴下トノ間ニ交渉行ハレツツアル事ハ承知ノ筈ナレハ單ニ参考ノ為税率表ノミヲ送リタルモノト思ヒ居タル次第ナリト述ヘタルヲ以テ該書翰ノ写ヲ示シタル処各同文ニテ各国公使ニ発送シタル以上日本丈ニ別個ノ公文ヲ送ル事ハ極メテ困難ナルヘシト当惑ノ色ヲ示シタルカ艶テ王部長ハ目下南京ニ在リ本日ハ英國公使着寧ノ筈ニテ手放シ難キ事情アルヘキカ直ニ来滬スル様電報スヘシトテ同席ノ張閔税署長ニ打電方命令シタル上兎モ角王部長ノ來滬ヲ待チ相談致スヘキモ已ムナクハ日本ニ対シテ丈ハ税率問題ニ関スル交渉ヲ自分ト貴下トノ間ニ行ヒ来レル事ヲ理由トシ自分ヨリ北京代理公使ニ宛テ新税率実施ニ関スル公文ヲ送ル事トシテ本件ヲ解決スルモ一方法ナリト思考セラルル処之モ王部長ノ「フェイス」ノ問題モアリ事頗ル「デリケート」ナリト述ヘタルヲ以テ本官ハ然ラハ右公文ノ書式ヲ協議スルコト致シタキカ右書式ニ付テハ本件交渉ノ当初ヨリ繰返シ説明シタル通

先ツ北京會議ノ差等税率ヲ其ノ儘付加税トシテ採用シタ旨記載シ宣伝釜敷贅言ヲ羅列シテ余計ナ議論ヲ惹起ス

(三)右文書第二号末段「北京會議ニ於テ提案セラレタル」ノ
一句ヲ「北平會議ニ於テ大正十五年三月二十五日付覚書
ヲ以テ日英米専門委員カ支那委員ニ手交シタル七種差等
付加税率案」ト訂正方提案シタルニ既ニ新税率案ヲ送付
シタル以上左様面倒ナ事ヲ云ハスモ可ナラスヤト不平顔
ナリシカ枢密院ニ対スル説明上必要ナリトテ押付ケタル
結果之亦何トカ致スヘシト折レテ出テタリ

引用シ右秘密文書第二号末尾ニ「在支公使宛送付ノ新税率ハ即チ煙草及石油ヲ除ク外北京會議ノ三國協同案タル七種差等税率ヲ現行五分税ニ付加シタルモノナル事明カナリ」ノ一句ヲ付記スル様提案シタル処夫レハ「北平會議ニ於テ提案セラレタル」ノ一句ヲ本官申出ノ通修正セハ自ラ明瞭ニテ其ノ必要無カルヘシトテ受付ケサルニ依リ然ラハ右一句ノ修正丈ハ我方要求通リセラレタント述へ置キタリ

(五) 尚本官ハ新税率説明ハ既ニ貴下ヨリ入手シタルカ在支公使宛公文添付ノモノハ昨六日王部長ヨリ各國公使宛送付ノモノト同一ナリト思考セラルル処果シテ然ラハ右ヲモ速ニ入手ノ上予メ政府ニ送付シ置ク必要アルニ付速ニ在支公使公文添付ノ税率表ヲ決定ノ上写一部送付アリタキ旨宋ノ注意ヲ喚起シ置キタリ

(六) ⁽⁴⁾ 本官ハ更ニ進ンテ債務整理ニ関スル案文ノ問題ニ入り貴電第三四八号御訓令ノ趣旨ニ従ヒ「此数得以增加之」ニ付テハ通増ノ意義不充分ナルヲ以テ訂正アリタキ旨主張シタルカ宋ハ其ノ点ハ既ニ英文ニテ決定シ居リ修正シ難キ事ハ既ニ反覆説明シタル通ナリトテ受付クル色無カリ

転電先、北京、南京

662 昭和3年12月7日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

王外交部長の公文送付問題は宋の公文送付で
解決し、抵代税問題は期限切迫につき宋の提

案で妥協するのが得策なる旨意見具申
第九一七号(至急、極秘)
往電第九一六号ニ閲シ

一、新税率実施ニ關スル外交部長ノ各國公使宛同文通告ハ果シテ宋説明ノ如ク宋ト王トノ間ニ意思ノ疎通ヲ欠キタル為起レル手違ナリヤ否ヤノ問題ハ別トシ既ニ外交部長ヨリ同文通告ヲ發送シタル以上之ヲ撤回セシメ更ニ外交部長ヨリ日本丈ケニ全然別個ノ公文ヲ送付セシムルコトハ頗ル困難ナリト認メラルル処幸ヒ宋申出ノ次第モアルニ依リ改メテ財政部長ヨリ堀代理公使宛公文ヲ以テ新税率ノ提議ヲ為サシムルコトトシ本件ヲ解決スルコト最善ノ策ナリト思考セラルルニ付右ニ對スル御意向至急御回訓相成度シ宋トノ次回会見ハ八日又ハ九日ノ予定ナリ

二、宋ニ於テ抵代税廃止ノ前言ヲ翻シタルハ言語道断ノ次第ナルモ事既ニ茲ニ至リ二分五厘ノ税率ヲ引下ケシムルコトモ殆ト望無ク且條約改訂ニ當リ内地通過税廃止ノ主張貫徹ノ根拠トセムカ為ニハ寧ロ抵代税廃止ノ時期ヲ明

示セシムル方一層有効ナリト思考セラルルヲ以テ
⁽²⁾ 次回宋トノ会見ニ於テハ廃止ノ時機明示ノ点ニ力ヲ注キ我方主張ノ貫徹ニ努力致シタシ尤モ税率モ既ニ公布セラレタル今日各國側ニ於テ抗議スル模様ナキニ於テハ支那側ノ態度俄ニ硬化シ決裂ヲモ辞セサルニ至ルコトアルヘク不幸決裂ノ場合列国トノ協調ナキニ於テハ結局ハ我方モ之ニ引摺ラルル事トナルハ想像ニ難カラス他方決裂ヲ免レタリトスルモ各國側ニ異議ナキ限り我方ノ正式承認ノ有無ニ拘ラス二月一日ヨリ断然新税率ヲ実施スヘキハ疑無カルヘク旁此ノ上商議ヲ遷延スルニ於テハ枢府御批准ノ手続等ニ手間取リ二月一日迄ニハ遂ニ間ニ合ハサルニ至ル惧ナキニ非サルヲ以テ愈決裂ノ外ナシト認メラルル場合若ハ交渉頗る遷延スヘシト認メラルル場合ニハ已ムヲ得ス宋申出ノ案ヲ承認スルノ腹ヲ定メ置クノ要アリト思考セラル

三、七日宋ト会見ノ節本官ハ債務整理ニ関スル案文ヲ基礎トシ在支公使宛公文案案ヲ作成シ度キ旨提議シタル処支那側ニテハ既ニ声明スルコトニ決定シ居レリトテ讓歩ノ色無カリシヲ以テ兎モ角右案文ニ前文及公文並年月日ヲモ

記入ノ上次回ノ会見ニ於テ提示セラレタキ旨述ヘ置キタ

リ就テハ右ニテ差支無キヤ至急御回訓アリタシ

四、往電第八九五号秘密文書ハ英文ヲ「テキスト」トスル
答ナル處貴電第三五一号(三)中段「大正十五年三月二十五
日付覚書云々」中ノ年号ニ付テハ支那側ハ「一九二六
年」ト西暦採用方主張スヘシト察セラルル處右ニテ差支
無キヤ若シ我方カ「大正十五年」ヲ主張スル場合ニハ先
方ハ当然支那側「テキスト」ニハ支那暦記入方主張スヘ
シト存セラル

尚右秘密協定ニハ本官署名シ差支無キヤ何分ノ儀至急御回
訓相成度シ

北京、南京へ転電ス

663 昭和3年12月8日 田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛(電報)

王外交部長の公文送付問題は宋より堀代理公
使宛に公文を送付させることで解決して可な
る旨訓令

本省 12月8日後発

リトノ諒解ヲ明カニシタル上之ヲ受理セラルルコトトス
ルモ差支ナシト思考ス

二、貴電三ニ付テハ別ニ電報ス

三、貴電四ニ付秘密文書中「大正十五年」ハ「一九二六
年」トセラレ差支ナシ尚署名ハ堀代理ヲシテ為サシムル
コトト致度ニ付來翰案並秘密文書案妥結ノ上ハ宋子文ヨ

リ堀宛公文來翰並宋ノ署名セル秘密文書二通ヲ送付セシ
ムルコトト致度シ

北京へ転電セリ、南京へ転電アリ度シ

664 昭和3年12月8日 田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛(電報)

債務整理に関する覚書は独立のものとしても
可なる旨訓令

本省 12月8日後発

* 第三五九号
往電第六五七号ノ二ニ閑シ
債務整理ニ就テモ右往電税率ニ関スル公文中ニ併記セシム
ルコトシ度キモ交渉上必要ノ場合ニハ往電第二四八号ノ

* 第三五七号

貴電第九一七号ニ閑シ

一、貴電一二付貴電第九一二号支那側來翰ハ字句曖昧ニシ
テ真意捕捉シ難キ所アルモ少クトモ一方的ニ閑税自主ヲ
強行セントスル意思ヲ表示セルモノト見ル外ナク如此ハ
関係国全部ニ対シ結局條約廢棄ヲ敢行セントスル暴挙ニ
シテ之ヲ其儘認セハ今後ノ條約改訂交渉ニモ影響スル
処大ナリト認メラル所貴見ノ通外交部長ヨリ日本丈ニ
全然別個ノ公文ヲ更ニ発送セシムルコトモ困難ナルヘキ
ニ付貴電第九一七号ノ一ノ通宋子文ヨリ堀代理公使宛
文ヲ送ラシムルコトトセラレ差支ナシ尤モ此場合ニハ(一)
宋ノ権限ヲ明ニスル為国民政府ヲ代表スル意味ノ権限ヲ
付与セラレタル旨ヲ明カニセル書付ヲ提示セシメラレタ
ル上来翰中ニduly authorized by(又ハon behalf of)
the National Government of China等ノ字句ヲ挿入
セシムルカ又ハ(二)財政部長ヨリ日本代理公使宛公文ヲ外
交部カ移牒スルノ形式ヲ執ラシムルコト致度シ尚又先
方ニテ強テ希望スルニ於テハ貴電第九一二号王ノ照会文
ハ法律的効果ヲ有セサル単ナル新税実施ノ予告的通告ナ

665 昭和3年12月8日 在中国堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛(電報)

抵代税廃止が困難である以上釐金付加率現状
維持を確認させることが重要である旨意見具

申

本省 12月8日後発

四ノ通本件公文文ケハ別個ノモノトンシ差支ナキニ付右御含
ミノ上然ルヘク交渉セラレ度シ

北京へ転電セリ、南京へ転電アレ

第一六七三号

本省 12月8日後着

北京 12月8日後発

差等税率実施ノ条件トシテ抵代税ヲ包含セシムルノ解釈ヲ
執ル事ハ宋子文ノ嘱ニ依リ差当リ断念スルノ外ナク從テ政
府ハ二箇年ノ期限ヲ付シテ釐金ヲ撤廃セシメ之ト同時ニ抵
代税廃止ノ事ニ折合ハムトセラルハ蓋シ已ムヲ得サル妥
協ト考ヘラルルカ右二箇年ノ間差等税率実施ニ依ル輸入税
ノ引上率ニ比例シテ釐金ノ付加率ヲ引上クル様ノ事アリテ
ハ我方カ抵代税ヲ現正税ノ半分以下トシテ認メムトスル趣

旨ニモ背馳スヘシ此ノ点矢田宋トノ商議ニ於テモ触レサル
様ナルカ少クトモ釐金賦課率ヲ現状ノ儘維持セシムルコト
必要ナルヤニ思考セラル

現今天津ヲ中心トスル内地向ノ輸出入ハ殆ト例外ナク三聯
單ニ依ラス釐金ヲ払ヒ居レリ其ノ理由ハ地方官憲ニ於テ三
聯單ニ何等ノ權威ヲ認メサルハ未タシモ却テ三聯單付ノ商
品ニ対シテハ苛酷^(マ)?ヲ加ヘタル検査其ノ他ヲ為シ居レル次
第ナレハ商人ハ之ヲ欲セサル現状ナリ

恐ラク右現象ハ南北共通ナリト思ハルカ故ニ日本カ從來
試ミ居レル抵代税廃止ノ努力ハ英國公使館内部ノ専門家側
ニハ實益ヲ疑ヘルモノモアリタル位ナリ(「ランブソン」
ノ態度カ(脱^(マ))シカラサルハ既ニ電報シタル通ナリ)故
ニ釐金ノ即時廃止カ實行不可能ナリトセハ釐金付加率ノ現
状維持ハ重要ナリト云フヘシ

上海へ転電セリ

666 昭和3年12月8日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

新税率実施に関する交換公文案協議について

別電一 十二月八日付在上海矢田總領事より田中外

務大臣宛第九二五号

新税率実施に関する宋子文の照会文案

十二月八日付在上海矢田總領事より田中外

務大臣宛第九二七号

新税率実施に関する照会文に対する我が方
回答文案

十二月八日付在上海矢田總領事より田中外

務大臣宛第九二八号

釐金抵代税廃止時期および石油煙草以外の
品目税率を三国提案差等税率とする旨の協
定修正文

上 海 12月8日後着 本 省 12月8日後着

第九二三号
⁽¹⁾
往電第九一六号ニ関シ
_(六六二文書)

八日午前十一時宋子文ノ求メニ依リ会見セル處

(一)宋ヨリ先ツロヲ開キ王部長今朝来滬セルヲ以テ早速新税
率実施ニ関スル同部長ノ照会文ニ付貴官ト談合シタル次

第ヲ語レル処同部長ハ各國同文ノ公文ナレハ今更改メテ
日本丈ヘ別ノ公文ヲ送ル訳ニハ行カスト渋リ居リシヲ以
テ然ラハ改メテ自分ヨリ公文ヲ送ルコトトシテハ如何ト
諮詢リタルニ最初ハ体面論等持出シ反対シタルカ色々宥メ
テ漸ク納得セシメタルニ付之ニテ本件ノ解決ヲ計ル様致
度シト述ヘ就テハ御約束ノ照会文ヲ用意シ来レリトテ
那文ノ案文ヲ示シタルニ依リ一読シタル処右ハ單ニ新税
率ハ十二月：日公布シ二月一日ヨリ実施シ一年間効力ヲ
有スル旨通告スル形式ナリシヲ以テ本官ハ新税率ノ実施
ハ條約ノ一部改訂トナル次第ナルヲ以テ日本政府ノ承認
ヲ得ル形式トセサルヘカラストテ訂正ヲ要求シタルニ宋
ハ実ハ我々ハ日本政府ノ同意ヲ得テ差等税率ヲ実施スル
次第ナレト国内ニハ關稅自主ヲ実施スルカ如ク裝ヒ民衆
ヲ誤魔化シ居ル手前モアリ政府部内ノ同意ヲ得ル望無シ
トテ強硬ニ反対シタルカ本官ヨリ何トカシテ妥協点ヲ見
出ササルヘカラストテ種々字句ノ修正ヲ提議シ懇談ヲ遂
ケタル結果漸ク別電第九二五号ノ案文ニ落著キタリ然ル
ニ宋ハ右案ニテハ如何ニシテモ日本ノ承認ヲ求ムル形式
ナル処日本側ノ回答ニテ明瞭ニ承認ヲ与フルカ如キ字句

ヲ使用セラレテハ折角ノ苦心モ全然打壊シトナルニ依リ
此ノ際日本ノ回答案ヲモ決定シ置キ来往翰ヲ不可分ノ一
体トシ置キタント申出テタルニ依リ我方ニハ公文ノ回答
ニハ自ラ定マレル形式アリ

特ニ協定シ置クノ要ナカルヘシト宥メタルカ達テ右様協
定願タント懇請シタルヲ以テ本官ニ於テ我方ニハ何等異
議ナキ旨認メタル私案ヲ作製シタルニ「何等異議ナシ」
等如何ニモ同意ヲ与フルカ如キ字句ノ使用ハ絶対ニ不可
ナリトテ頑トシテ聽カス先方ヨリ種々修正ヲ提議シ来レ
ル結果別電第九二六号ノ如ク支那文ヲ協定セリ尤モ右回
答ハ日本文ニテ発送スルモノナルヲ以テ日本文回答案ハ
別電第九二七号ノ通トスルコトニ諒解ヲ遂ケ置キタリ右
決定ノ後宋ハ往復文ハ王部長ノ照会發送ヲ差止メタル程
ナレハ只今決定ノ案文ニテハ王部長ニ合ハス顏モナク果
シテ政府ノ承認ヲ得ルヤ否ヤサヘ疑ヒ居ル次第ナルカ既
ニ案文妥結シタル以上自分ハ本案文採用ニ付テハ責任ヲ
以テ当ルヘキモ是以上ノ讓歩ニハ絶対ニ応シ難キ旨明ニ
日本政府ニ伝達セラレタント述ヘタリ

尚本文添付ノ新税率表ハ後刻御届ケスヘシト約シタリ

八 関輸入税税則
八 関輸入税税則

右接到ノ上ハ直ニ郵送スヘシ

(六五六文書別電) (一) 次テ往電第八九五号協定案ニ入り

(イ) 第一号前段 at the earliest possible date ヲ一年以内ト修正方提議シタルニ宋ハ期限ノ明示ハ到底不可能ナリト頑強ニ反対シタルヲ以テ此ノ点ハ度々申ス通り

日本政府ノ願ヲ立ツル為絶対ニ必要ナリ单ニ国民政府カ一年以内ニ廃止スル意向ヲ有スル旨ヲ表明スル丈ニテ何等差支ナキニアラスヤト百方言ヲ尽シテ説得ニ力メタル処何トシテモ一年内ニ廃止スル見込立タストロ走リタルヲ以テ透カサス二年内ナラ見込アリヤト突込ミタルニ明答ハ致シ難シト答ヘタルヲ以テ

然ラハ一応二年内ト定メ置キ之ニテ承知スル様自分ハ極力日本政府ヲ説得スヘキニ付貴下ハ南京政府ヲ動カス様セラレタシトテ宋ニ弁解ノ余地ヲ与ヘスロ説キ立テタル結果宋モ已ム無ク納得シ本日早速王部長ニ相談スヘキニ付ハレ迄ハ日本政府ニ報告セラレサル様願ヒ度シト答ヘタリ

(ロ) 第一号末段“but”以下削除ノ件ハ支那側ノ解釈ヲ記載スル文ケニテ事實上何等影響無キ次第ナルヲ以テ差

支無キニ非スヤトテ反対シタルカ事實上影響無キモノナラハ誤解ヲ招クカ如キ文句ヲ存置スル必要無キニ非スヤトテ削除ヲ主張シタル結果宋モ終ニ折レテ同意シタリ

(ハ) 依テ第一号ニハ在支公使宛公文添付ノ新税率ハ現行税率ニ北京會議ノ日英米三国案タル七種差等税率ヲ付加シタルモノナル旨明記セムコトヲ要求シタル處宋ハ明白ニ書カストモ第二号末段ヲ修正セハ可ナラスヤトテ別電第九二八号ノ如ク修正ニ同意セリ

(二) 第三号ヲ一分五厘及五分付加税ハ之ヲ廃止スト明記スル点ニ付テハ宋ハ華府會議付加税ト云ヘハ二分五厘及五分付加税ヲ包含スルコト明瞭ナレハ特ニ列举ノ要無カルヘク夫レヲ廃止スト云ヒ度クハ夫レニテモ宜シカラムトテ讓歩ノ上之ニテ日本ノ要求ハ全部通シタリマサカ之以上ノ修正ハ要求シ來ラサルヘシトテ笑ヒタリ右修正ヲ施シタル協定文別電第九二八号ノ通ナリ尚又宋ハ十日夜当地発帰寧ノ筈ニ付右ニ対スル御回訓ハ遲クトセ十日朝迄ニ到着スル様御取計アリタシ

本電ハ別電ト共ニ北京、南京ニ転電セリ

(別電一)

上海 12月8日後発
本省 12月8日後着

日ヨリ施行セラルベキ旨御申越ノ趣了承致候此段照復得貴意候 敬具
昭和三年 月 日

第九二五号(至急、極秘)
(訳文)

以書翰啓上致候陳者茲ニ中華民国海關輸入税々則ヲ送付致

候右税則ハ中華民国十八年二月一日ヲ期シ施行致スヘク候

条右様御了承相成度此段照会得貴意候 敬具

中華民国十七年 月 日

中華民国国民政府財政部長 宋子文

中華民国駐劄大日本帝国臨時代理公使 堀 義貴殿

(別電II)

上海 12月8日後発
本省 12月8日後着

The following points have been agreed between Mr. T.V. Soong, Minister of Finance, and Mr. Yada, Consul-General for Japan:-

(1) With regard to the Transit Duties, the Chinese Government intends to abolish likin at an earliest possible date (or within 2 years from the time New Tariff comes in force). When likin is abolished the

Chinese Government will at the same time remove the Transit Duties of the Maritime Customs. Until then the two and a half per cent Transit Duties will be maintained.

(2) Besides the changes on cigars and cigarettes, tobaccoleaf and petroleum, the Minister of Finance

informs Mr. Yada that no changes is being made on the new tariff from the rate of the Tariff schedule submitted to the Chinese delegate by the Experts

Commission of Japan, Great Britain and the United States of America of the Special Conference on the import tariff held at Peiping in a memorandum dated March 25, 1926.

(3) The collection of the Washington surtax shall be discontinued when the new tariff comes in force.

Yada.

北京、電報へ轉電セニ

良策なる旨意既承申
釐金廢止、三國共回案差等税率採用等に關する秘密協定文には本官が署名者となることが

上海 12月9日後發
本省 12月9日後發

第九三三号（件急、極秘）

貴電第(大正)九(文書)五七号ノ(一)閲シ

往電第九(文書)五七号ノ冒頭ニ於テ本官及宋部長間ノ取極ナルコトヲ明記シアリ内容ニモ財政部長ヨリ本官ニ対シ陳述セル旨ノ文句アリ此ノ文書ニ第三者ナル堀代理公使カ署名スルハ形式トシテモ極メテ異例ナルノミナラス宋ハ御世辞ヤアルヘキカ常ニ貴官トノ間ナラバノソスル内容ノ文書作成ニ同意シタル次第ナリト申シ居リ現ニ八日ノ会見ニ於テモ右文書校合ノ際宋ハ貴官以外ノモノトナラハ自分モ果シテ斯ル文書ニ署名セラヤ否ヤハ疑ハシト明言シタリ(此ノ種宋ノ言動ヲ本官ヨリ報告スル時ハ動モスレハ誤解ヲ招キ易キノミナラス本官ノ趣旨ニモ反スル次第ナルヲ以

テ態ト差控(居タリ)斯ル状況ノ下ニ今回突如御来訓ノ問題ヲ持出セハ宋ハ必スヤ奇異ノ感ヲ懷クベク幸ヒ宋ニ於テ当方ノ説明ヲ納得シタリトスルモヤラ機会ニ或ハ協定内容ノ一部変更方申出テスヌモ限ラス延テ事態ヲ紛糾遷延セシムルノ虞ナシトセス

他方本官個人ノ立場ハ問題トスルニ足ラサレト從來本官カ王正廷及宋子文トノ外交交渉ノ衝ニ当リタルコトニ付テハ支那側新聞等ハ全權ニモ非ス外交官ニモ非サル一總領事ニ

リ差出カマシク申進スル迄モ無ク例ベハ拙電第七六八号稟申ノ通此ノ際本官ヲ公使館參事官兼任トセラルルモ一方法ナルベク右至急実現ヲ困難トスル事情アルニ於テハ国民政府南京ニ移リ帝国公使館ハ依然北京ニ在ルカ如キ變態ナル現状並ニ国民政府未承認ノ事態ニ顧ミ便宜上特ニ本官ヲシテ本件交渉ノ衝ニ当ラシメ及協定ニ署名セシムル事トン右上奏ノ上御裁可ヲ得ルモ一方法ナルベク

幸ヒ右御裁可ヲ得タル場合ニハ右ノ次第宋ニ通シ依テ貴電

第三五七号ノ(一)ヲ以テ御訓令ノ通宋ニモ国民政府ヲ代

表スル意味ノ書付ヲ提示セシムル事ヲ得ベク交渉上頗ル好

都合ナリト存セラル尤モ秘密文書ノミニ本官署名シ新税率

実施ニ関スル公文文ヶハ在支公使宛トスルコト形式上面白

カラストノ事ナラハ右公文ハ財政部長ヨリ本官ノ手ヲ通シ

若ハ直接閣下ニ宛ツルノ方法モ有之ベク將又右ノ如キ形式ヲ踏マストモ單ニ便宜上本官ヲシテ交渉セシメ交渉ノ要領

ヲ為念記録ニ留メ署名(若ハ「イニシヤル」)シ置キタリ

位ノ御説明ニテ枢府側ノ了解ヲ得ラル方法モ有之ベク右

手続上ノ問題ニ付テハ本官ヨリ彼是差出口スル筋合ニテハ

無之モ當方ノ事情ヲモ充分御賢察ノ上御詮議相仰度ク茲ニ

然ルニ若シ右貴電ノ如キ御決定カ单ニ枢密院關係ヨリノ御懸念ナルニ於テハ他ニ何等カ適當ノ解決策有之ベク本官ヨ

情ヲ具シ稟請ニ及フ次第ナリ

(転電先脱)

668 昭和3年12月10日 在上海矢田總領事宛(電報)

交換公文については宋子文が国民政府を代表する旨を表記させることおよび秘密協定文は貴官が署名して可なる旨につき訓令

本省 12月10日発

*第三六二号 貴電第九二三号ニ閑シ

(一)支那ヨリノ來翰案ハ貴電第九二四号ノ通ニテ差支ナキモ財政部長ノ公文ニヨリ此種問題ヲ解決シタル前例モナク枢密院ニ説明ノ都合モ有之ニヨリ往電第三五七号ノ趣旨ニ依リ先方來翰中ニ於テ宋カ国民政府ヲ代表スルコトヲ表示スルニ足ル適當ノ字句ヲ使用セシムルト共ニ別ニ宋カ国民政府ヨリ本件権限ヲ委任セラレ居ル旨ヲ明示スル書付ヲ貴官ニ提示セシムル様致度右書付ハ貴官ニ於テ查閱済ノ上ハ其ノ写ノミヲ我方ニ留保シ原本ハ先方ニ於

テ保存スル諒解ノ下ニ之ヲ返却スルコトシ差支ナシ尚未輸案前段ニ「前送致」トアルハ「茲送致」ノ電文ノ誤カト思考セラル処「前送致」ハ「曩ニ送付セシ」ト解セラル虞アルニ付「茲送致」ト改メラレ度シ
(ロ)貴電第九二三号「ノ末段ニ閑シ支那側ヨリ來翰送付ノ際ハ之ニ予メ我方ノ同意ヲ経タル新税率表ヲ添付セシムヘキコト新税率表ハ十日午後接到目下取急查閱中
一一、貴電第九二七号我方往翰案中ニヶ所「税則」トアルモ日本語トシテハ不適當ニ付何レモ「税率」ト改メ又「施行セラルヘキ旨」ヲ「施行致度キ旨」ト改メ「此段」ノ次ニ「帝国政府ノ命ニヨリ」ヲ挿入アリ度右以外ハ其儘承認ス

尚貴電第九三一号ニ付先方來翰ニ付テハ支那側希望通セラレ異議無シ又往翰ハ前例モアル當分ノ名称ハ單ニ「日本帝国臨時代理公使云々」トシテ「中華民国駐劄」ヲ削除スルコトトシ宛名ハ「支那共和国々民政府財政部長云々」トスルコトト致度シ尤モ先方カ強イテ希望スルニ於テハ宛名ニ付テハ「中華民国」ノ字句ヲ使用セラレ差支ナシ又新税率ハ関係各国ノ一切ノ貨物ニ対シ均シク

適用セラルヘク(陸境關稅制度ハ之ヲ維持スルコト勿論ナリ)且実施期日以後ハ右期日以前ノ積出ニ係ル貨物タルト然ラサル貨物タルトヲ間ハス例外ナク適用セラルモノナルコト当然ナルニ付右ハ宋ニ於テ異議ナカルヘシト察セラルモ為念明確ニ打合セ置アリ度シ
二、貴電第九二八号機密文書案ハ左ノ通り訂正アリ度シ
(イ)冒頭くwith reference to the new Chinese Import Customs tariff intended to be enforced on and after the date of February 1st, 1929, the following points have been 以テ貴電ノ通トス
(ロ)第一号二ヶ年以内ニハ釐金及抵代稅廃止ノ約束ヲ取付クルコトハ我方ノ重要視スル處ニシテ新税率実施ニ付関係各省ノ合意ヲ取付クル上ニモ必要ナルニ付此上共我方主張貫徹方御尽力ノ上結果電報アリタシ
(ハ)第二号beingハ不必要ナルノミナラス支那側限リニテ将来変更ヲ加フルコトヲ予想スル如キ嫌アルニ付削除セラレタシ
(イ)前記(ハ)ハ輕微ナル修正ニテ宋ニ於テモ強テ異議ナカルヘシト察セラル故其含ニテ可然御交渉アリタシ

669

昭和3年12月11日 在上海矢田總領事より

別電一 外務大臣宛(電報)

新税率実施に関する交換公文案につき請訓

新税率実施に関する中国側照会文案案訳文

新税率実施に関する照会に対し我が方回答

外務大臣宛第九四二号

821

820

文案

上 海 12月11日後発
本 省 12月12日前着

⁽¹⁾ 第九三九号（至急、極秘）
（六六文書）
往電第九二三号ニ閲シ

次回宋ト会見ノ折ハ新税率実施ニ関スル公文案別電第九四号及第九四二号ノ通修正方提議然ルヘキヤ尤モ

一、来翰案中

(1)「定於……实行。」（施行致スヘク）ハ其ノ儘承認シ差支無シトノ御訓令ナルモ往翰案修正ニ関連シ一応右別電ノ通提案シ見ル所存ナリ

(2)「此段国民政府ヲ代表シ」ノ一句挿入ハ往翰案「此段帝国政府ノ命ニ依リ」ト対応セシメタル次第ナリ

尚往電第九二四号前段ハ「茲送致」ニテ「前送致」ハ電文

ノ誤ナリ

二、(1)宛名ニ「支那共和国」ナル字句使用方ニ付テハ既ニ數々言及シ到底承認ヲ得ル見込ナキモ今一応主張シ見ルヘク已ムヲ得サル場合ハ貴電御来示ノ次第モアリ右別電ノ通国名ヲ全然削除スルコト致シタシ

(別電)

上 海 12月11日後発
本 省 12月12日前着

第九四一号（極秘）

(來翰案訳文)

北京、南京へ転電セリ

（別電）

国民政府財政部長 宋子文殿
北京、南京へ転電セリ

670 昭和3年12月12日 田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛（電報）

新税率実施に関する交換公文案の提議につい

て

本 省 12月12日発

* 第三六六号

貴電第九三九号ニ閲シ

新税率実施ニ関スル公文案貴電第九四〇号及第九四二号ノ通り提議方異議ナシ尤モ

一、貴電第九三九号ノニ付「擬定……实行」ハ先方力

強テ主張スルニ於テハ原案通り「定於……实行」トセラレ差支ナク又「代表国民政府」ノ字句ハ單ニ往翰「此段帝國政府ノ命ニヨリ」ト対応セシムル為ノミナラス往電第三六二号(イ)申進ノ事情モアリ挿入方主張アリ度

二、貴電第九三九号ノニ付(イ)貴見ノ通り国名全然削除スルコト望マシキモ往翰中ノ先方宛名ハ往電第三六二号(イ)

(往翰案)

以書翰啓上致候陳者 月 日付以書翰中華民国海關輸入税率ヲ御送付相成右税率ハ中華民国十八年二月一日ヨリ施行致度旨御申越ノ趣了承致候此段帝國政府ノ命ニ依リ照復得貴意候 敬具

昭和 年 月 日

日本帝國臨時代理公使 堀 義貴

第九四二号（至急、極秘）

上 海 12月11日後発
本 省 12月12日前着

(別電)

第三六六号

貴電第九三九号ニ閲シ

新税率実施ニ関スル公文案貴電第九四〇号及第九四二号ノ通り提議方異議ナシ尤モ

一、貴電第九三九号ノニ付「擬定……实行」ハ先方力

強テ主張スルニ於テハ原案通り「定於……实行」トセラレ差支ナク又「代表国民政府」ノ字句ハ單ニ往翰「此段帝國政府ノ命ニヨリ」ト対応セシムル為ノミナラス往電第三六二号(イ)申進ノ事情モアリ挿入方主張アリ度

二、貴電第九三九号ノニ付(イ)貴見ノ通り国名全然削除スルコト望マシキモ往翰中ノ先方宛名ハ往電第三六二号(イ)

中段申進ノ通り「中華民国」ノ字句ヲ使用スルコトス
ルモ差支ナシ(口)「施行致度」ハ仮令支那側來翰中ノ「定
於……实行」ヲ其儘承認スル場合ト雖モ往翰ニ關スル限
リハ我方主張貫徹方極力尽力アリ度シ(口)尚「月日付以書
翰」ハ「月 日付書翰ヲ以テ」ト改メラレ度シ

三、貴信第一〇六五号新税率ニ付テハ目下研究中ナル處貴
電(六六六文書)第九二三号(口)末段御来示ノ税率ハ既ニ御入手ト思考ス
ルモ右ハ御送付済ノ分ト異リ純然タル税率表ニシテ單ニ
稅番・品目・單位及税率(現行税率ト付加税ヲ加算シ
タルモノ)ノミヲ記入シタルモノトシテ備考付属章程ハ
付記セサルモノト思考セラルモ當分至急研究ノ必要ア
ルニ付既ニ送付済分ト異ル点折返シ回電アリ度シ

北京ニ轉電セリ南京ニ轉電アリ度シ

671 昭和3年12月12日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

債務整理問題に関する公文案および宣言案に
つき請訓

別 電一 十二月十一日付在上海矢田總領事より田中

令ノ次第モアリ別電第九四五号及第九四六号ノ案文ヲ提議
シ極力我方主張ノ貫徹ニ努力致スヘン(右案文ハ字句稍々
曖昧ナルモ右宋ハ立場ヲ顧慮シ出来得ル限り先方ノ同意ヲ
取付ケ易キ様留意シタル次第ナリ)尤モ右ニテ到底妥協ノ
見込無ク商議決裂ノ外無シト認メラル場合ニハ万已ムヲ
得ス別電第九四八号ノ通宣言案(例へハ日米條約付属ノ移
民取締ニ關スル宣言ノ例ニ依ル)ヲ提案シ速ニ本件ノ解決
ヲ計ル方得策ナリト存セラルニ付テハ右二案ニ対スル御
意向十三日朝迄ニ御回訓相成様致度シ

北京、南京へ轉電セリ

(別 電一)

上 海 12月11日後発

本 省 12月11日後着

第九四六号(至急、極秘)
(來翰案訳文)

以書翰啓上致候陳者中華民国十八年二月一日以後輸入新稅
率ヲ施行スルコトニ關連シ本部長ハ国民政府ヲ代表シ茲ニ
貴代理公使ニ対シ左ノ通提議致候

外務大臣宛第九四六号

債務整理に関する公文案訳文

十二月十一日付在上海矢田總領事より田中
外務大臣宛第九四九号

債務整理に関する宣言案訳文

十二月十一日付在上海矢田總領事より田中
外務大臣宛第九四七号

債務整理に関する公文に対する我が方回答
案

第九四四号(至急、極秘)
貴電第三六一号ニ閑シ

宋ハ債務整理ノ案文ヲ交換公文ノ形式トスルコトハ仮令稅
率ノ分トハ別ノ公文トスルモ如何ニモ新税率実施ノ条件ト
シテ債務整理ヲ日本ヨリ強制セラレタルカ如キ印象ヲ与ヘ
宋ノ立場ヲ困難トスルカ故ニ自發のニ声明ノ形トシテ公表
シタキ旨頑強ニ主張シ居ルニ顧ミ本件公文交換ニ同意セシ
ムルコトハ頗ル困難ナリト認メラルモ右貴電ヲ以テ御訓
シ

右照會得貴意候 敬具

中華民国十七年 月 日
日本帝国臨時代理公使 堀 義貴殿
北京、南京へ轉電セリ

(別 電二)

上 海 12月11日後発

本 省 12月11日後着

第九四七号(至急、極秘)

(往翰案)

以書翰啓上致候陳者中華民国十八年二月一日以後輸入新稅
率ヲ施行スルコトニ關連シ本部長ハ国民政府ヲ代表シ茲ニ
貴代理公使ニ対シ左ノ通提議ノ

次第有之候

国民政府ハ無担保及不確実担保ノ債務ヲ整理スル為（以下考慮ヲ加フヘシ迄來翰案ノ通）」

本使ハ茲ニ日本帝国政府ノ命ニ依リ右ノ次第諒承ノ旨回答致候

（以下債務整理ニ関スル案文挿入）
 中華民国十七年十二月 日
 中華民国国民政府財政部長 宋子文

北京、南京へ転電セリ

敬具

昭和三年 月 日
 日本帝国臨時代理公使 堀 義貴
 国民政府財政部長 宋子文殿

北京、南京へ転電セリ

672 昭和3年12月16日 在上海矢田總領事より
 田中外務大臣宛（電報）

新税率実施ならびに債務整理に関する交換公文および秘密協定案につき宋子文と協議について

いて

（別 電三）
 上 海 12月11日後発
 本 省 12月12日前着

上 海 12月16日前発
 本 省 12月16日前着

第九四九号（至急、極秘）

（宣言案訳文）

中華民国十八年二月一日以後輸入新税率ヲ施行スルコトニ
 関連シ下名ハ国民政府ヲ代表シ左ノ通宣言（又ハ声明）ス
 ルノ光榮ヲ有ス

宋子文十五日朝来滬シタルニ依リ午後三時会見ノ上
 (1) 第九六〇号（至急、極秘）
(六七八文書)
 貴電第三六六号ニ関シ

宋子文十五日朝来滬シタルニ依リ午後三時会見ノ上
 (1) 新税率実施ニ関スル來翰案往電第九四〇号ノ通提議シ貴
(六七八文書)
 電第三六二号ノ趣旨ニ依リ我方修正ノ理由ヲ説明シ説得
 ニ努メタル結果宋ハ「擬定……实行」ノ一句ヲ除キ我
 方提案通承認シタルモ「擬」ノ一字插入ニ付テハ日本ノ

同意ヲ求ムル趣旨余リニ明瞭トナルヲ以テ應諾シ難シ日
 本語ニ訳ス際都合好キ様翻訳セラレタントテ強硬ニ反対
 シタルヲ以テ「擬」ハ單ニ^{ミサカ}又ハ^{ミヨ}ノ意味ニテ此ノ
 一字ヲ插入スルト否トニ依リ公文ノ趣旨ニ大ナル影響ア
 リトハ認メラレス然ルニ日本文ニ訳スル際ハ此ノ一字ノ
 有無ニ依リ文意ニ大ナル影響アルヲ以テ此ノ一字丈ハ如
 何ニスルモ削除シ難シトテ本官モ右存置方固執シタル処
 宋ハ実ハ先日床次氏一行來寧ノ際反日運動起リ突如王部
 長官邸ノ襲撃トナリタルコトハ貴官モ御承知ノ通ナルカ
 若シ日本接近ノ理由ニ依リ襲撃セムトセハ日支交渉ヲ停
 賴セシメタル王部長ヲ目標トスル筈ナク寧ロ其ノ後モ尚
 貴官ト交渉ヲ継続シツツアル自分ヲ槍玉ニ挙クヘキ道理
 ナリ

シ置キ次ニ

(2) 往電第九四二号ノ往翰案及第九四三号ノ訳文ヲ示シタル
 処宋ハ來翰案ト同様全部同意シタルモ訳文「擬」ノ一字

ニハ同意セス依テ本官ハ訳文ハ支那側ニテ如何様ニモ作
 製セラレタシ只我方トシテハ本文ノ往翰案ヲ其ノ儘承認
 セラルレハ可ナリト述ヘタルニ宋ハ日本文ニ付テハ知識
 ナキヲ以テ確答シ得サルカ若シ日本文カ「擬定……實
 行」ノ意味ヲ明瞭ニ表シ居ルニ於テハ

問題アリ今次ハ外交問題ヲ持チ出シ依然日本ト交渉ヲ繼
 続シツツアル自分ヲ攻撃セムトシタルモ政府部内ニ於ケ
 ル自分ノ地位強固ナルニ顧ミ一転シテ王部長ニ向ヒタル
 モノニテ閣僚中ニモ自分等ニ対スル反対派アリ前回ノ案
 然ルニ自分ノ見ル處ニテハ右暴動ハ表面ハ排日ヲ標榜ス
 ルモ実ハ広西派ノ蔣介石派ニ対スル挑戦ニテ曩ニハ阿片

筈ナリト一蹴シ去リ仮令來翰案ニ於テ「定於……實行」トスト仮定スルモ我方往翰ニテ実行致シタキ旨云々ト述フルハ日本ノ勝手ニテ貴方カ彼是云フノ必要ナキニ非スヤト突込ミタルニ回答ニ「擬定……實行」ノ文句使用セラレ居ルヲ其ノ儘受領セハ国民政府カ日本側ノ解釈ヲ默認シタル形トナルヘク夫レニテハ民衆モ承知セス自分ノ襲撃ヲ企図スヘキハ勿論政府内部ノ同意ヲ得ル望モナシトテ頑トシテ応セス是亦未決ノ儘話頭ヲ転シ

(三) 往電第九四五号及^{(六七)文書別電}第六号ノ債務整理ニ関スル交換公文案ヲ示シタル處債務整理ニ付テハ声明ノ形式トシタシ交換公文ニテハ如何ニモ日本ニ強要セラレタル様ニテ一般ニ対スル思惑モアリ同意シ難シトテ是亦強硬ニ反対シタルカ本官ハ一方の声明ニテハ貴方ニ於テ何時又一方的ニ廃棄シ得ヘシ等言ヒ出サストモ限ラス從テ我方ニテハ双務的ノ約束トスル形式ニセムコトヲ前提条件トシ居ル次第ナレハ

(4) 一方的声明案ニハ同意シ難シトテ百方説得ニ努メタル結果宋モ遂ニ折レ然ラハ交換公文ノ形式ヲ採用スルコトトシ只日本ヨリ強要セラレタルモノニ非サル風ヲ粧ハシメ

タルカ夫レニテハ新税率実施ニ對スル日本ノ同意ヲ得ル為ノ条件トシテ債務整理ニ関スル決議ヲ為シタル様取ラレ政府攻撃ノ材料ニ供セラルルヲ以テ同意シ難シトテ受付ケス条件ト見ラル恨ナキ事理ヲ述ヘテ説得ニ努メタルモ遂ニ首肯セス

次ニ「左ノ通議決致候」ニテハ單ナル通告ニテ實行スルモノナルヤ否ヤ明カナラス且後ニ至リ別ノ議決ヲ為セハ無効トナル事モアルヘキニ付「議決シタルニ付實行スヘキ旨提議致候」ト訂正アリタキ旨主張シタルカ議決シタル以上實行スルハ勿論ナリ而モ交換公文ナレハ日支間ノ約束トナリ後ニ変更シ得サルハ當然ナリトテ之亦頑トンテ応セス此ノ儘押問答スルモ効果ナシト認メタルヲ以テ一応本件ヲ打切り次ニ

(四) ^{(六八)文書}秘密協定案ニ入り貴電^{(六八)文書}第三六二号(三)ノ(イ)ノ一句ヲ冒頭ニ挿入方提議シタル處協定案文ハ既ニ前回決定シ

673 昭和3年12月16日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)
北京、南京へ転電セリ

討議スル筈右不取敢

レニスルモ二年以内ニハ釐金廢止ヲ実行スヘシトテ却テ日本側説得ノ態度ニ出テタルヲ以テ枢密院ニ對スル説明ノ關係モアリ此ノ際廢止ノ時期ヲ明示スルニアラスマムハ政府ニ於テ同意スルモ或ハ枢密院ノ拒否スル処トナル虞アリトテ執拗ニ我方提案ヲ固執シ宋モ時期ハ明示シ難シノ一点張ニテ押問答トナリ説明カサルニ依リ本官ハ已ムヲ得ス若シ秘密協定ニ二年内ニ釐金ヲ廢止スル旨明記スルニ於テハ新税率実施ニ關スル來翰案丈ハ「定於……實行」トシ「擬」一字削除ニ同意スヘシト述ヘタル処宋ハ兎モ角直ニ南京ニ電報シ回訓ヲ仰ク事トスヘシト申出テタルヲ以テ之ニテ本件ハ一応打切りタリ

尚明十六日午後三時再度會見債務整理ニ關スル公文案案ニ付

ムカ為国民政府カ議決シタル旨ヲ通知スルコトトシ度シトテ別電第九六一号及第九六三号ノ如キ案文ヲ示シタリ依テ本官ハ先ソ原案(往電第九四六号)通債務整理ハ新税率ノ実施ニ関連シ決定セル旨明カニスル一句挿入方主張シタルカ夫レニテハ新税率実施ニ對スル日本ノ同意ヲ得ル為ノ条件トシテ債務整理ニ關スル決議ヲ為シタル様取ラレ政府攻撃ノ材料ニ供セラルルヲ以テ同意シ難シトテ受付ケス条件ト見ラル恨ナキ事理ヲ述ヘテ説得ニ努メタルモ遂ニ首肯セス

次ニ「左ノ通議決致候」ニテハ單ナル通告ニテ實行スルモノナルヤ否ヤ明カナラス且後ニ至リ別ノ議決ヲ為セハ無効トナル事モアルヘキニ付「議決シタルニ付實行スヘキ旨提議致候」ト訂正アリタキ旨主張シタルカ議決シタル以上實行スルハ勿論ナリ而モ交換公文ナレハ日支間ノ約束トナリ後ニ変更シ得サルハ當然ナリトテ之亦頑トンテ応セス此ノ儘押問答スルモ効果ナシト認メタルヲ以テ一応本件ヲ打切り次ニ

(四) ^{(六八)文書}秘密協定案ニ入り貴電^{(六八)文書}第三六二号(三)ノ(イ)ノ一句ヲ冒頭ニ挿入方提議シタル處協定案文ハ既ニ前回決定シ

ニ於テ右議決ヲ切実ニ実行スルノ用意アル旨此段照会得
意候

中華民国十七年月日

日本帝国臨時代理公使 堀 義貴殿

国民政府財政部長 宋子文

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

堀代理公使宛公文には王外交部長が署名した
い旨の申入れについて

上 海 12月17日後発

本 省 12月17日後着

第九七二号（至急、極秘）

南京領事發本官宛電報第七〇六号ニ關シ

十七日午後六時右南京領事ノ電報接到シタルヲ以テ直ニ宋
子文ヲ往訪事情ヲ質シタル処宋ハ實ハ王部長ヨリ「照会」
ナル字句ハ外交部長以外ノ者ノ使用シ得サル処ナルニ依リ
堀代理公使宛公文ニハ同部長ニ於テ署名シ度キ旨申越セル
カ自分トシテハ別ニ異議無シト述ヘタルヲ以テ本官ハ王部

交換公文案ノ修正ニ関シ前日ノ会談ニ引続キ本官ヨリ原案ノ如ク單ニ「右ノ通議決致候」「右照會得貴意候」丈ニテハ議決ノ通告丈ニテ照會ノ意味ヲ為サス別ノ議決ニテ一方のニ変更シ得ルニ非スヤトノ疑義モ起ルヘシ然ルニ議決シタル以上右ヲ實行スヘキハ當然ナルヲ以テ案文ノ形式ニ付テハ原案ノ趣旨ヲ尊重シ前段通告ノ形式ハ其ノ儘之ヲ存シ只末段ニ右議決ヲ實行スヘキ旨ノ一句ヲ插入スルコトトンテ妥協案ヲ作製セリトテ別電第九六六号（甲案）ノ如ク案文ヲ示シタルニ宋ハ首ヲ捻テ容易ニ首肯セサルヲ以テ更ニ別電第九六八号（乙案）案文ヲモ示シ乙案ノ如キハ問題トスル点ナキ次第付其ノ儘採用セラレタシ貴下ノ同意ヲ得タル上ハ直ニ政府ニ電請シ其ノ承認ヲ取付クル様致スヘシト述ヘタルニ宋ハ昨日貴下トノ会談ニ付王部長ノ意見ヲ求ムル為即夜使ヲ南京ニ派シ明朝ハ帰滬ノ筈ナルヲ以テ明日日會見ノ際爾余ノ諸点ト供ニ御返事申上クヘント挨拶シタルニ依リ其ノ意ヲ諒トシ引取リタリ

日本帝国臨時代理公使 堀 義貴殿 国民政府財政部長 宋子文
（別電二）

上 海	12月16日後発
本 省	12月17日前着

第九六九号（至急、極秘）
(來翰案乙案訳文)
以書翰啓上致候陳者……（往電第九六二号ノ通）
茲ニ本部長ハ国民政府ヲ代表シ貴代理公使ニ対シ国民政府

長カ署名スル事トナラハ「オーソリゼーション」ノ問題モ
起ラス好都合ナルカ唯我方ハ同部長ノ新税率実施ニ関スル
同文通牒ヲ返付シタル經緯アルニ顧ミ曩ニ貴下ヨリ申出テ
タルカ如ク新ニ協定セル公文ノ日付ヲモ前記同文通牒ト同
一二セん等再ヒ主張シ出サストモ限ラス然ルニ右新案文ノ
日付ハ枢密院ノ御諮詢ヲ経タル後トセサルヘカラサルハ既
ニ説明シタル通ナリ從テ若シ此ノ点ニ付王部長ノ了解ヲ得
ルニ於テハ我方ニ於テモ元ヨリ異議アル筈無シト説明シタ
ルニ宋ハ良ク了解セリ自分ハ誰カ署名スルヤノ問題ハ極メ
テ軽ク考へ居ル次第ナルカ其ノ他ノ点ニ付テモ篤ト王部長
ト協議スル必要アルニ付今晩夜行ニテ南京ニ赴キ木曜（二
十日）ニハ再ヒ帰滬スヘシ其ノ際ハ万事解決スル様希望シ
居レリト挨拶シタルニ依リ本官モ之以上ニハ言及セス其ノ
儘辞去セリ

同文通牒と同一の日付とした旨外交部より
要請について

二十日午後一時本官等中食ノ為外出中岡本領事ヨリ電話ニ

上 海 12月20日後発
本 省 12月20日後着

第九八一号（至急、極秘）
貴電第三七一号ニ閲シ

二十日午後一時本官等中食ノ為外出中岡本領事ヨリ電話ニ
テ堀代理公使宛來翰ハ王正廷ノ新税率実施ニ閔スル同文通

牒ト同一ノ日付ニ致シタキ旨外交部ヨリ申越シタル旨通知

(六七四文書)

シ来レリ右ハ往電第九七二号ヲ以テ申進メタル通り我方同

文通牒返付ニ対スル王ノ面子糊塗策ニ過キスト存セラル

ニ付右ノ如キ要求ニ対シテハ本官ハ飽ク迄反対スルコトト

詢前ニテモ差支ナキニ於テハ本件交渉妥結シ案文ニ付テモ

意見一致シタル上單ニ日付丈ヲ溯ラシムコトハ手続上不

可能ノコトニモ非サル様思考セラルニ付テハ万一路日付

ノ一点ノミニテ交渉決裂ニ瀕スルカ如キ場合ニハ先方ノ申

出ニ同意シ差支ナキヤ

宋子文ハ二十日遂ニ来滬セス多分明朝着スヘシトノコトナ
ラ王ト会談ノ機会ナカリシトハ信セラレス他方王カ此ノ際

突如本官ヲ來訪シタル様子モ甚夕腑ニ落チサル節アリ以上
ノ事実ニ基キ極メテ自然ナル想像ハ宋カ南京ニ於テ王ニ相

調印ニ忙殺セラレ今日ハ日曜ノコトトテ未タ面会ノ機会ナ
キモ尚二三日ハ上海ニ留マルヘシトノ答ナリシニ依リ然ラ

ハ宋部長ト本官ノ外ニ貴下ヲモ交ヘ三人ニテ懇談シ此ノ際

速ニ税率問題ノ解決ヲ計ルコトシテハ如何ト切出シタル
ニ夫レモ宜シカラムト応シ忽々辞去シタルカ三人会合ノ件
ハ余リ氣乗セサル様子ニ見受ケタリ
(2)以上ノ状況ヲ総合スルニ抑々宋カ南京ニ全四日モ滞在シ乍

急カサル態度ヲトルヘシ等ト宋ニ吹キ込ミタルモノナルヘ
ク他方本官ト宋トノ交渉ニ付テハ不確実担保借款承認等ノ

点ヨリ一般ノ反対モアリ殊ニ党部側ノ宋及王排斥ノ声モ漸

ク高キ折柄兩人打合ノ上態ト本官トノ会見ヲ避ケテ時日ヲ

遷延セシメ一時反対運動ノ氣ヲ抜カントシツツアルニ非ス

ヤトモ想像セラル次ニ王來訪ノ真意ニハ聊カ疑問アルモ宋

カ未タ王ニ会ハストテ本官トノ会見ヲ回避シツツアルハ取

リモ直サヌ王ノ差金ニ依ルモノト想像スレハ王ニ於テ其ノ

結果本官ノ感情ヲ害スルコトヲ考慮シ一寸様子見旁本官ニ
対スル王ノ変ラサル厚意ヲ示ス為來訪シタルモノナルヘシ

ト思考セラル

事情右ノ如クニシテ先方カ殊更交渉ノ遷延ヲ画策シツツア
ル以上当方ノミ焦慮スルモ致シ方ナキヲ以テ茲暫ク形勢ヲ
観望スルヨリ外ナカルヘシト存セラル

尤モ貴電第三七五号ヲ以テ御訓令ノ税率表修正方ニ付テハ
張関務署長モ來滬中ノコトトテ内交渉丈ニテモ致ス様試ム
ヘシ

北京、南京へ転電セリ

ルニ付次回宋ト会見ノ際ハ日付ノ問題ハ成ルヘク後廻シト
シ先ツ公文案ヲ纏ムル様努力シ右日付ニ対スル御回訓ヲ待
ツコトト致スヘキニ付何分ノ儀至急本官心得迄ニ御訓令ア
ル様致シタシ

北京、南京へ転電セリ

676 昭和3年12月24日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

国民政府側の交渉遷延策に対し我が方も暫く
形勢観望について

上 海 12月24日前発
本 省 12月24日前着

第九九一号（至急、極秘）
往電第九八六号ニ閲シ

二十二日朝王正廷來滬シタルニ依リ同日午後宋子文ニ電話
ニテ王部長ト打合ノ有無ヲ尋ネタルニ未タ面会セサルニ付
貴官トノ会見ハ明日ト致シタシ時刻等ハ何レ明日更ニ申上
クヘシトノ返事ナリシカ翌二十三日ハ夕方迄待チ倦ミタル
モ終ニ宋ヨリ何ノ音沙汰モナカリシ然ルニ六時頃ニ至リ王

677 昭和3年12月26日 在上海矢田總領事より

田中外務大臣宛(電報)

差等税率実施、債務整理問題に関する來往翰
案等に対する国民政府の確答要請について

上 海 12月26日後発

本 省 12月27日前着

第九九六号
(六七六文書)
往電 第九九一號ニ閲シ

二十三日夜周龍光來滬翌二十四日挨拶ノ為ナリトテ本官ヲ
來訪シ雑談ノ末話頭ヲ關稅問題ニ転シ新稅率実施ニ關スル
公文ハ既ニ本月五日付ニテ外交部長ヨリ芳沢公使宛ニ發送
シタルヲ以テ今更別ノ公文ヲ送ル必要ナキニ非スヤト述ヘ
タルヲ以テ本官ハ今尚外交部ニテ斯ル誤解ヲ有ストハ驚キ
入リタル事ナリ曩ニ自分カ王部長ノ同文通牒受領ヲ拒否シ
タルハ右來翰其ノモノノ形式内容ニ付宋部長トノ間ニ於テ
ヲ發送スルカ如キハ隨分亂暴ナルノミナラス若シ仮ニ本官
ニ於テ前掲同文通牒ヲ受付ケ取次タリトセンカ宋部長ト本
其ノ交渉ヲ承知シ居ル王部長カ突如横合ヨリ勝手ナル公文
ヲ發送スルカ如キハ隨分亂暴ナルノミナラス若シ仮ニ本官
ニ於テ前掲同文通牒ヲ受付ケ取次タリトセンカ宋部長ト本

官トノ交渉纏マリタル際ハ國民政府トシテ同一事件ニ就キ
内容ヲ異ニスルニ通牒ハ發シ難カルヘク自ラ窮境ニ陷
ル事トナリ更ニ問題ヲ紛糾セシムルヲ以テ是ヲ防止セント
スル考モアリ旁訓令ヲ仰カス自分限リニテ返却シタル次第
ナリ

然ルニ今又右ノ如キ經緯ヲ無視シ曩ノ同文通牒ヲ受領セヨ
等ト言ヒ出ス心理ハ到底諒解ン難シトテ詳細ニ從来ノ経過
ヲ説明シタル處周ハ實ハ王部長モ公文ノ問題ハ要スルニ小
問題ナリ山東撤兵ハ重大問題ナリト言ヒ居レリ日本政府ハ
撤兵ニ關シ何等決意シタル處アリヤト切リ出シ王カ關稅交
渉愈成立ニ近付キタルニ依リ之ヲ撤兵問題ニ引掛ケムトン
居ル意向言外ニ窺ハレタルヲ以テ本官ハ王部長トノ交渉停
頓以来日支間ノ關係ヲ曲リナリニモ保持シ居ルハ關稅交渉
ナレハ万一本件ニシテ決裂セムカ兩國ノ關係ハ急轉惡化シ
遂ニ收拾シ得サルニ至ルヤモ計ラレス其ノ際ニ於ケル日本
政府ノ断乎タル措置ニ依リ蒙ムル國民政府ノ凡ユル不利ナ
ル場合ヲ列挙シタル後國民政府ハ先ツ關稅問題ヲ解決シ其
ノ誠意ヲ示スコト絶対ノ必要ナリ尤モ我方トシテモ王部長
ノ立場ニ付テハ充分考慮シ居ル次第ナルヲ以テ若シ新稅率
ノ立場ニ付テハ充分考慮シ居ル次第ナルヲ以テ若シ新稅率

実施ニ關スル公文ヲ王部長ノ名義ニテ發送スル希望アリ其
ノ内容ハ本官宋部長間協定ノ案文其ノ儘ラ採用スヘキモ前
ノ同文通牒トノ關係モアリ日付ハ同文通牒ト同シニシタン
トノコトナラハ何トカ考慮スヘキニ付右ノ次第篤ト王部長
ニ伝達セラレタシト懇々説示シタル処周ハ好ク了解セリ王
部長ト相談ノ上御返事申上クヘシトテ辭去セルカ翌二十五
日周ハ本官官邸ヲ來訪シ昨日御話ノ次第早速王部長ニ伝ヘ
タル処

王部長モ貴官ノ誠意ヲ多トシ新稅率実施ノ公文ハ日付ハ同
文通牒ト同様十二月五日トシ王部長ヨリ堀代理公使宛トス
ヘキモ内容ハ貴官宋部長間協定ノ案文ヲ其ノ儘採用シテ速
ニ本件解決ヲ計り度希望シ居ル旨述ヘタリ當日ハ本官官邸
取込ミ居タル為余リ深入セス後刻ノ會見ヲ約シ置キタルカ
タル

二十六日午後三時周再ヒ本官官邸ヲ來訪シタルニ依リ予メ
同意シ置キタル新稅率実施ニ閲スル來往翰案債務整理ニ閲
スル來往翰(甲、乙、丙)案及英文秘密協定案ヲ示シタル

上右案文中宋ノ未タ同意ノ確答ヲ与ヘサル箇所ヲ指摘シ之
ニ對スル我方ノ主張ヲモ充分説明ノ上右ハ我方最後ノ回答
案ニシテ支那側ニ於テモ特ニ反対スヘキ理由ナク宋部長モ

678 昭和3年12月27日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

新稅率実施に関する堀代理公使宛王外交部長
公文の轉送方要請について

本 省 12月27日後発

第七七九号（至急）

本官発上海宛電報

第七二六号

本二十七日早朝外交部ヨリ周司長代理江華本王正廷ノ命ニ依ル趣ヲ以テ別電第七二七号ノ如キ新税率実施ニ関スル王正廷ヨリ堀代理公使宛公文ヲ持參シ堀代理公使ヘ転送方申出ソルト共ニ本件ニ閲シテハ既ニ周司長ト貴官トノ間ニ談合済ニテ又新聞ニハ発表セサルコトニ合意ナル旨付言セリ就テハ右公文ハ在支代理公使ヘ転送スヘキヤ何分ノ儀至急御回電アリタシ

同公文ハ本月五日付トナリ居レリ

大臣、北京へ転電セリ

679 昭和3年12月27日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

新税率実施債務整理に関する公文交換の即時

解決策につき請訓

上 海 12月27日後発
本 省 12月28日前着

ヨリモ貴ヒ受ケラル苦ナラスヤト云ヘハ言ヲ濁シテ確答ヲ与ヘサル点ヨリ察スルニ王ト宋トノ間ニハ本件ニ付既ニ何等カ蟠ヲ生シ本官カ宋ヲ捕ヘテ本件交渉ヲ進ムル以前ニ王ニ於テ新税率実施ニ関スル公文丈ハ発送シ置キタシト焦慮シ前顧周ノ電報ヲ俟タス急キ案文ヲ書上ケタルニ非スヤトモ推察セラル右ノ如ク善意ニ解スルモ既ニ宋トノ間ニ協定済ノ案文ヲ恣ニ変更シ然モ未タ我方ヨリ右案文ニ同意ノ確答ヲ与ヘサルニ任意ニ発送スルカ如キ事ヲ許容スルニ於テハ爾余ノ案文ヲ勝手ニ変更セストモ限ラス事態ヲ愈紛糾セシムヘキヲ以テ周ニ対シテハ嚴重ニ往電第九九六号末段所載ノ本官ノ説明通り既定案文ニ付テハ一字一句ノ変更ヲモ許ササル旨嚴重警告スルコトトスヘキモ此ノ際之ヲ切掛ケニ速ニ本件ノ解決ヲ計ル為今般南京領事ニ転送ヲ依頼シタル公文ノ処置ニ付テハ王ノ面子ヲモ立テ本官宋間協定ノ案文通り（但シ「財政部長宋子文」ヲ「外交部長王正廷」トス）ニ改メシメ我方往輸案ニ同意スルヲ条件トシテ右來輸ハ一応南京領事ニ於テ之ヲ保管スルコトトシ他方速ニ債務整理ニ關スル來往輸案及英文協定案ニ対スル先方ノ確答ヲ要求スルコトシテハ如何カト存セラル

第九九九号（至急、極秘）
往電第^(六七八文書)九九六号ニ閲シ

二十七日午前中本官等不在中南京領事ヨリ電話アリ外交部ヨリ再ヒ十二月五日付ノ新税率実施ニ閲スル同文通牒ヲ持テ質シタルニ周モ意外ノ面持ニテ右ハ恐ラク誤解ニ出テタルモノナルヘシ自分ハ王部長南京へ出發ノ際大急キニテ日本側ハ新税率実施ニ閲スル公文ノ日付ヲ同文通牒ト同シトスルモ異議ナキ模様ナリト話シタルニ依リ王部長ニ於テ早合点シスル措置ニ出テタルモノナルヘキカ貴官ヨリ昨二十六日御話アリタル次第ハ（往電第九九六号）昨夜直ニ南京ニ電報シ置キタルニ依リ右電報ヲ披見セハ誤解ヲ解クニ充分ナルヘキモ尚一応電報シ置クヘシト述ヘタリ

然ルニ其ノ後南京領事発本官宛電報第^(六七八文書)七二七号接到シ今回ノ公文ノ内容ハ大体本官宋間話合ノ案文ヲ取りタルモノナル事判明シタルカ尚字句ヲ变更シ居ル箇所アリ右变更ノ理由ニ付テハ惡意ニモ解セラル節ナキニアラサルカ周ハ往電第九九六号二十六日本官ヨリ手交シタル案文ノ方ハ未タ発送シ居ラス且本官カ案文ハ南京ニ於テ宋部長ノ旨の王外交部長の回答について

680 昭和3年12月28日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

新税率実施に関する公文案は一部字句修正を希望し債務整理に関する来往輸案は異議なき旨の王外交部長の回答について

第一〇〇二号
往電第九九九号ニ閲シ

二十八日午後二時上村ヲシテ周龍光ヲ往訪セシメタル処恰モ王正廷ヨリ來電アリ周ハ直ニ右電報ヲ讀上ケタルカ其ノ内容ハ

（一）二十七日岡本領事ノ許ニ持參シタル公文ハ貴官（周）ト矢田總領事トノ間ニ取極メタル案文通ナリ

（二）第二及第三ノ案文（債務整理ニ関スル來往輸案及英文取極案）ニ付テハ異議ナシ

（一）二十七日岡本領事ノ許ニ持參シタル公文ハ貴官（周）ト矢田總領事トノ間ニ取極メタル案文通ナリ

（二）第二及第三ノ案文（債務整理ニ関スル來往輸案及英文取極案）ニ付テハ異議ナシ

トノコトナリシニ依リ上村ヨリ右(一)ハ事実ト全然相違ス總領事ト宋部長間ニ取極メタル案文ヲ王部長ニ於テ其ノ儘採用シ我方ヨリ発送ニ異議ナシトノ回答ヲ与ヘタル後送付スルコトニ話合ヲ遂ケタル筈ナラスヤト述ヘタルニ貴方ノ同意ヲ得シテ発送シタルハ如何ニモ當方ノ手落ナリシカ各國ニ対シテハ既ニ悉ク新税率実施ニ関スル通牒済ナルニ付日本ノミ受理ヲ拒ミ通知漏トナリ居ルハ外交部トンテモ甚タ其ノ立場ニ窮シ居ル次第ナルニ付斯クハ性急ニ発送シタルモノナルヘク敢テ直ニ上海ニ転送セラレサルモ差支ナキニ依リ暫ク岡本領事ノ手許ニ保管スル様取扱ハレ度ク尚公文ノ字句改竄ニ付テハ自分モ心外ニ思ヒ居ル次第ナルカ惟⁽²⁾フニ矢田總領事宋部長間協定ノ來翰案ハ支那文トシテハ極メテ拙劣ニシテ質ヲ為ササルヲ以テ外交部トシテハ其ノ儘発送スルニ堪ヘス已ムヲ得ス内容ニ変更ナキ様留意シ字句丈ノ修正ヲ施シタルモノナルヘキ處又復右公文ヲ突返サレテハ外交部ノ面子モ無クナルコト故枉ケテ右ノ儘承認ヲ得ル様總領事ニ御伝ヘラ願ヒ度ク右承認ノ上ハ日本回答案ニ付テハ王部長ニ於テ文句ヲ言ハサル様説得方責任ヲ以テ御請合スヘシト述ヘ尚上村ヨリ右來電ノ第二点ニ付「イ」

在支公使、南京へ転電セリ

往電第七二六号ニ閲シ

681 昭和3年12月28日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛（電報）

新税率実施に関する王外交部長公文の修正内容について

南京 12月28日後発
本省 12月28日後着

第七八九号
本官発上海宛電報
第七三四号

債務整理ニ関スル來往翰案ニ異議ナシトハ甲案乙案ノ何レテモ良シトノ意味ナリヤト質シタルニ電文簡ニシテ判明セサルカ恐ラク宋部長カ甲案ヲ採用シ度シト云フナラ甲案ニテ差支ナク乙案ニシ度シト云フナラ夫レテモ良シトノ意ナルヘク宋部長ハ多分明日頃來滬ノ筈ナレハ自分ヨリモ直接話シ置クヘキニ付矢田總領事ヨリモ御確メ相成ル様致サレ度シト答ヘ更ニ「ロ」英文取極案ハwithin 2 yearsノ儘ニテ差支ナキ次第ナリヤト念ヲ押シタルニ王部長來電ニ依レハ其ノ儘ニテ差支ナシトノ意ニ解スルヨリ外ナシト述ヘタルヲ以テ上村ハ王部長ノ手許ニアル案文カ果シテ日本側ノ最後案即チ二十六日總領事ヨリ貴下ニ手交シタル案文（往電第九九六号甲案参考）ト同一ナリヤ否ヤ疑ハシキ節アリ右案文ハ既ニ貴下ヨリ王部長ノ許ニ郵送済ナル趣ナルニ付案文ニ誤解ナキ様今一応南京ニ電報セラレ度シト述ヘタルニ周モ承知ノ旨ヲ答ヘ尚王部長ハ多分一兩日中ニハ來滬ノ筈ナルカ併テ來滬ノ日取ヲモ確カムヘシト約束シタル趣ナリ就テハ右ニ対スル御意向本官心得迄ニ至急御回示相成様致シ度シ

御打合ニ基キ公文ハ當方ニ預リアル處本二十八日朝江華本重ネテ來訪シ周司長ヨリ來電アリタル趣ヲ以テ昨日御渡シセル代理公使宛公文ハ矢田宋子文間ニ決定セラレタル案又中ヨリ「本部長国民政府ヲ代表シ」ノ文句ヲ取リタルニ過キス右文句ヲ取除キタルハ王^{（外交カ）}交通部長ハ當然国民政府ヲ代表スルヲ以テナリ依テ速ニ北京へ該公文ヲ送致サレタシト申出テタリ

大臣、北京へ転電セリ